

Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

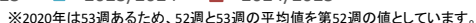
(1) インフルエンザ／COVID-19定点

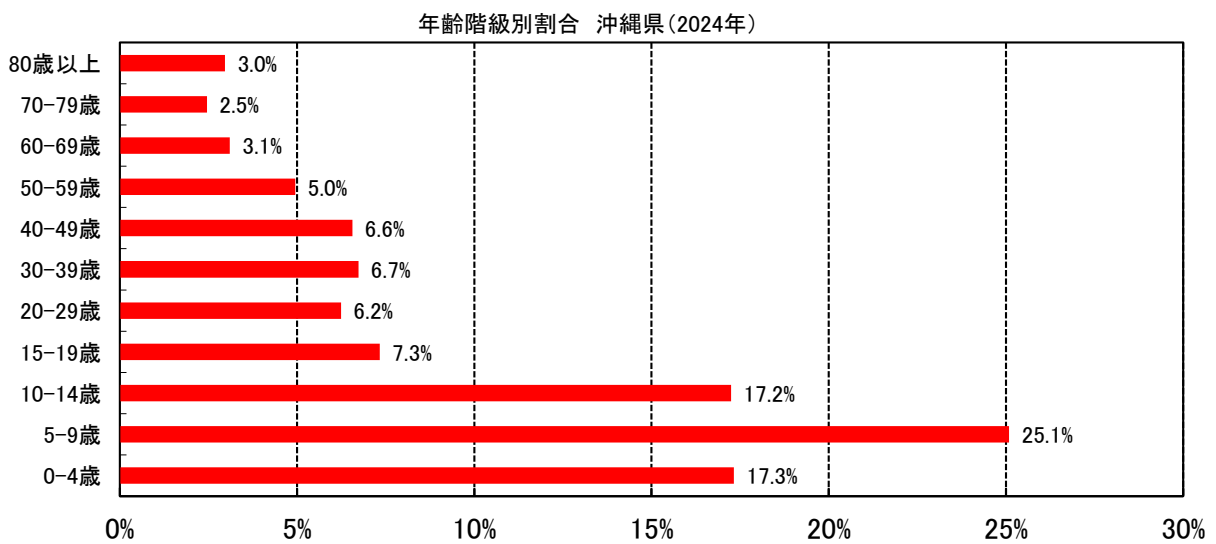
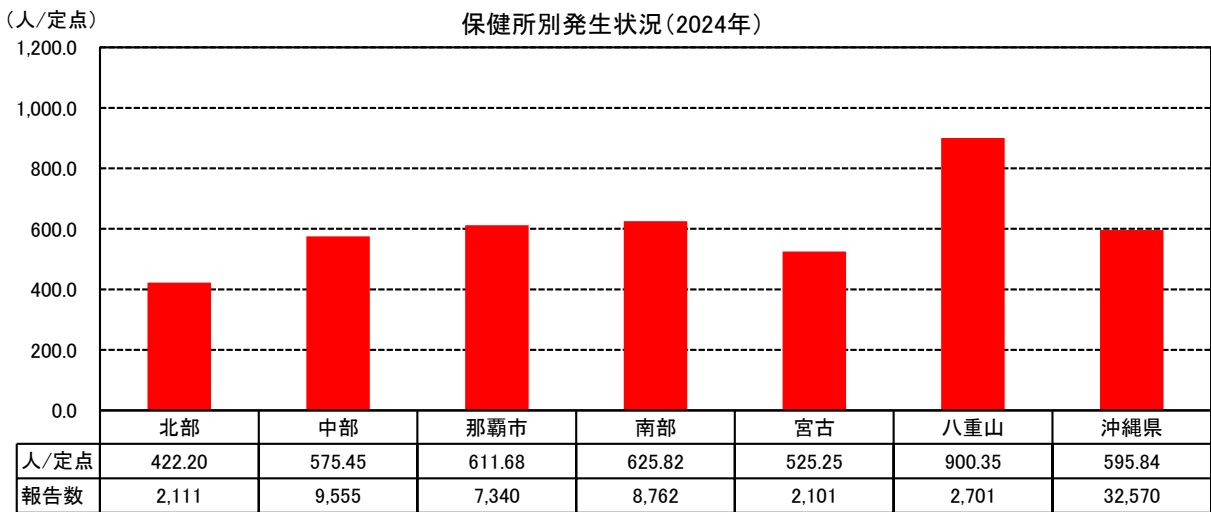
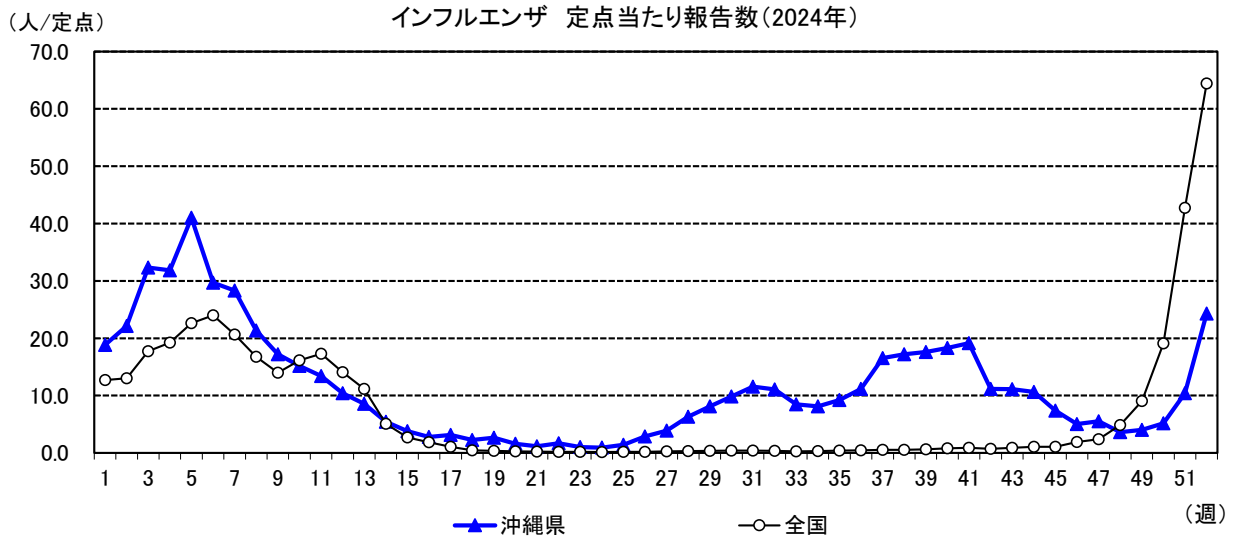
2024年、沖縄県内の報告数は32,570人、定点当たり報告数は595.84人であった。

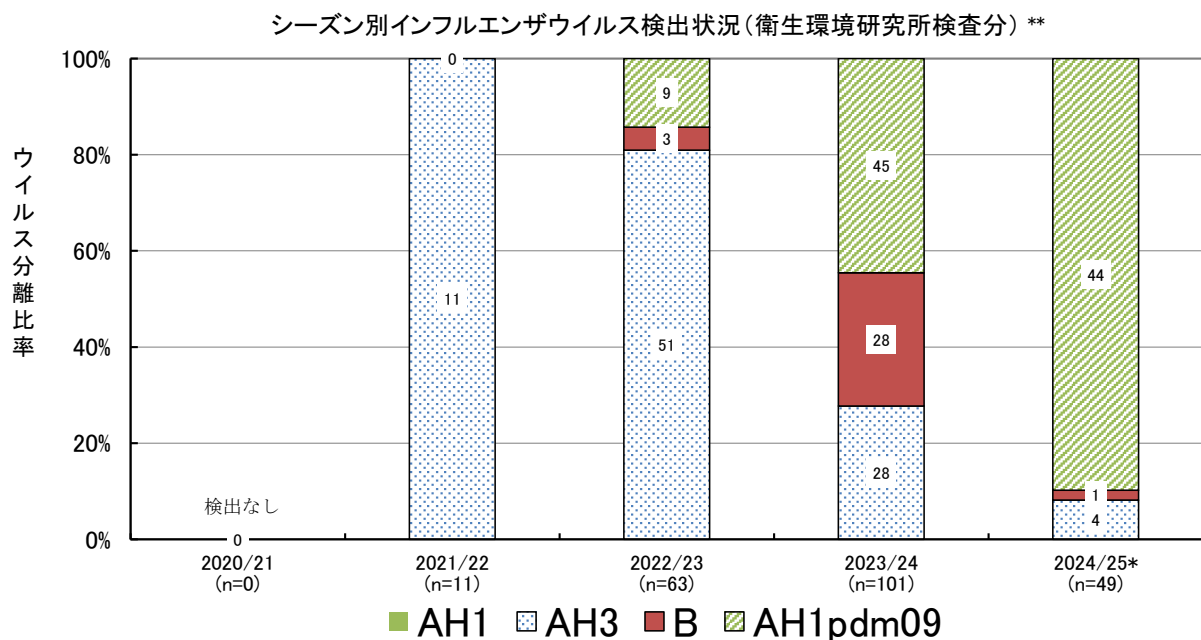
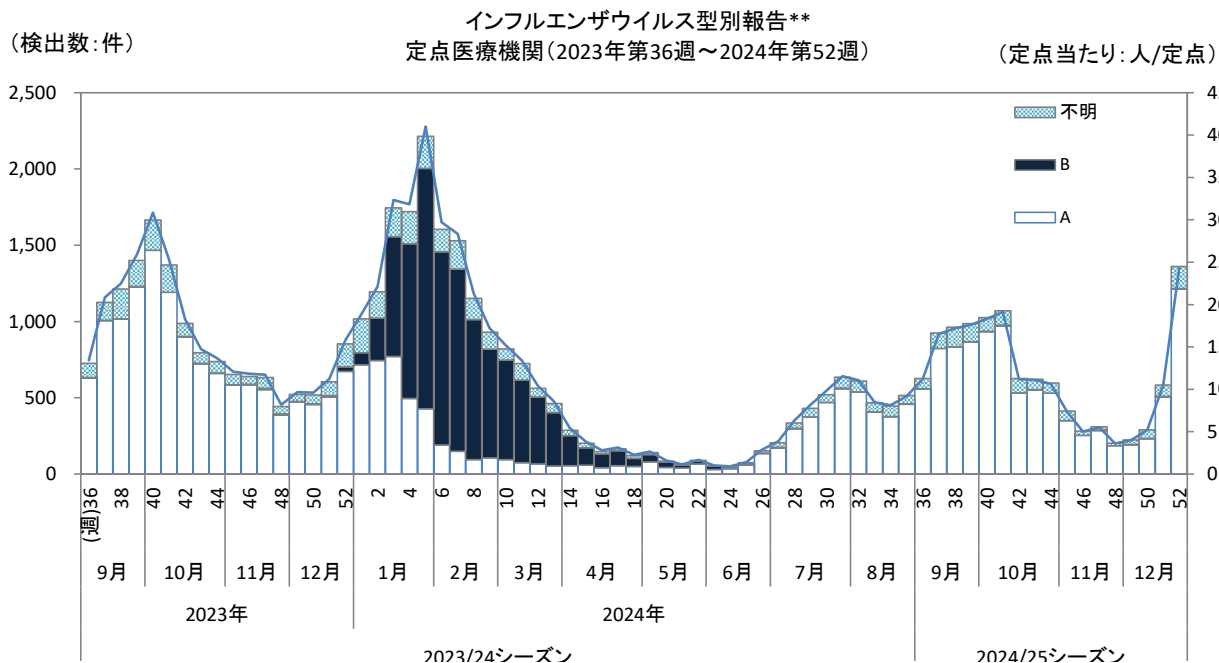
2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は36,351人、2024/25シーズン（2024年第36週～2025年第35週）の報告数は2024年第52週までで11,103人であった。

沖縄県衛生環境研究所で検出されたインフルエンザウイルスは、2023/24シーズンではAH1pdmが45例、AH3亜型が28例、B型が28例、2024/25シーズン（2024年第52週まで）ではAH1pdmが44例、AH3亜型が4例、B型が1例であった。

2024年の年齢階級別（沖縄県）では、15歳未満が全体に占める割合は59.7%と過去5年（2023年：65.8%、2022年：68.9%、2021年：37.4%、2020年：51.8%）で三番目に高かった。







シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

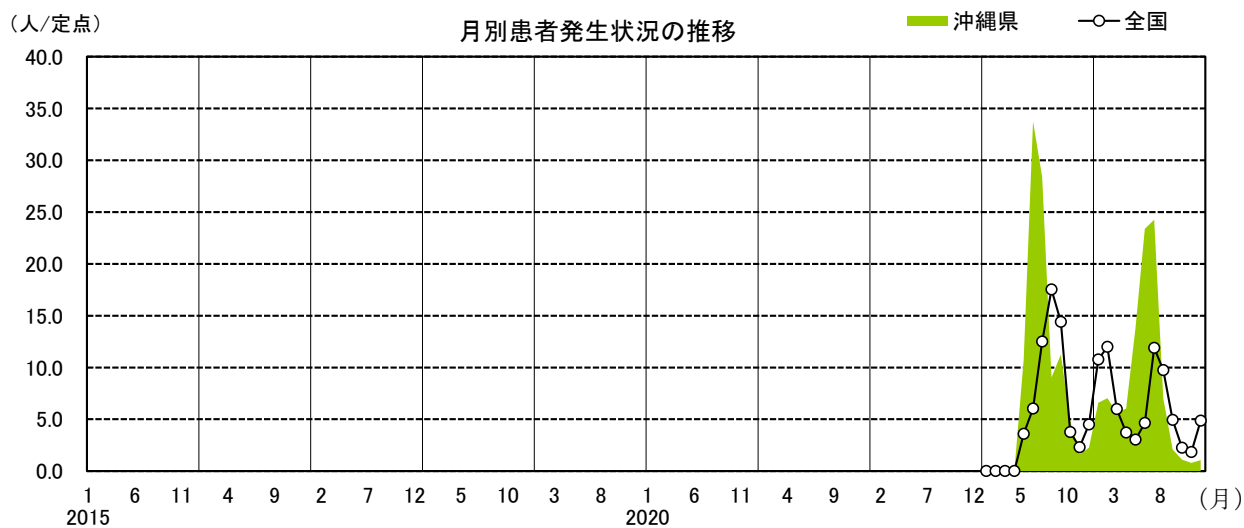
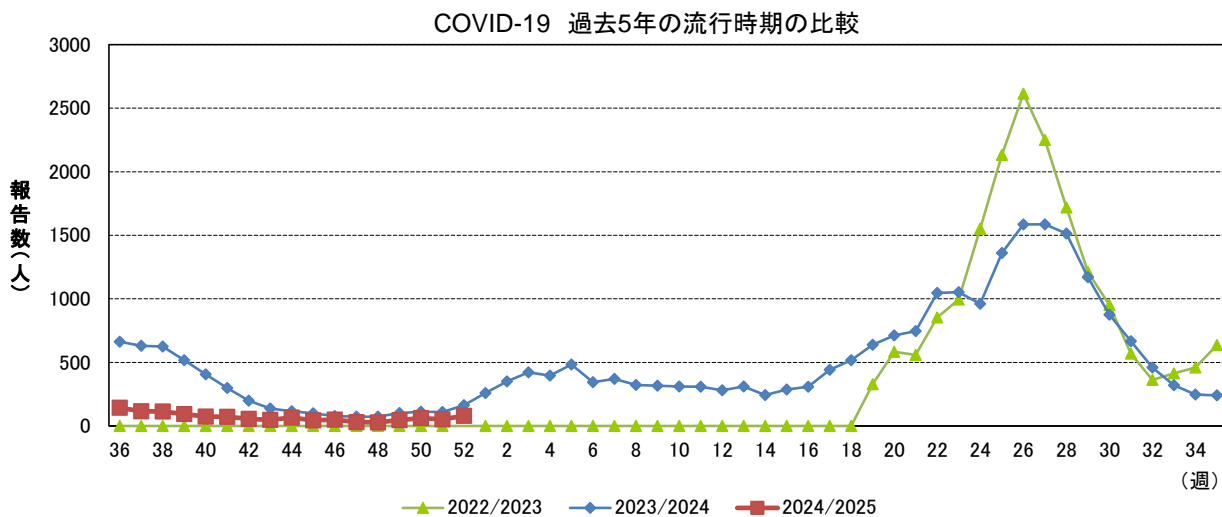
平均報告数 (2024/25)を除く	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25*
16, 117	24, 902	42	184	19, 108	36, 351	11, 103

* : 2024年第36週～第52週の集計。

** : AとBの重複感染例を含む。

●新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

2024年、沖縄県内の報告数は22,620人、定点当たり報告数は422.63人であった。2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は25,850人、2024/25シーズン（2024年第36週～2025年第35週）の報告数は2024年第52週までで1,170人であった。沖縄県の2023/24シーズンの定点当たり報告数の中央値は6.4人で、2024年第17週から32週に中央値を超える報告があった。2024/25シーズン（2024年第52週まで）の定点当たり報告数の中央値は1.1人で、2024年第36週から第41週に中央値を超える報告があった。2024年の年齢階級別（沖縄県）では80歳以上が全体の15.8%と最も多く、70-79歳が12.6%、50-59歳が11.2%と続いた。

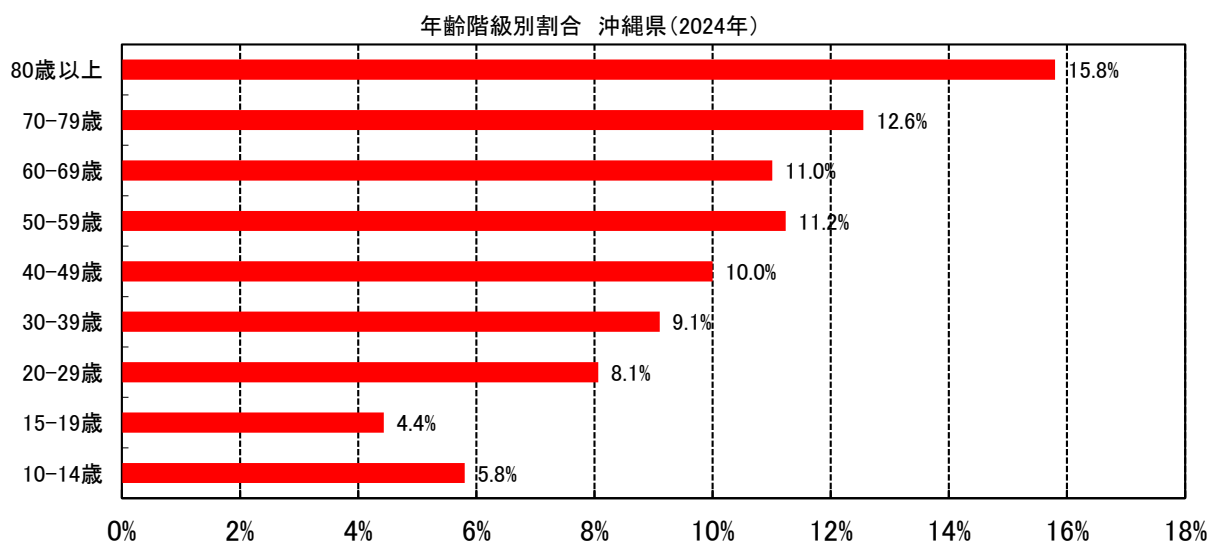
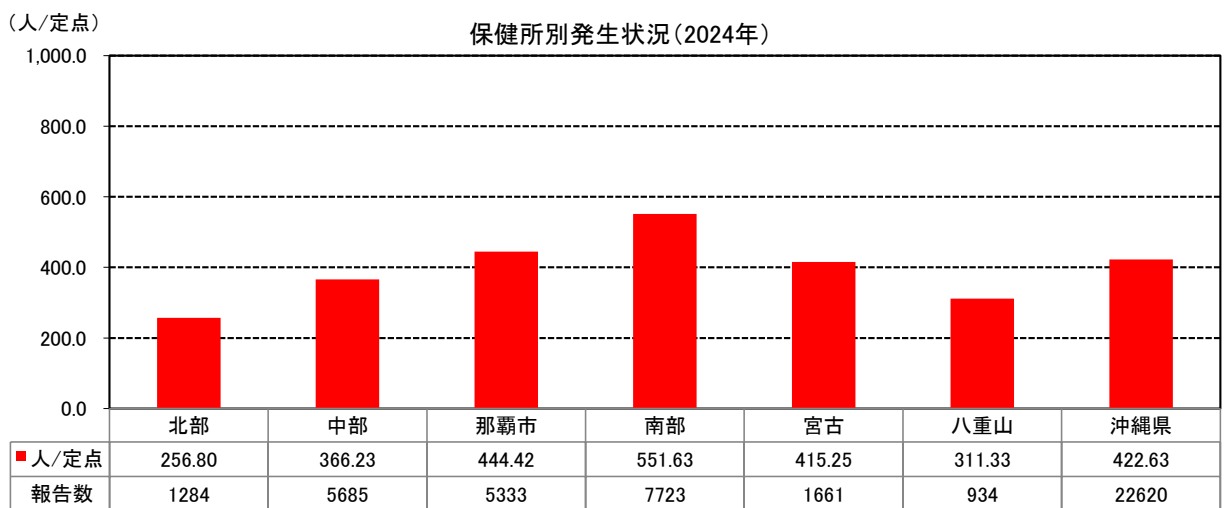
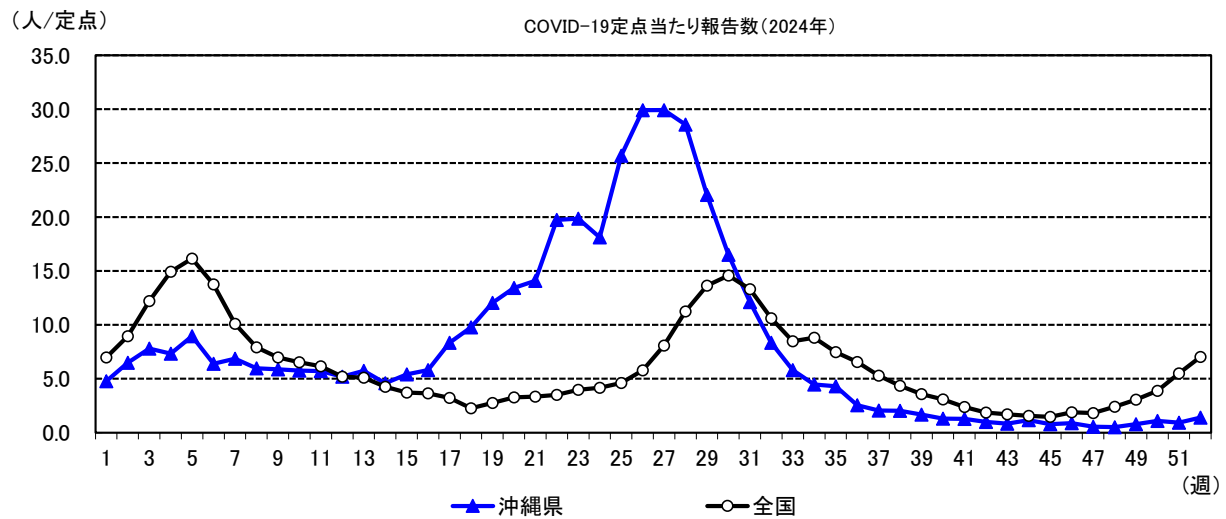


シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：COVID-19

平均報告数 (2024/25を除く)	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 *1	2023/24	2024/25*2
-	-	-	-	18,185	25,850	1,170

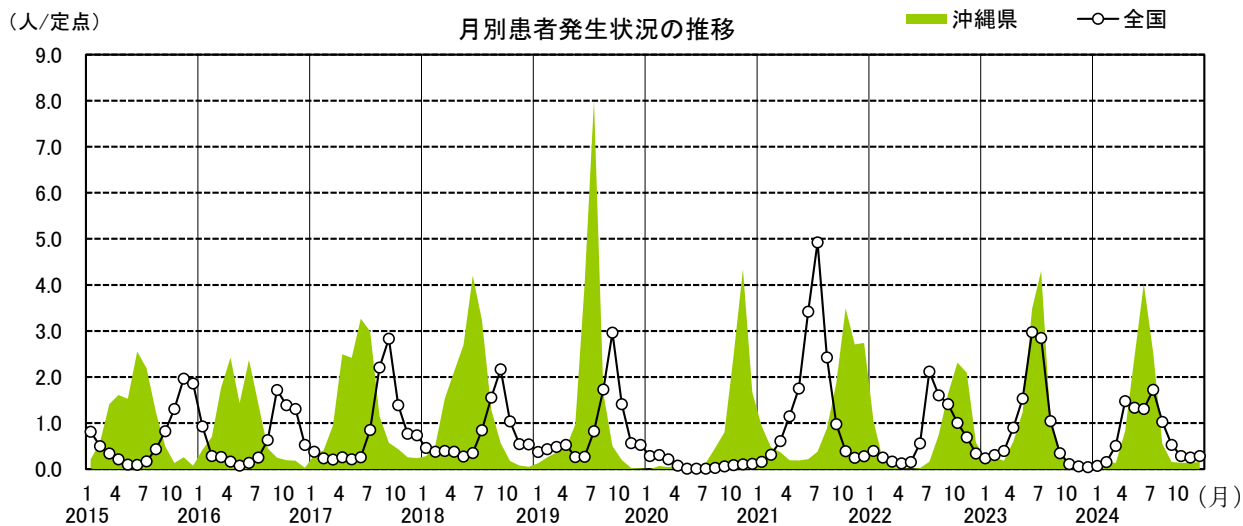
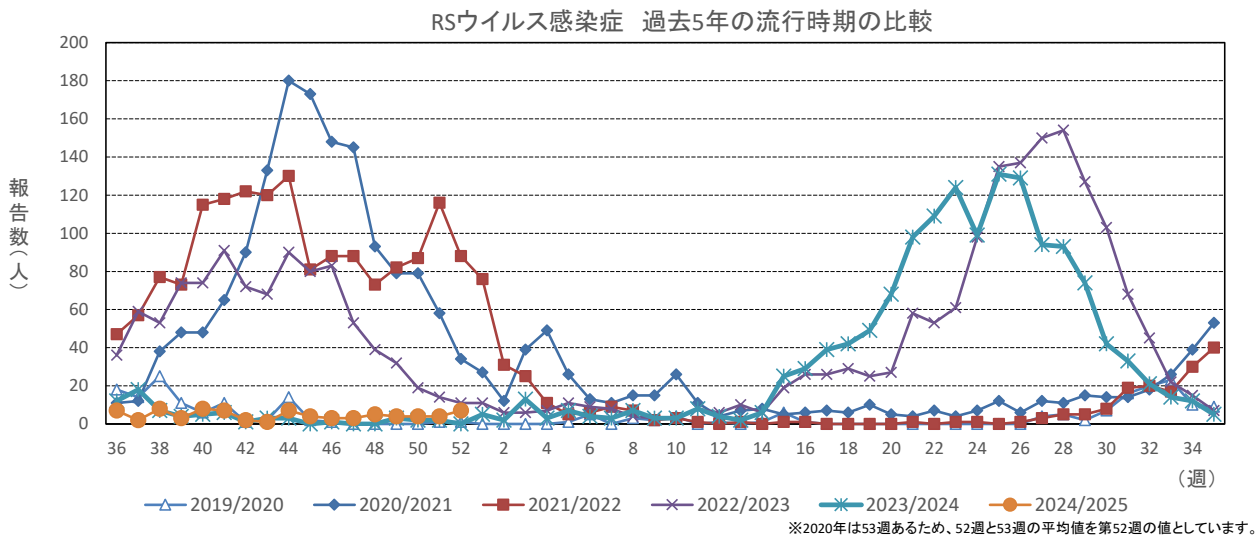
*1：2023年第19週～第35週の集計

*2：2023年第36週～第52週の集計



●RSウイルス感染症

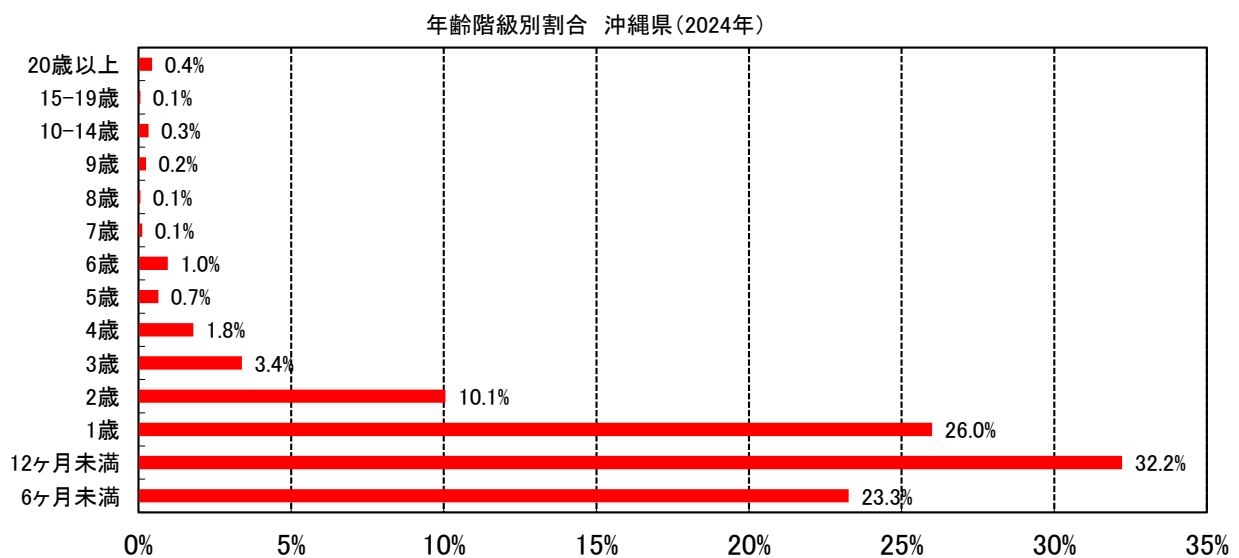
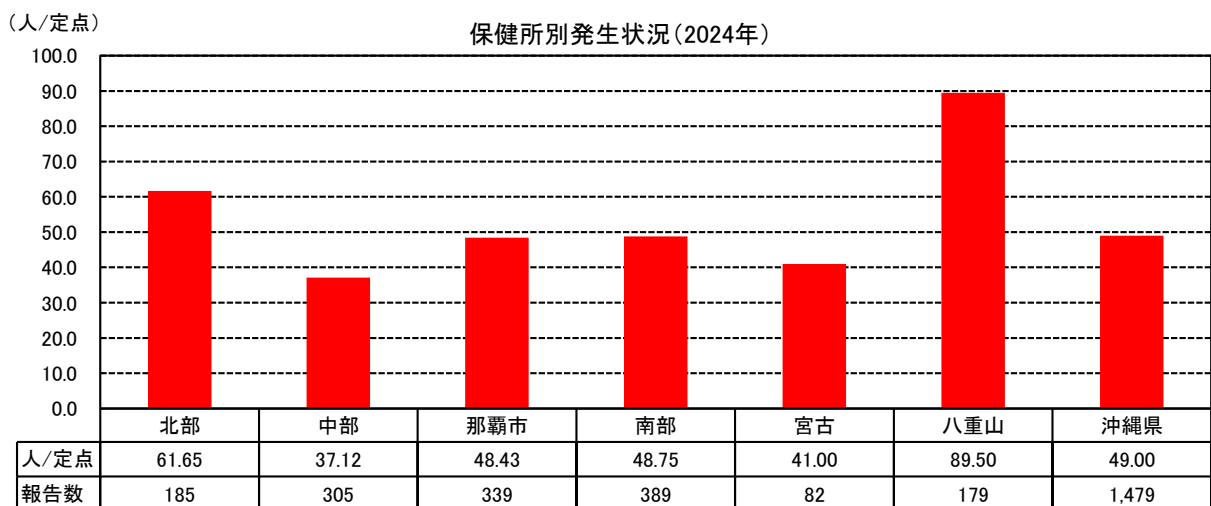
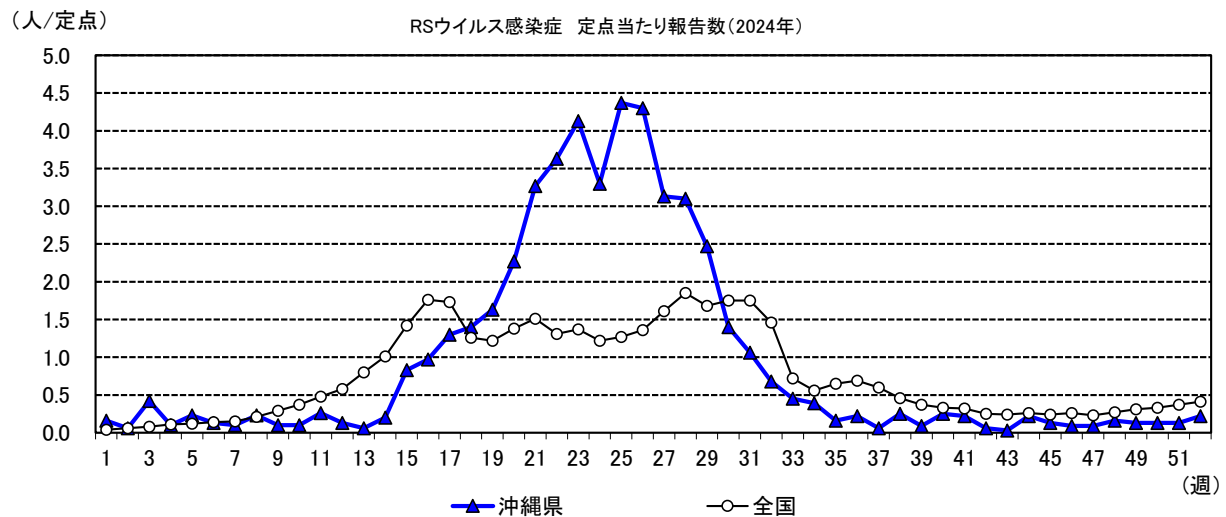
2024年、沖縄県内の報告数は1,479人、定点当たり報告数は49.00人であった。
2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は1,467人、2024/25シーズン（2024年第36週～2025年第35週）の報告数は2024年第52週までで79人であった。
沖縄県の2023/24シーズンの定点当たり報告数の中央値は0.2人で、2023年第1週から2023年第2週、2024年第15週から2024年第34週に中央値を超える報告があった。2024/25シーズン（2024年第52週まで）の定点当たり報告数の中央値は0.1人であった。
2024年の年齢階級別（沖縄県）では2歳未満が全体に占める割合は81.5%で、過去5年（2023年:81.8%、2022年76.7%：2021年:68.3%、2020年:72.8%）で2番目に高かった。



シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：RSウイルス感染症

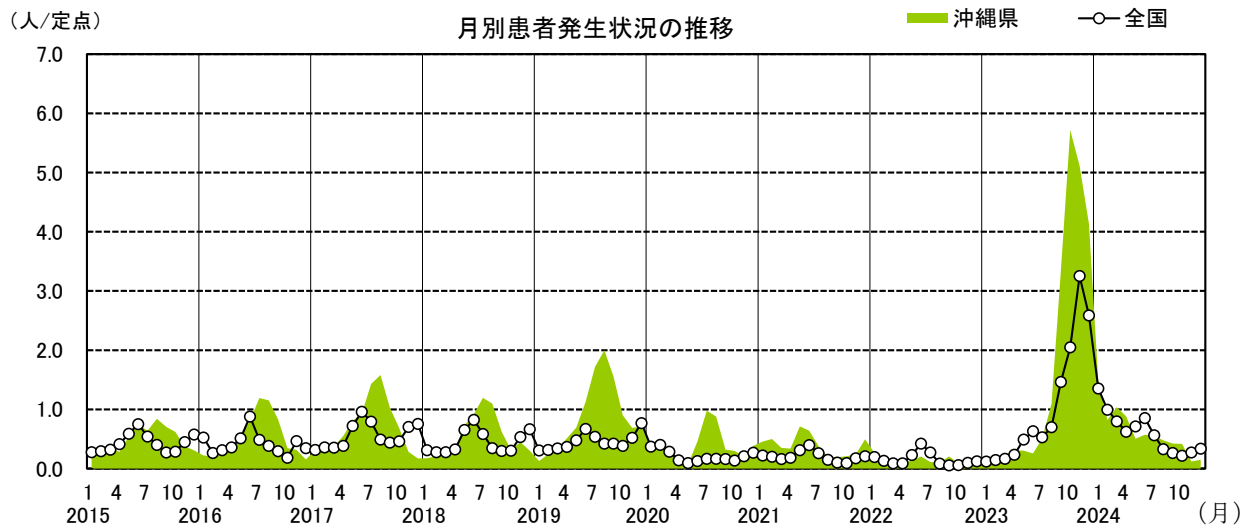
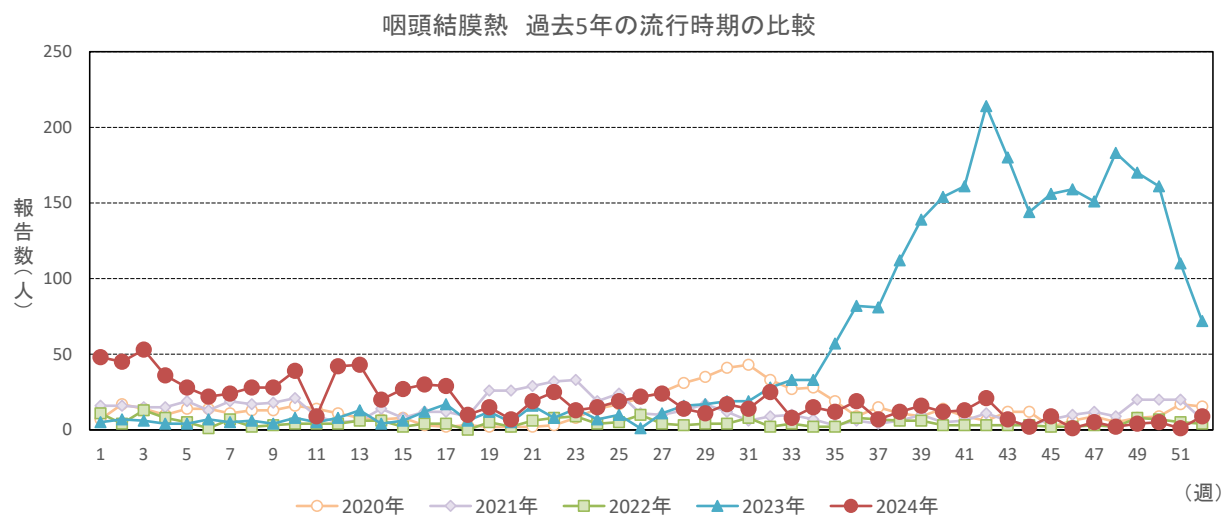
平均報告数 (2024/25を除く)	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25*
1,599	227	1,978	1,892	2,431	1,467	79

* : 2024年第36週～第52週の集計。



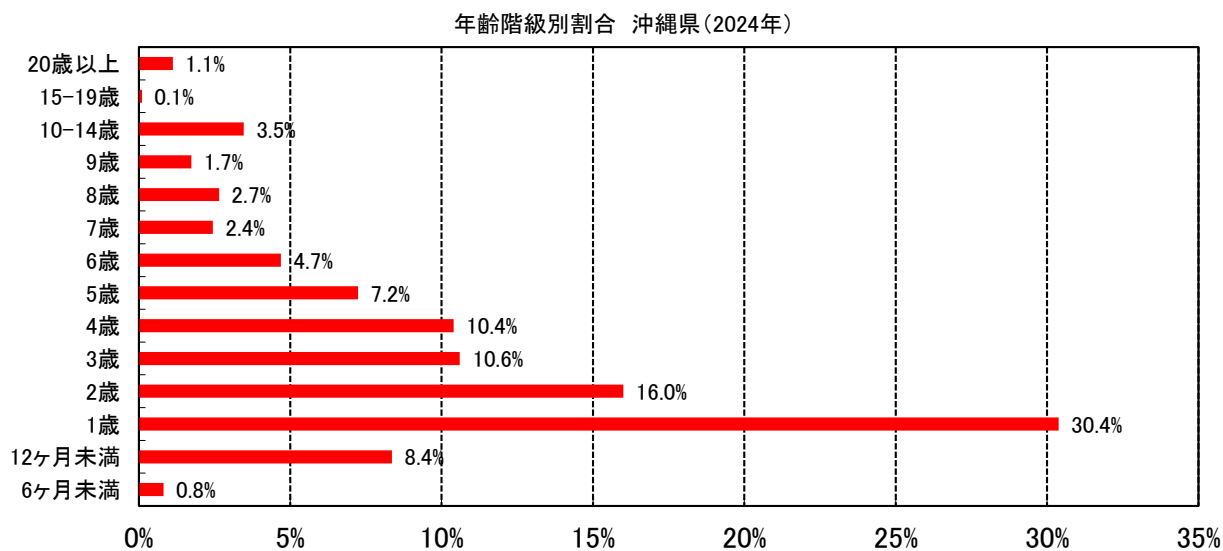
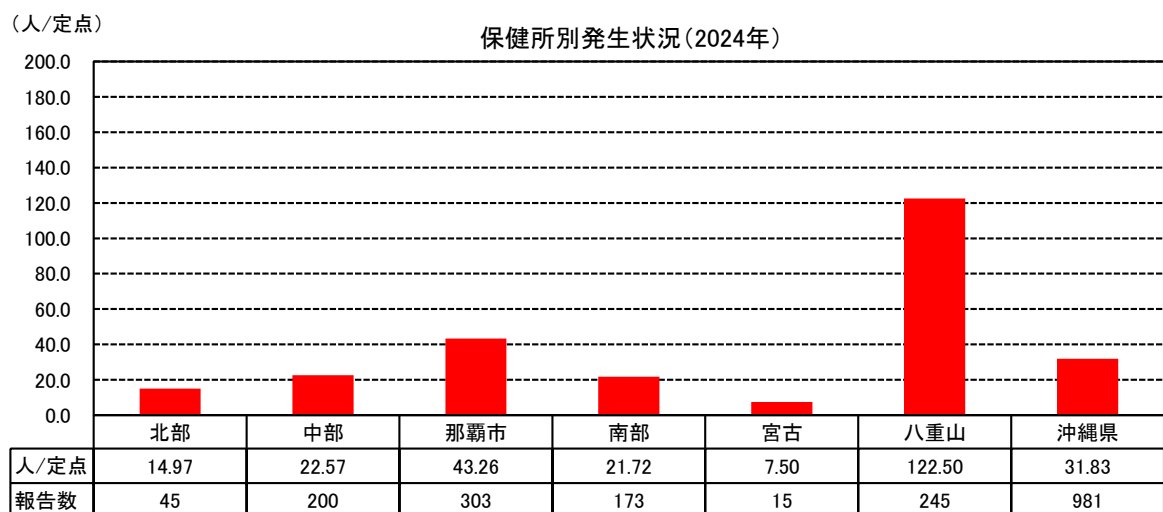
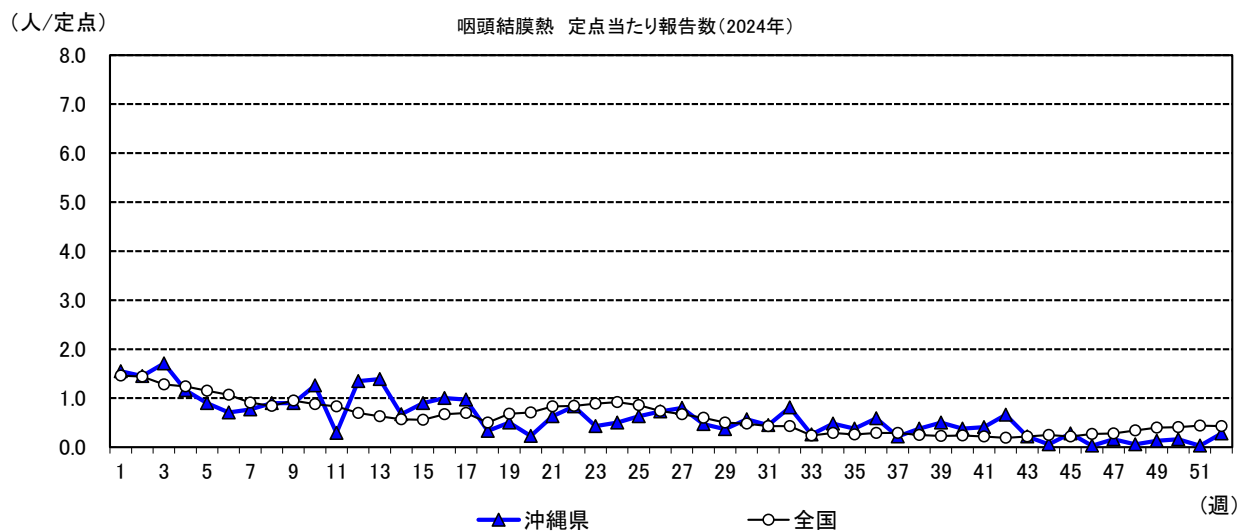
●咽頭結膜熱

2024年、沖縄県内の報告数は981人、定点当たり報告数は31.83人であった。
沖縄県では第3週の定点当たり報告数1.71人が、全国では第24週の定点当たり報告数0.43人が最多であった。
年齢階級別（沖縄県）では、1歳が最も多く、全体の30.4%を占めていた。



年別の報告数合計：咽頭結膜熱

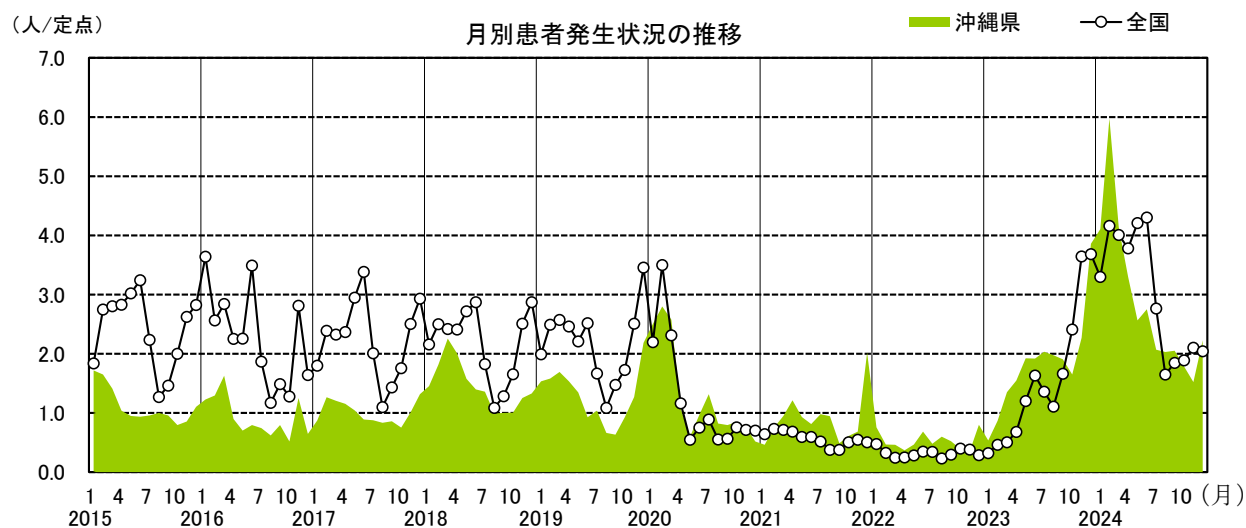
平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1,097	705	693	245	2,862	981



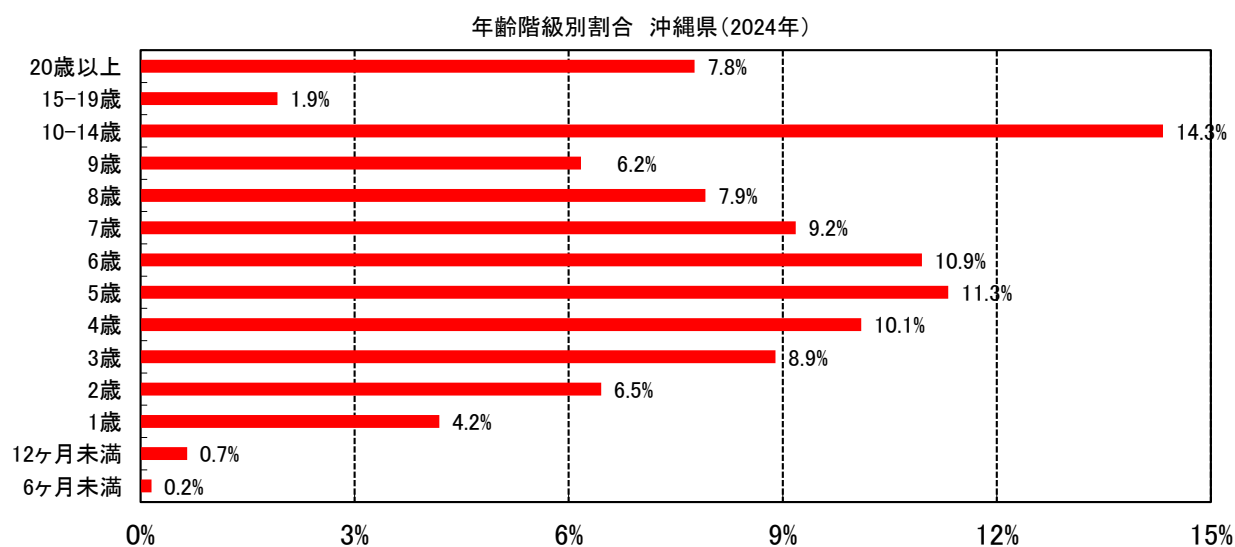
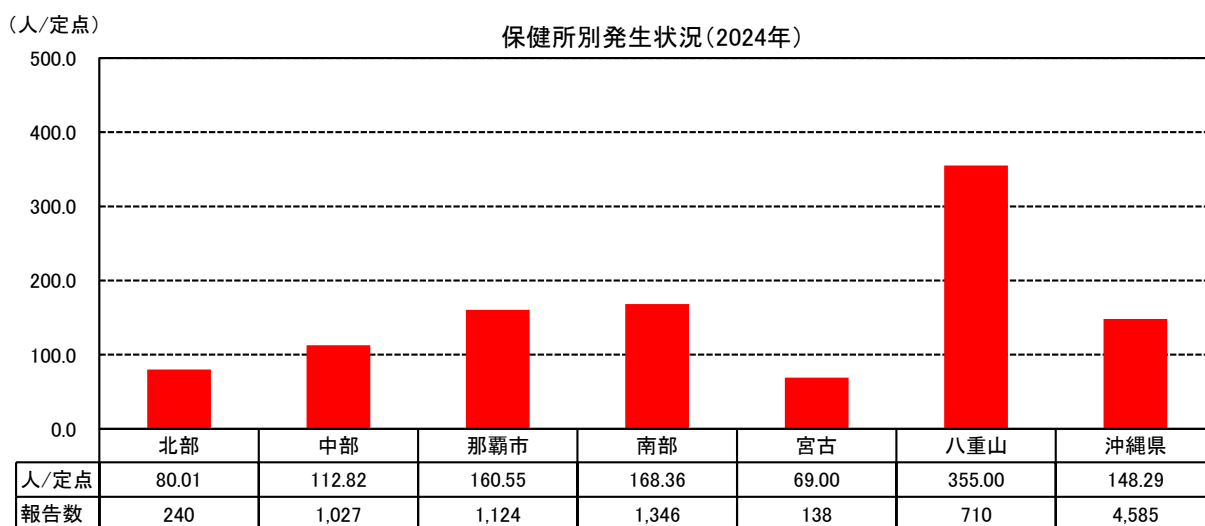
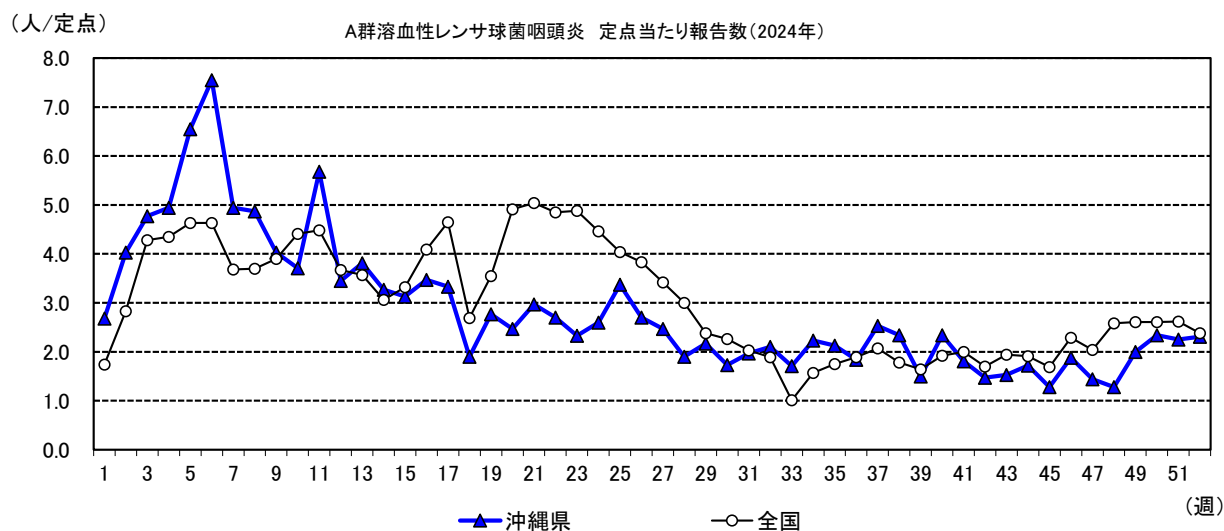
2024年、沖縄県内の報告数は4,585人、定点当たり148.30人であり、過去5年で最も多い報告数であった。

沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数8人）以上の週はなく、沖縄県では第6週の定点当たり報告数7.55人が、全国では第21週の定点当たり報告数5.04人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、10-14歳が全体の14.3%と最も多く、5歳が11.3%、6歳が10.9%と続いた。

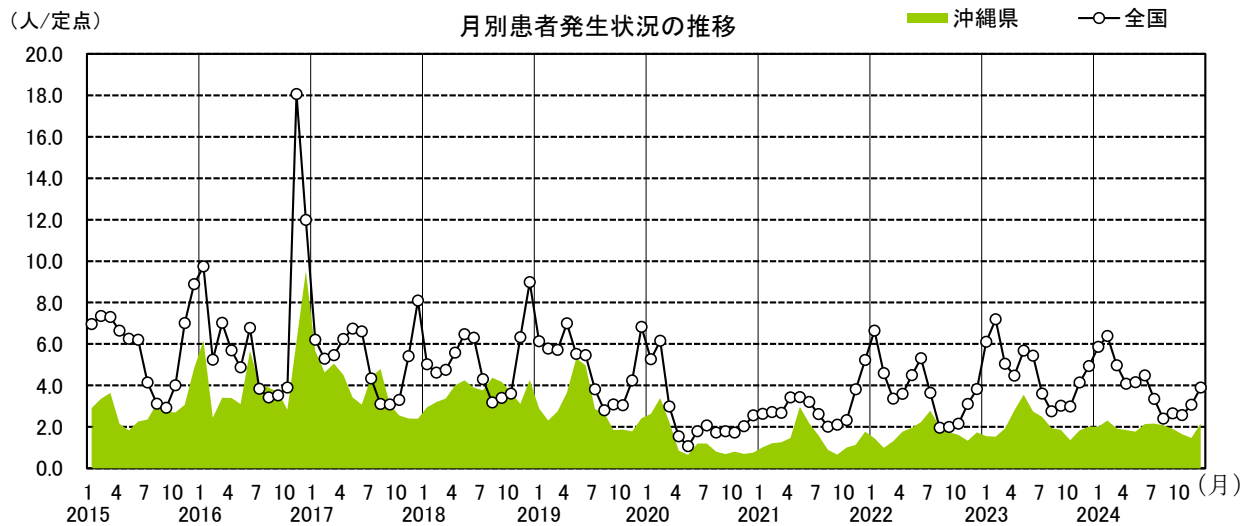
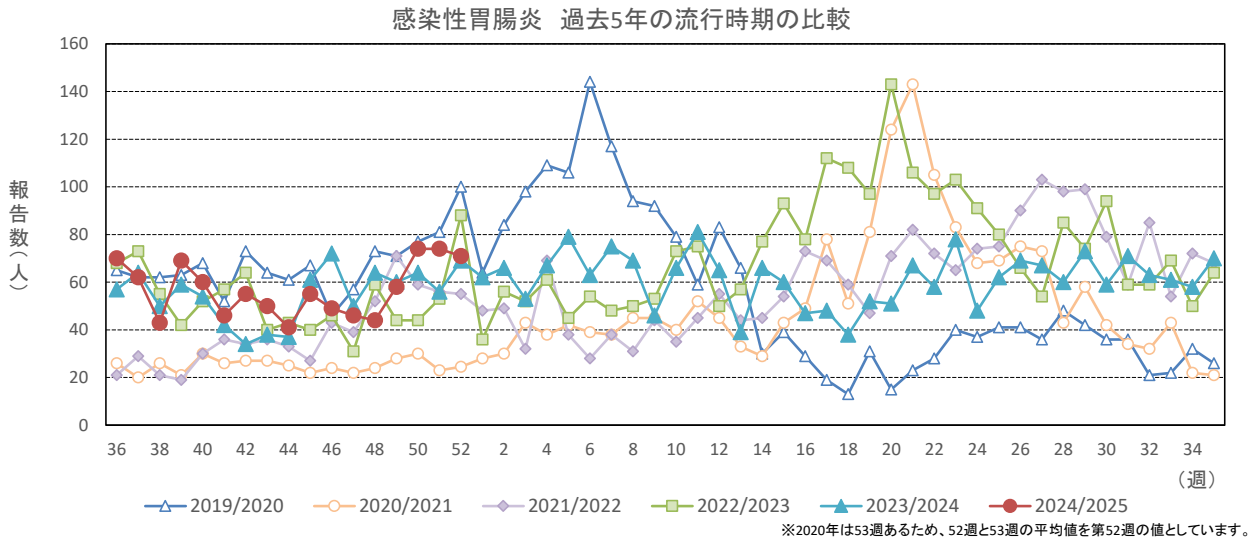


平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
2,467	2,273	1,592	921	2,962	4,585



● 感染性胃腸炎

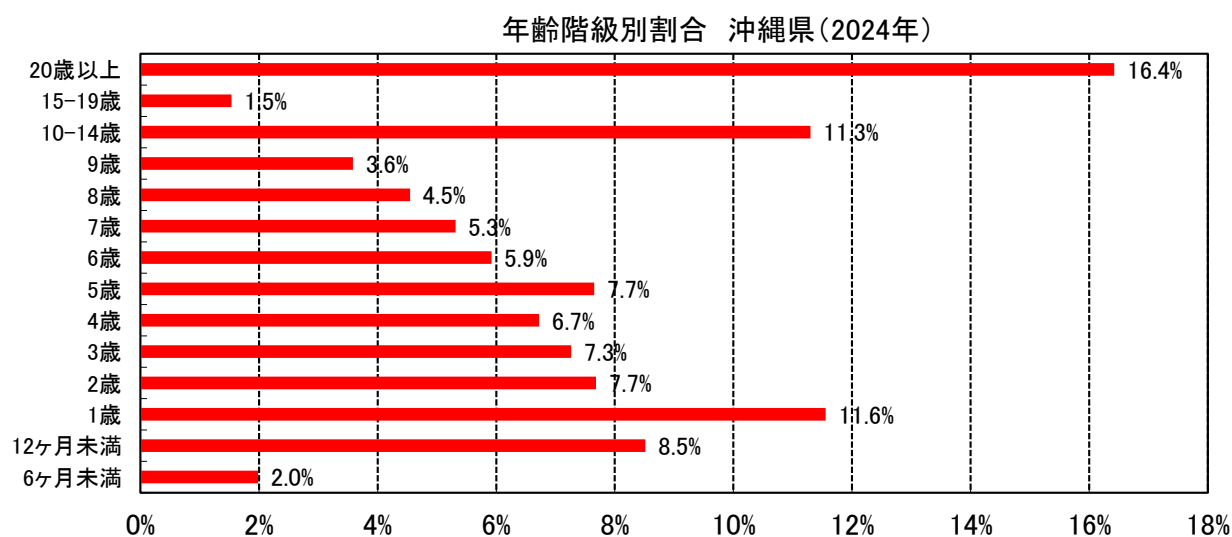
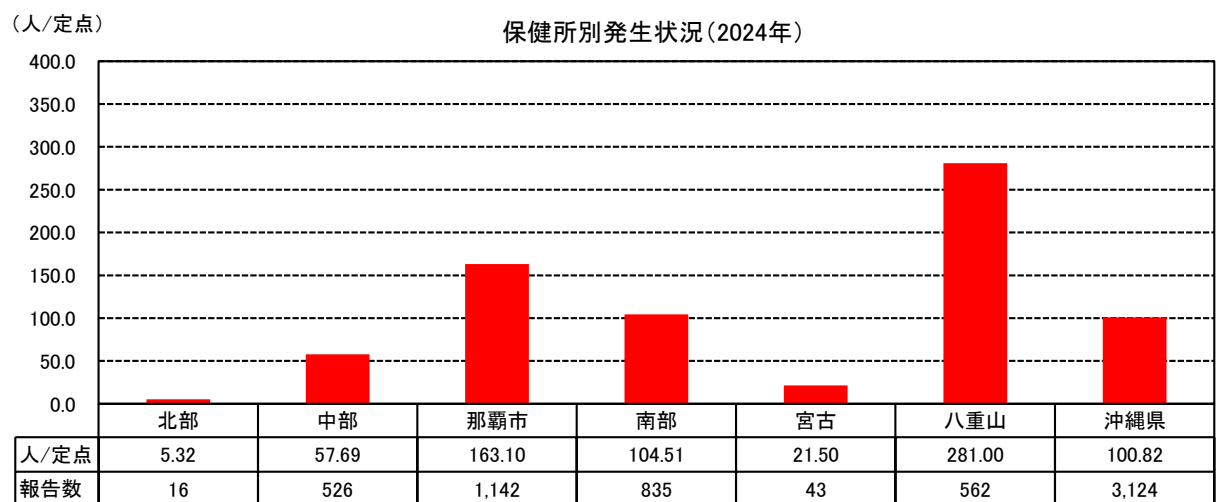
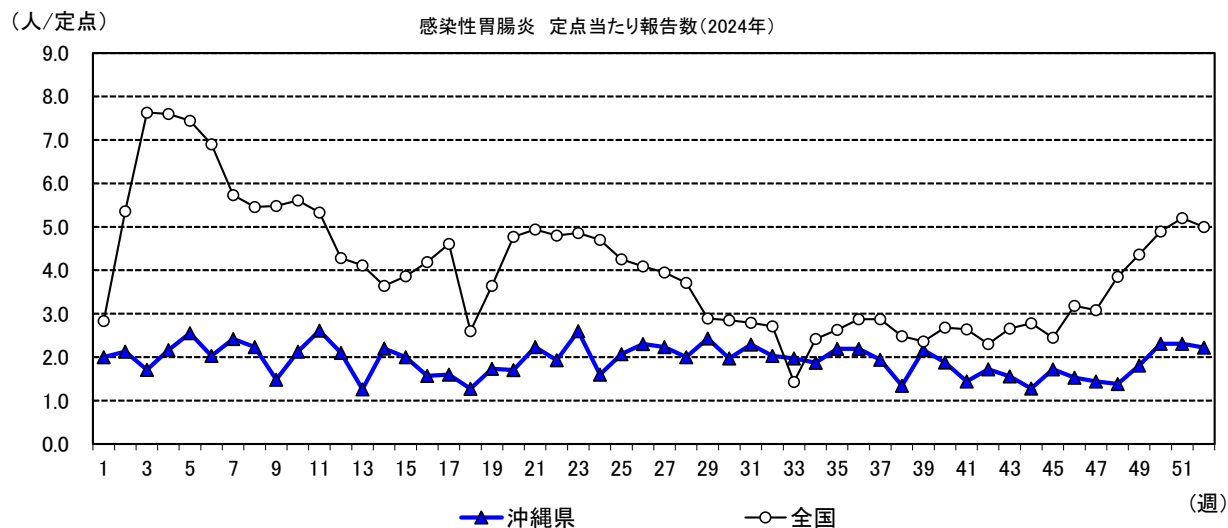
2024年、沖縄県内の報告数は3,124人、定点当たり報告数は100.80人であった。
 2023/24シーズン（2023年第36週～2024年第35週）の報告数は3,088人、2024/25シーズン（2024年第36週～2025年第35週）の報告数は2024年第52週までで967人だった。
 2024年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数20人）以上の週はなく、沖縄県では第11週の定点当たり報告数2.61人が、全国では第3週の定点当たり報告数7.63人が最多であった。
 年齢階級別（沖縄県）では、20歳以上が全体の16.4%と最も多く、1歳が11.6%、10-14歳が11.3%と続いた。



シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：感染性胃腸炎

平均報告数 (2024/25を除く)	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25*
2,940	3,022	2,310	2,810	3,468	3,088	967

*：2024年第36週～第52週の集計。



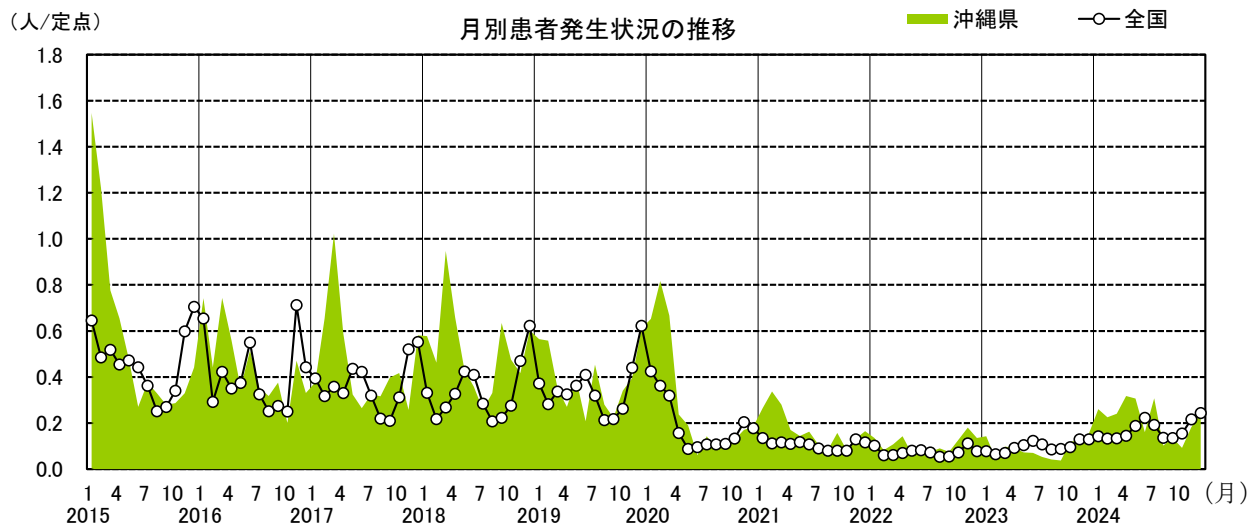
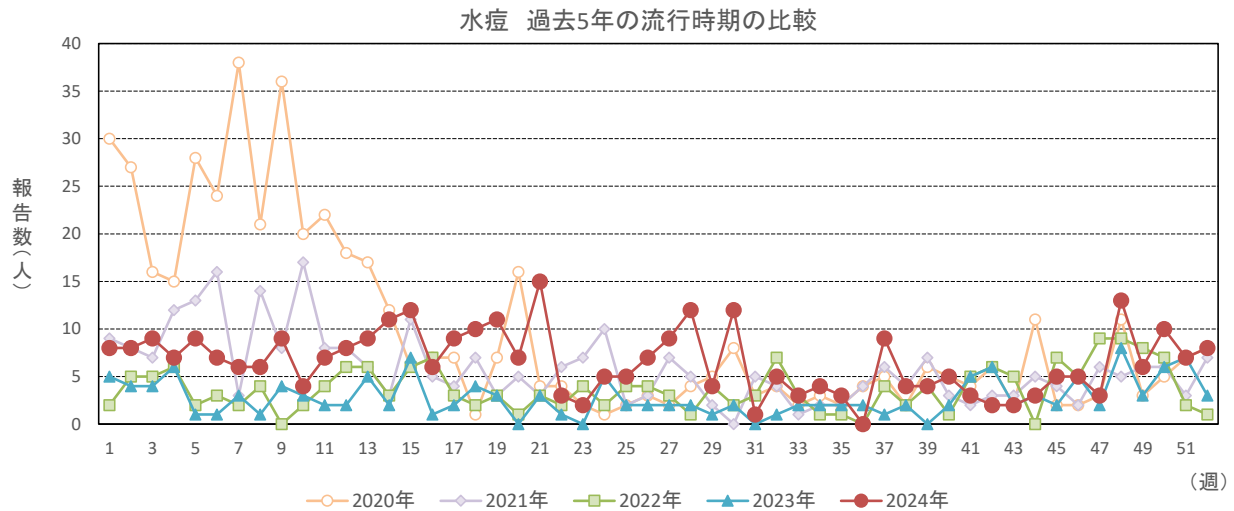
2024年、沖縄県内の報告数は342人、定点当たり報告数は11.11人であった。

沖縄県、全国ともに注意報レベルの基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第21週の定点当たり報告数0.50人が、全国では第51週の定点当たり報告数0.33人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の13.7%と最も多く、10-14歳が12.0%、6歳が10.2%と続いた。

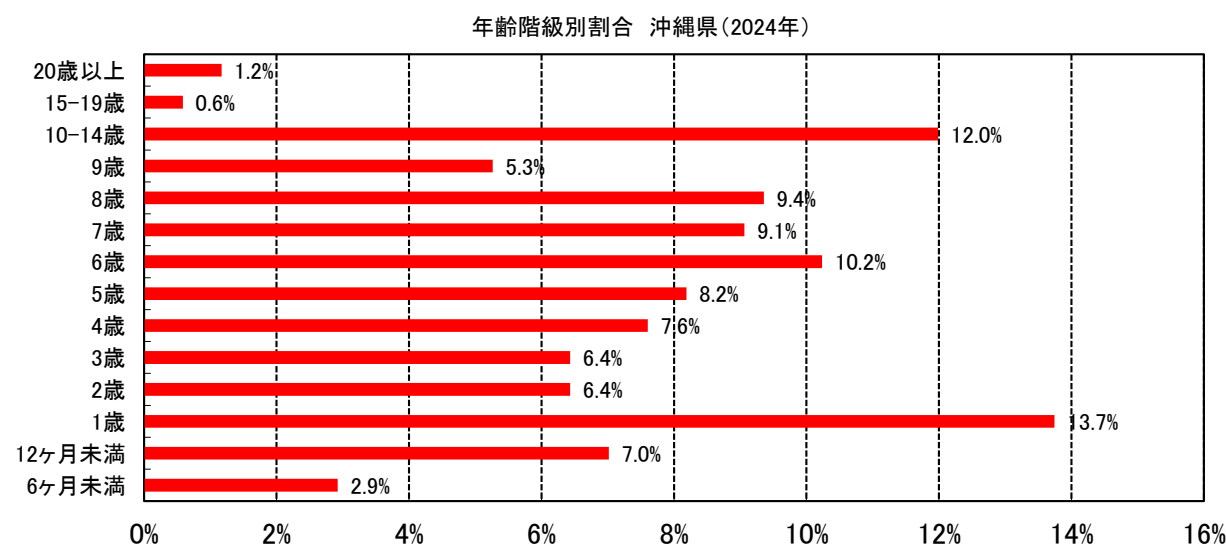
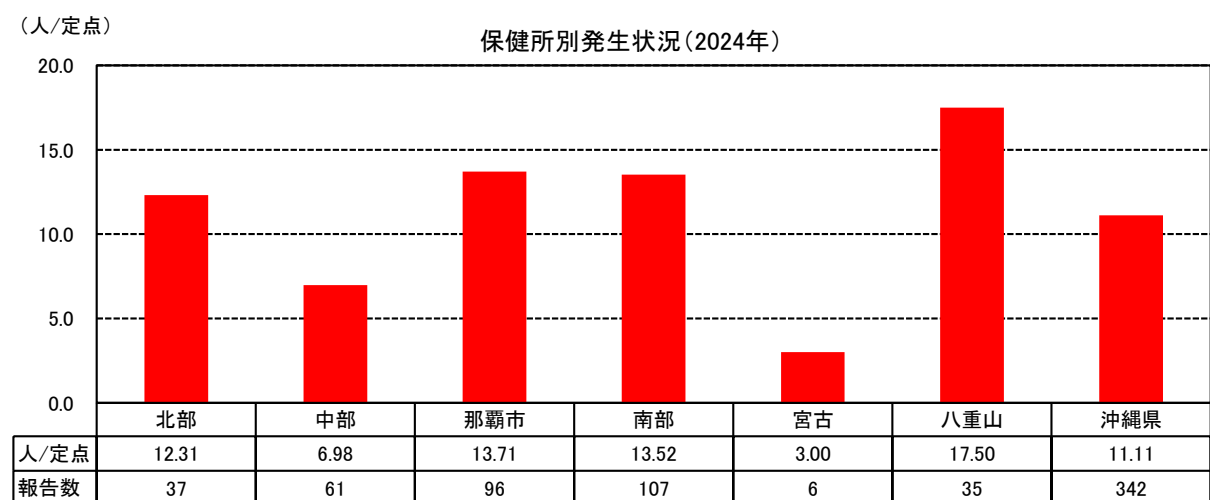
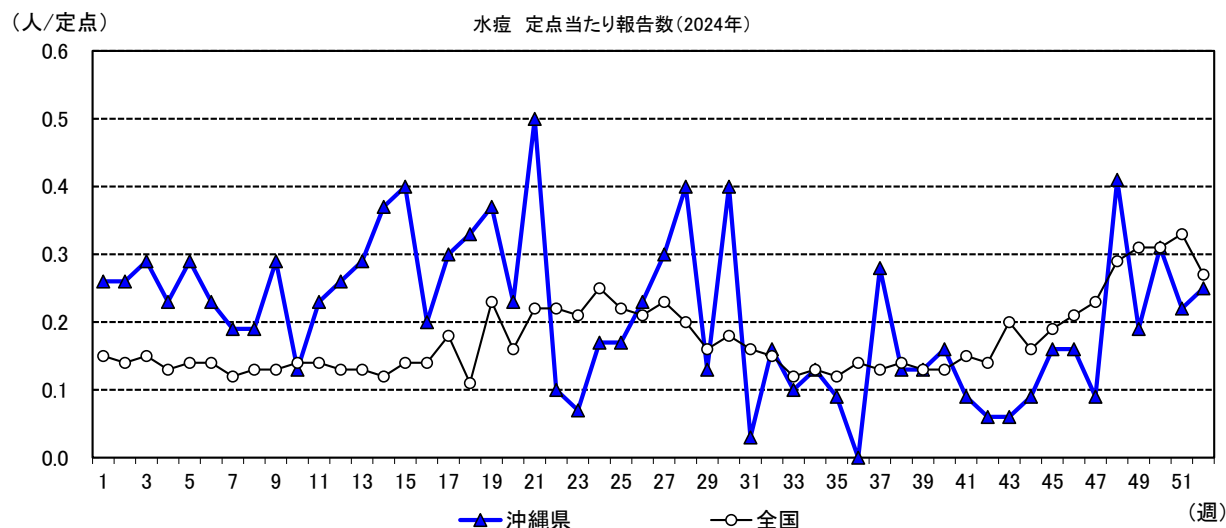
沖縄県、全国ともに注意報レベルの基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第21週の定点当たり報告数0.50人が、全国では第51週の定点当たり報告数0.33人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の13.7%と最も多く、10-14歳が12.0%、6歳が10.2%と続いた。



年別の報告数合計：水痘

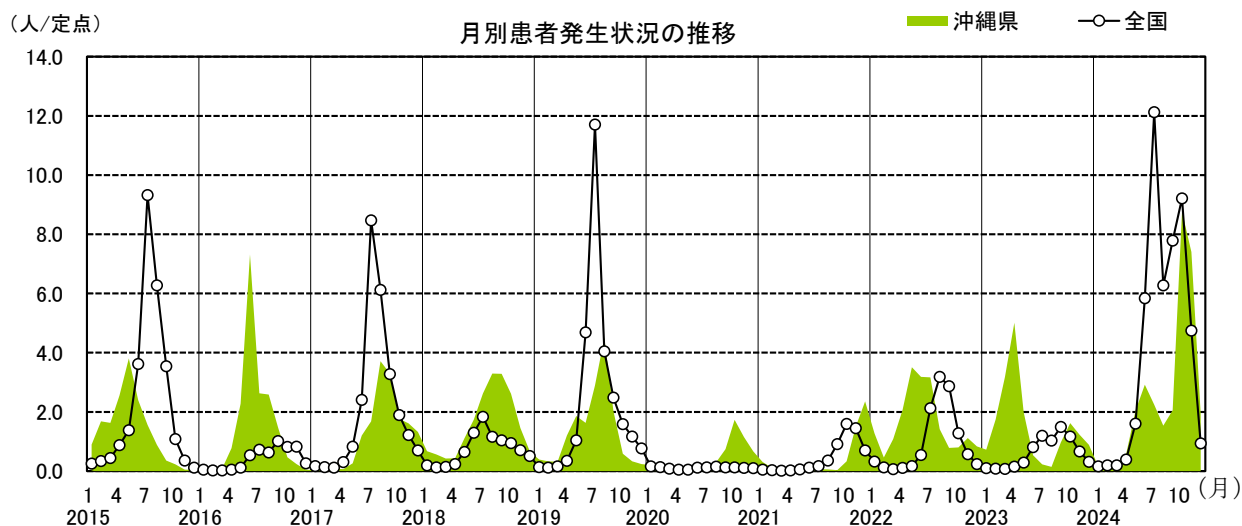
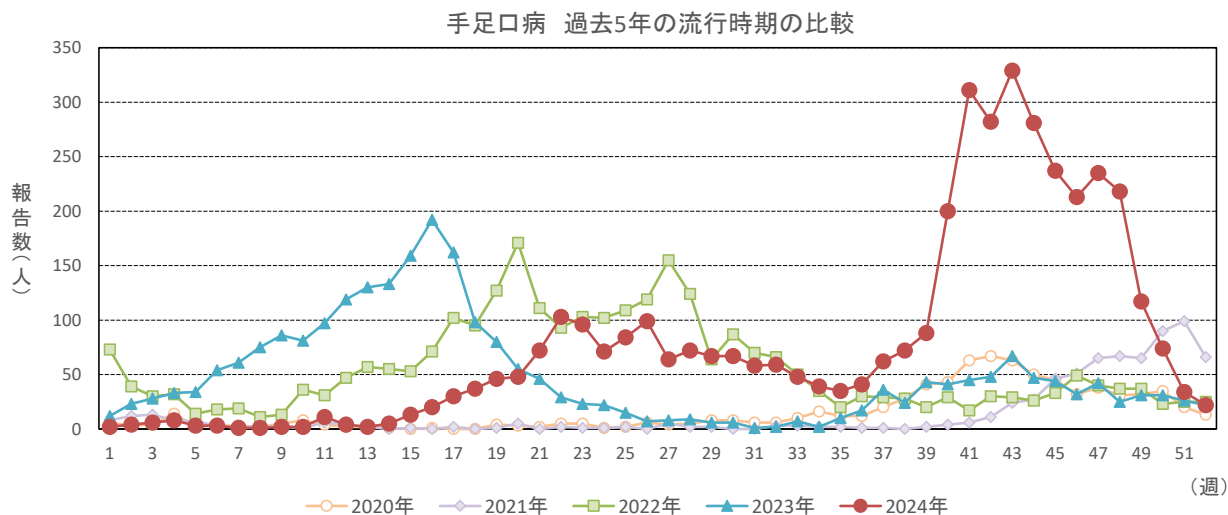
平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
297	503	302	191	146	342



●手足口病

2024年、沖縄県内の報告数は4,098人、定点当たり報告数は130.35人で、過去5年で一番目に多い報告数だった。

沖縄県では第40週に定点当たり報告数が6.25人と警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数5人）以上となり、警報が発令された。その後、第50週まで警報レベル終息基準値（定点当たり報告数2人）以上の報告が続いた。全国では第25週に定点当たり報告数が6.31人と警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数5人）以上となり、警報が発令された。その後、第48週まで警報レベル終息基準値（定点当たり報告数2人）以上の報告が続いた（第33週及び第34週を除く）。年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の42.7%と最も多く、2歳が21.4%、6ヶ月以上12ヶ月未満が12.8%と続いた。

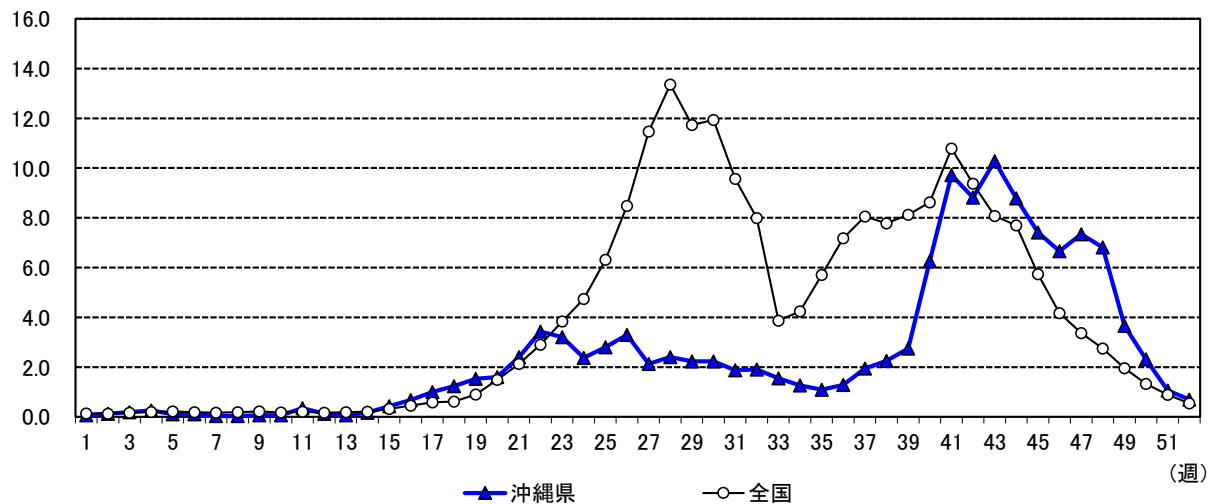


年別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
2,212	796	729	2,909	2,526	4,098

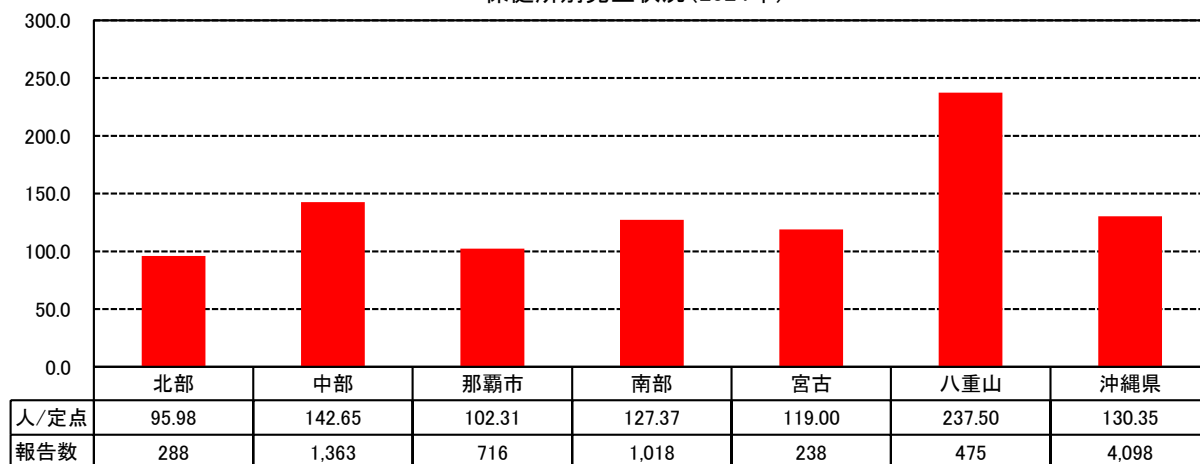
(人/定点)

手足口病 定点当たり報告数(2024年)

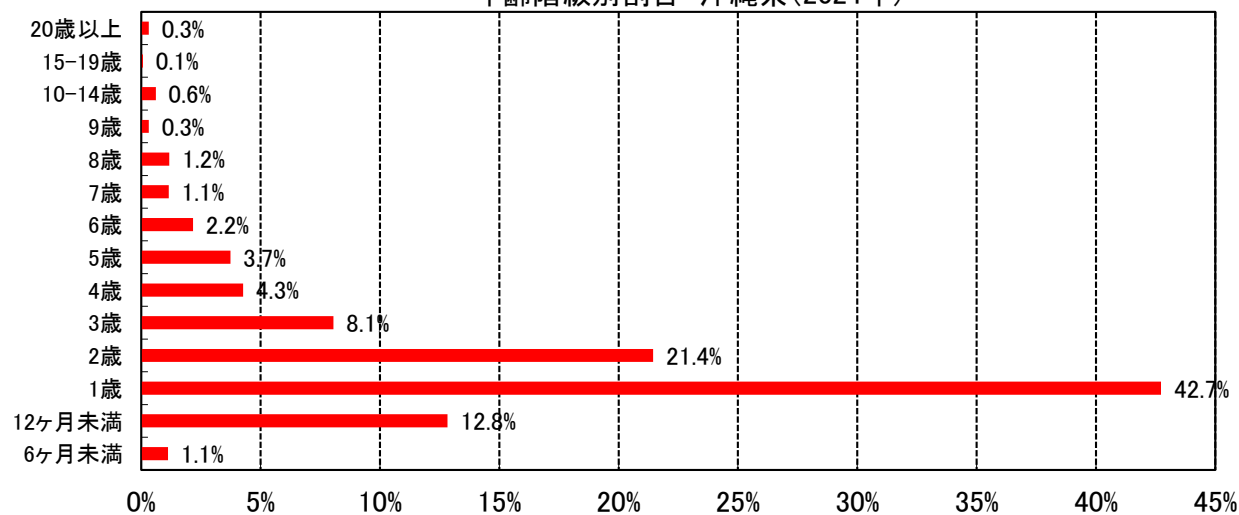


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)

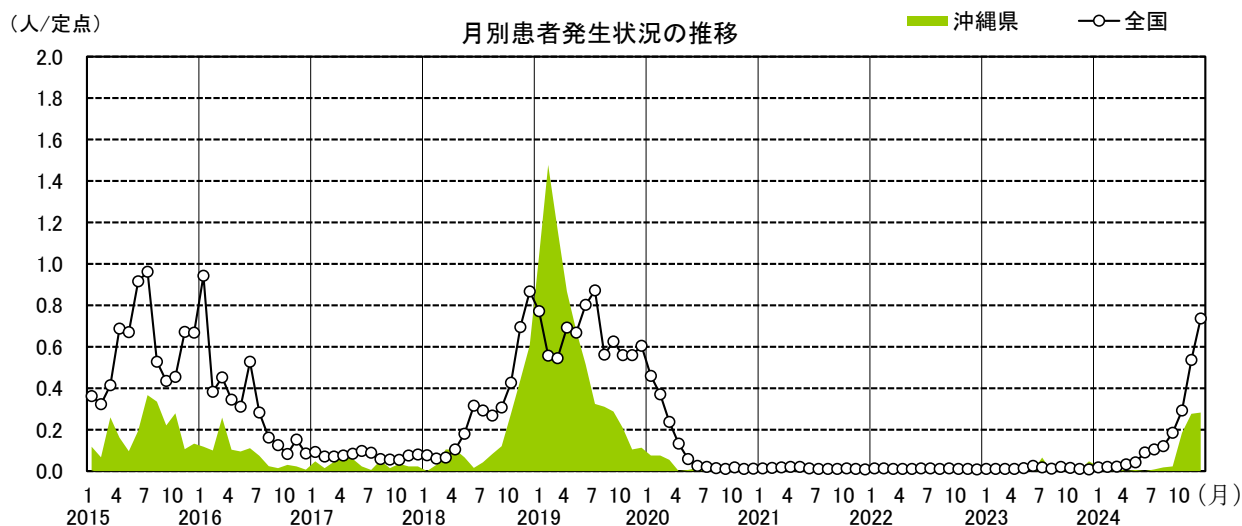
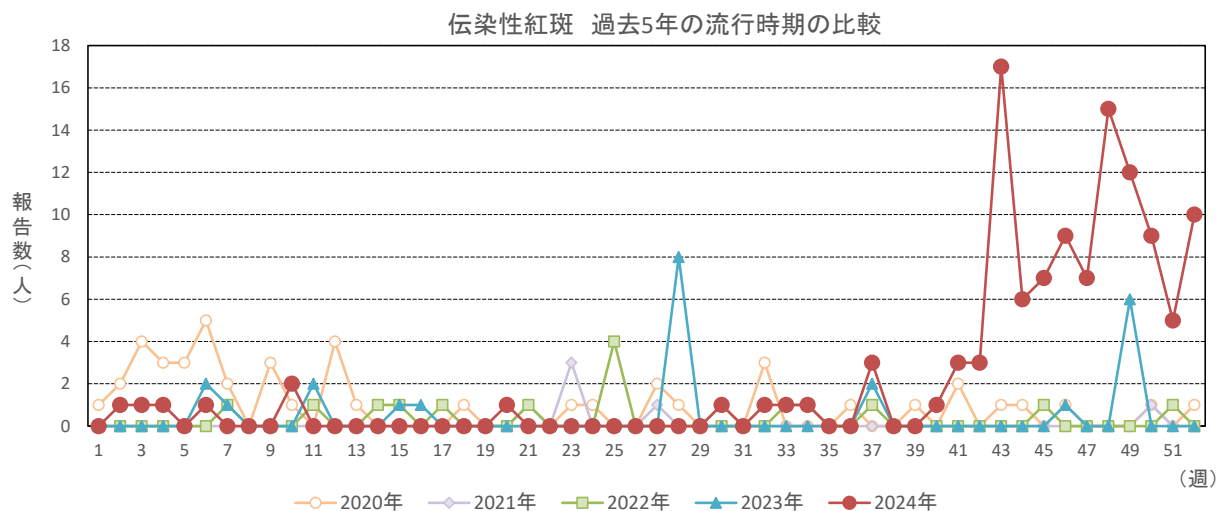


●伝染性紅斑

2024年、沖縄県内の報告数は118人、定点当たり報告数は3.67人であり、2023年に比べ増加した。

沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数2人）以上の週はなく、沖縄県では第43週の定点当たり報告数0.53人が、全国では第51週の定点当たり報告数0.98人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、5歳がそれぞれ全体の20.3%と最も多く、4歳が18.6%、2歳が11.9%と続いた。

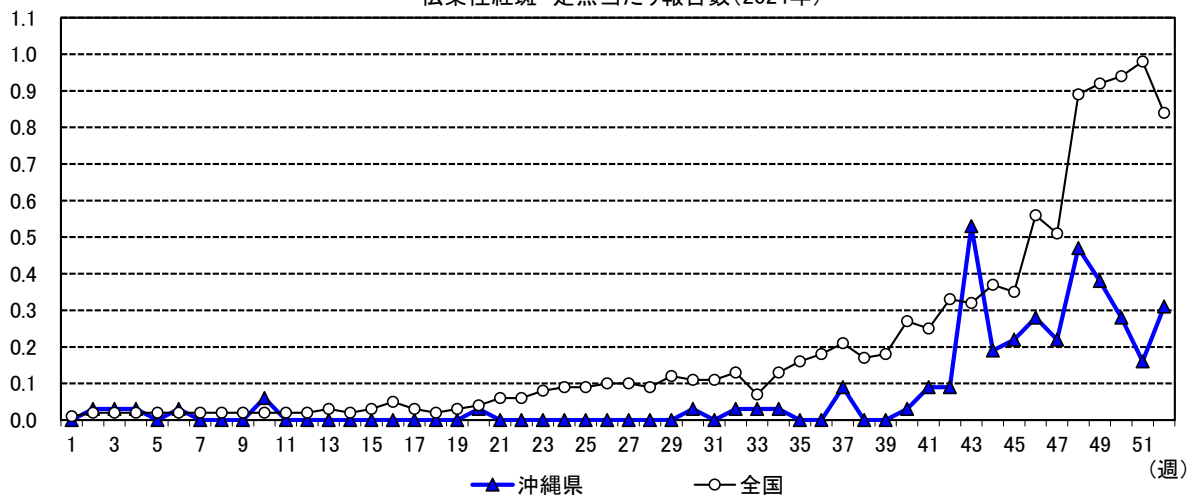


年別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
42	48	6	15	24	118

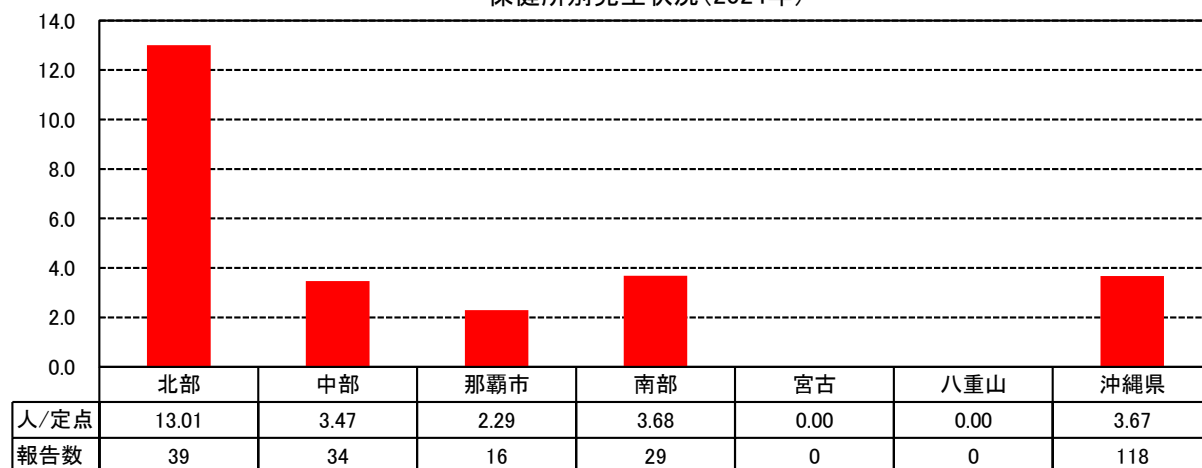
(人/定点)

伝染性紅斑 定点当たり報告数(2024年)

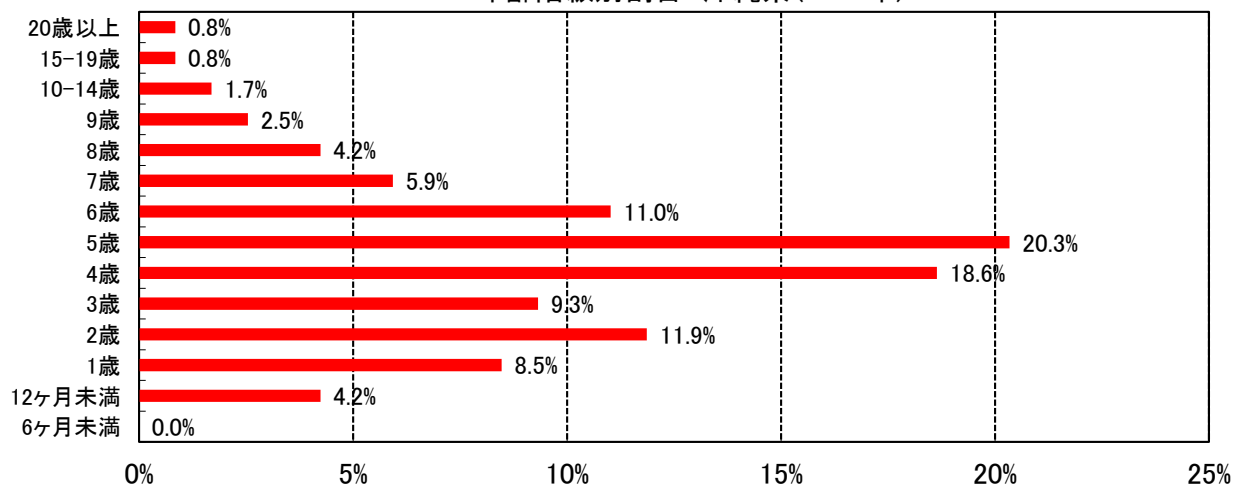


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)

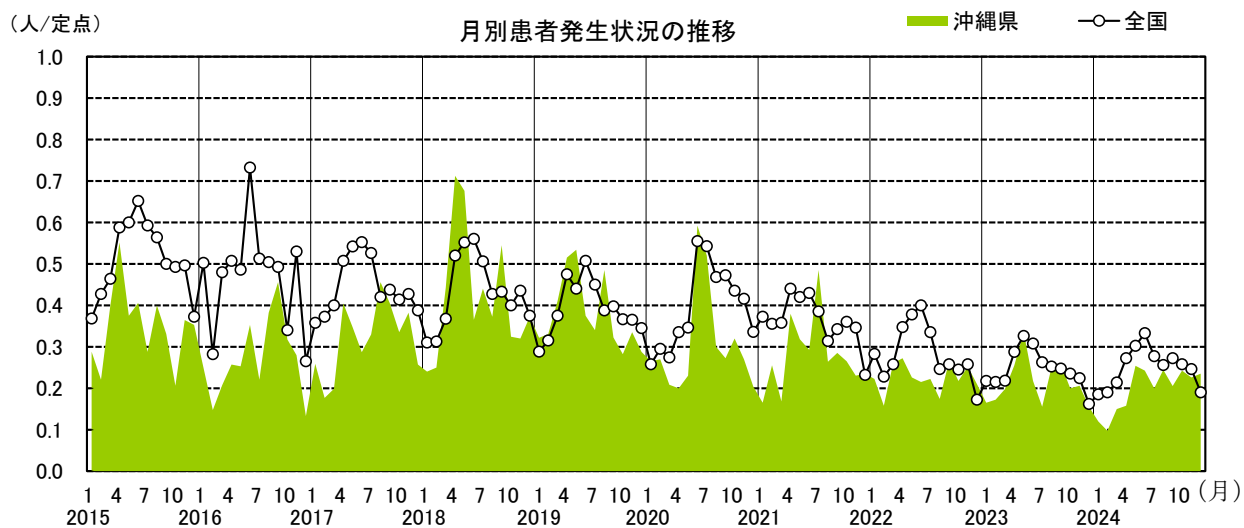
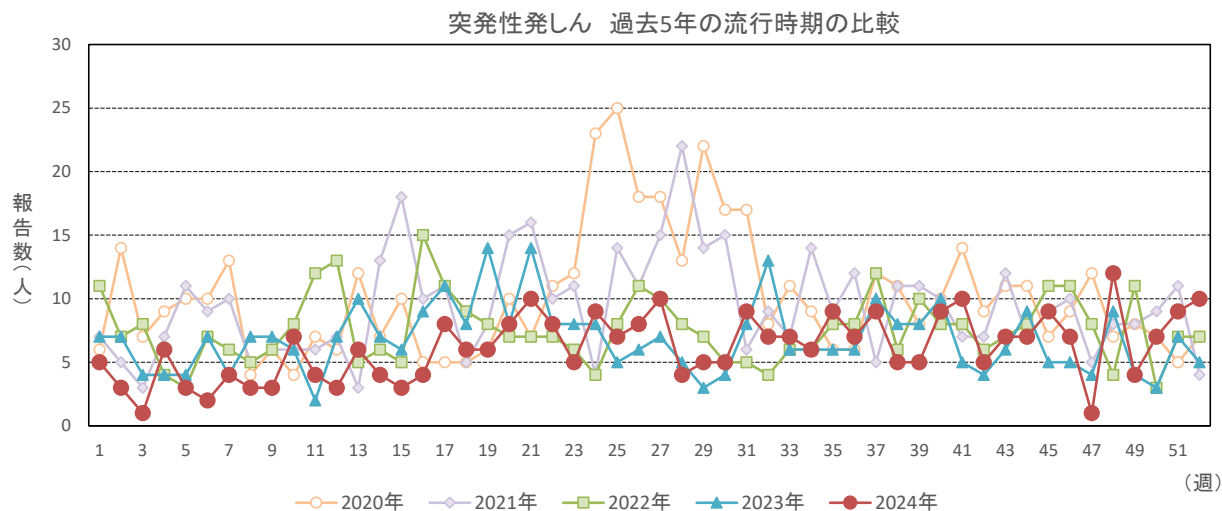


●突発性発しん

2024年、沖縄県内の報告数は321人、定点当たり報告数は10.37人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

沖縄県では第48週の定点当たり報告数0.38人が、全国では第22週での定点当たり報告数0.34人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の62.0%と最も多く、6ヶ月以上12ヶ月未満が21.5%、2歳が9.3%と続いた。

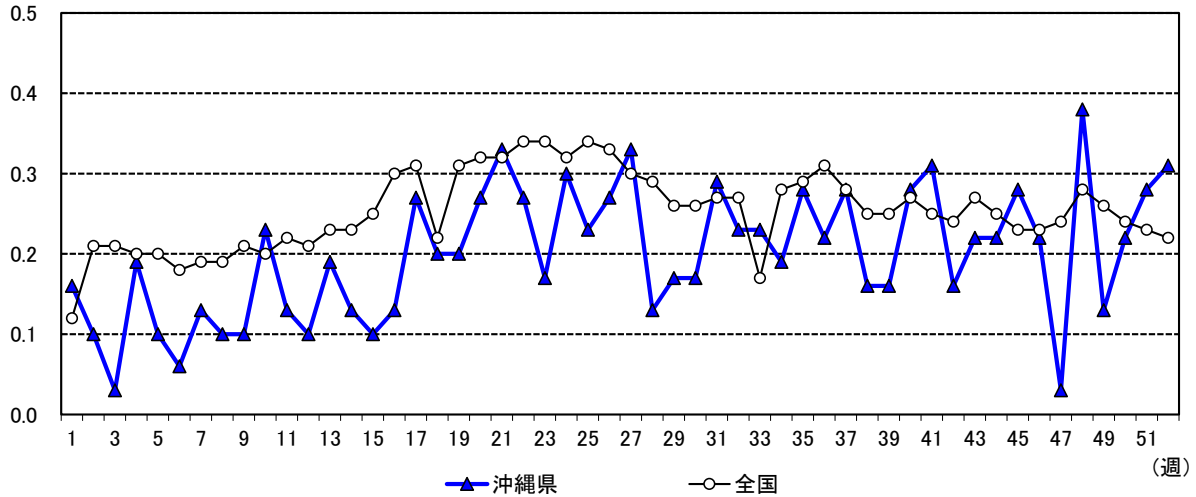


年別の報告数合計：突発性発しん

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
417	527	488	393	354	321

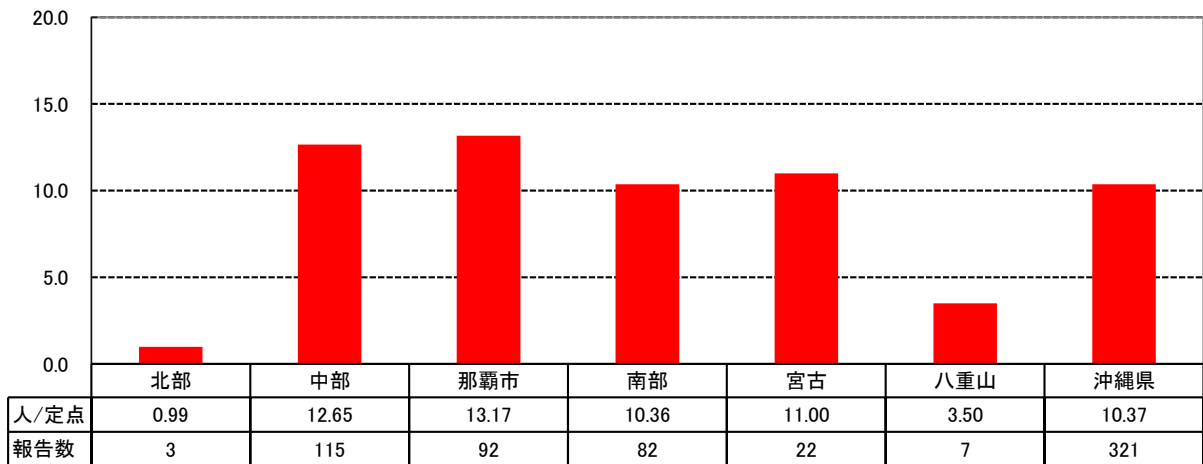
(人/定点)

突発性発しん 定点当たり報告数(2024年)

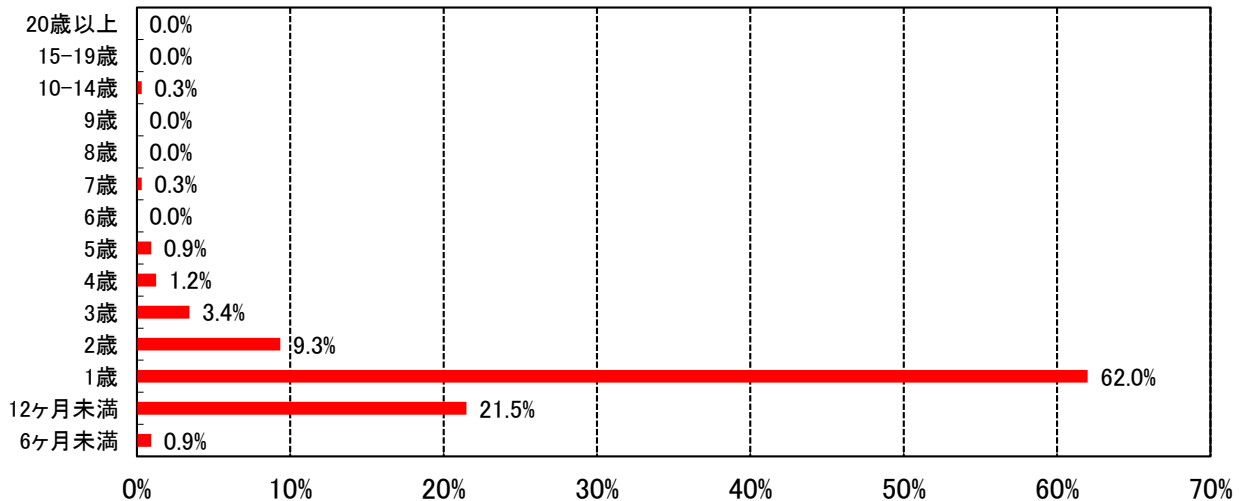


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)



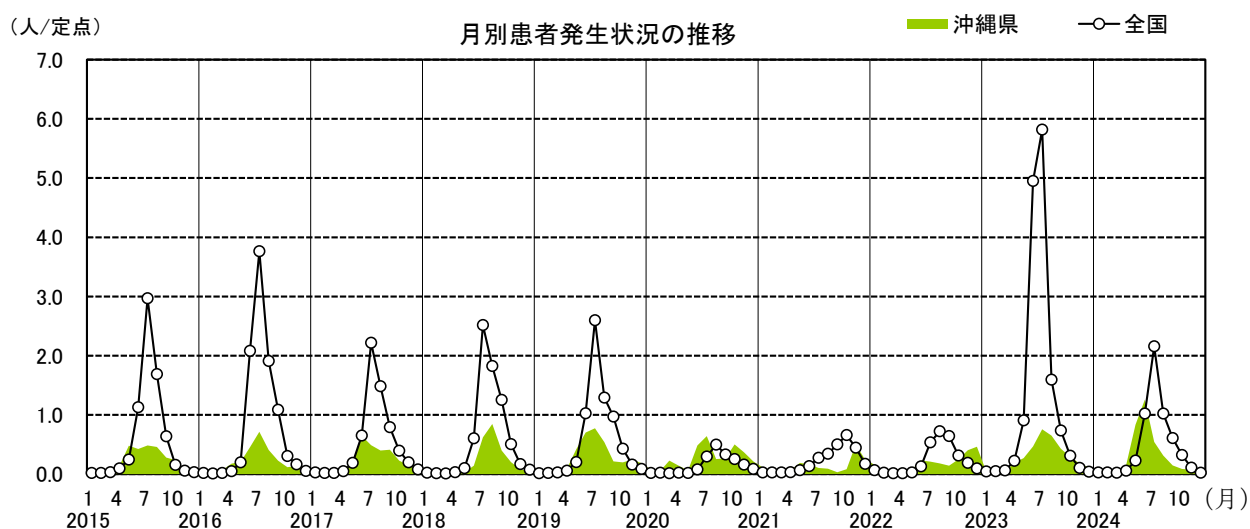
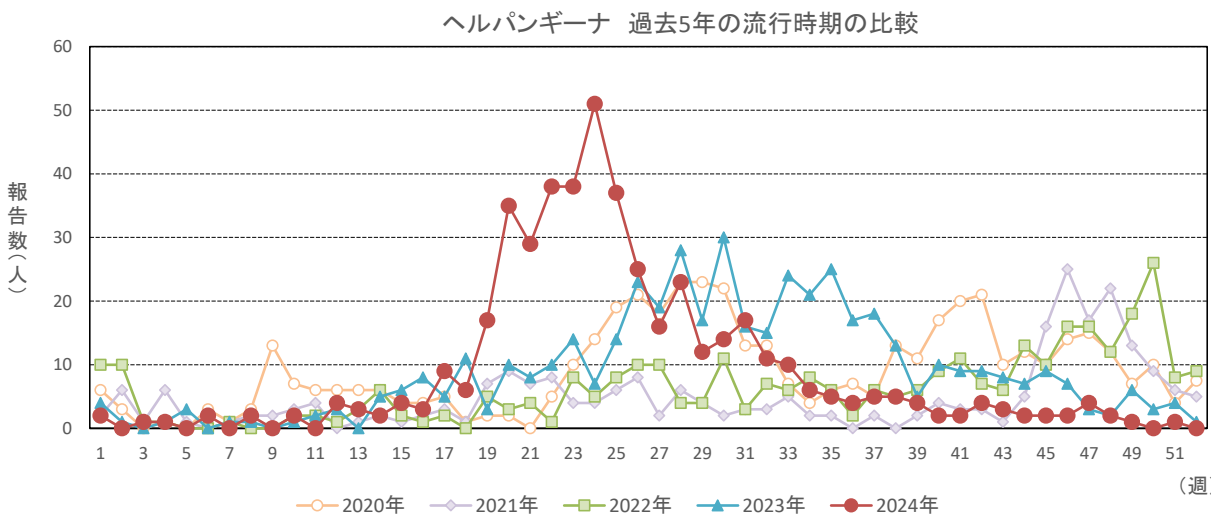
●ヘルパンギーナ

2024年、沖縄県内の報告数は468人、定点当たり報告数は15.43人であり、2023年に比べ増加した。

沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数6人）以上の週はなかった。

沖縄県では第24週の定点当たり報告数1.70人が、全国では第28週の定点当たり報告数2.42人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳の報告数が最も多く全体の31.4%、次いで6ヶ月以上12ヶ月未満が19.0%、2歳が16.7%と続いた。

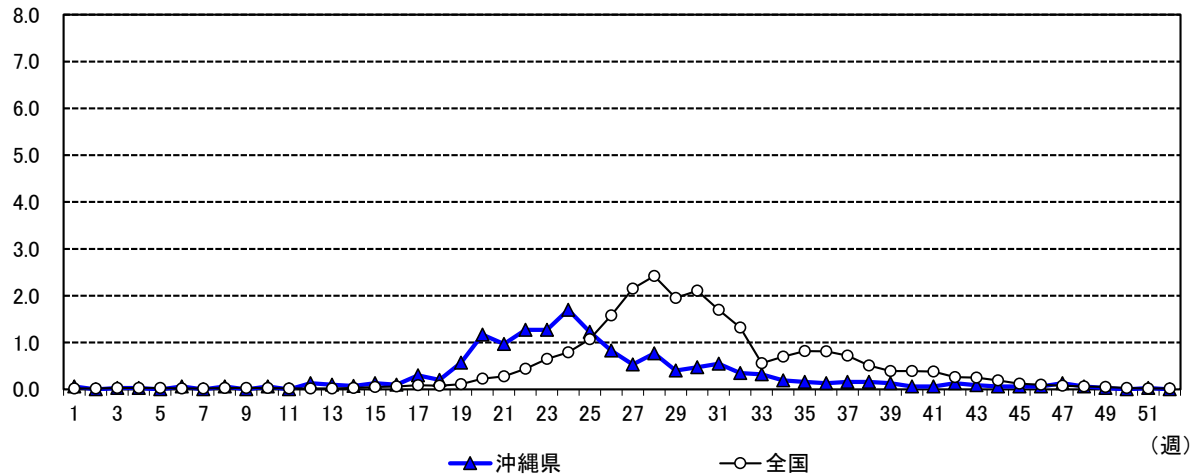


年別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
397	473	253	325	467	468

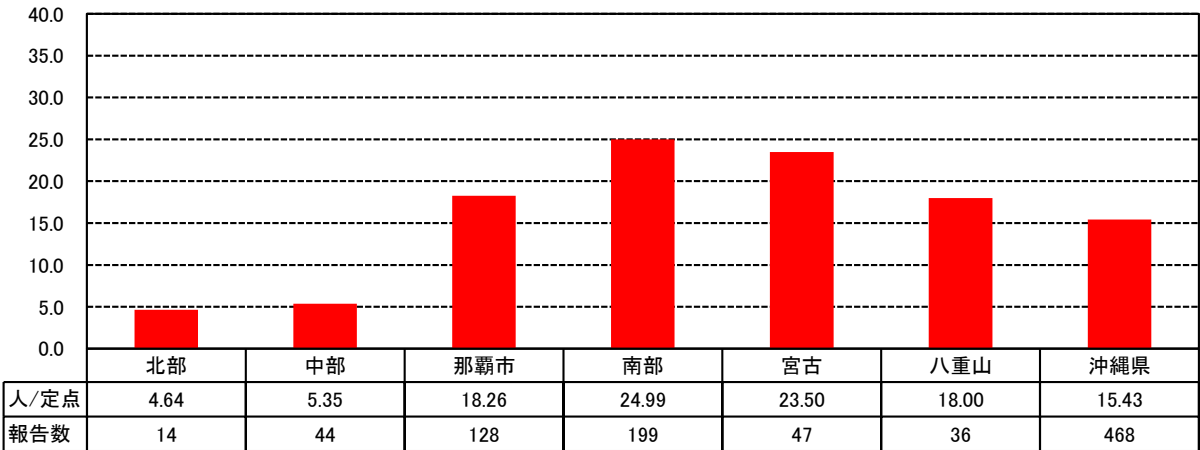
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点当たり報告数(2024年)

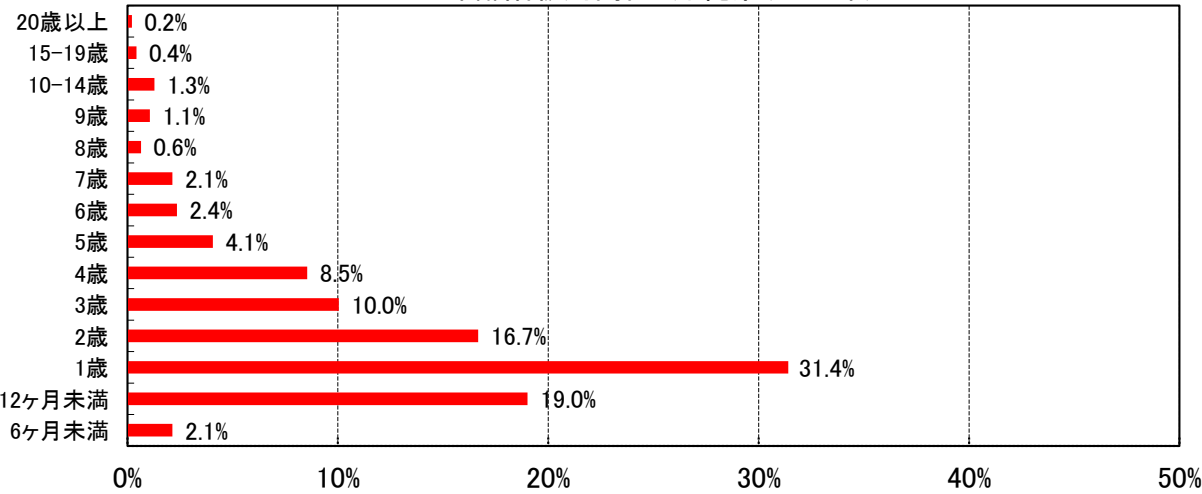


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)

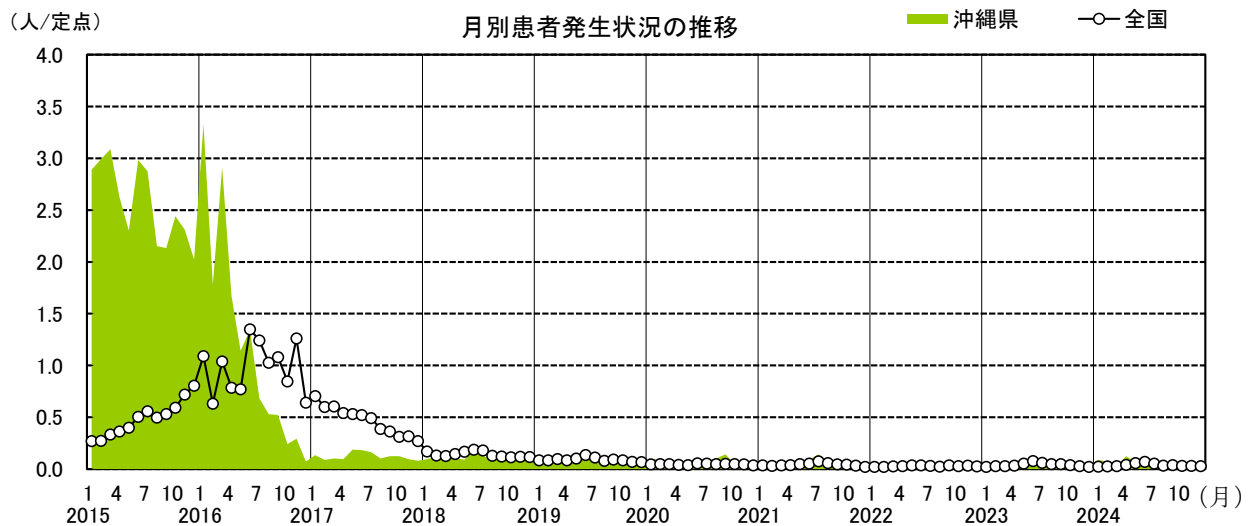
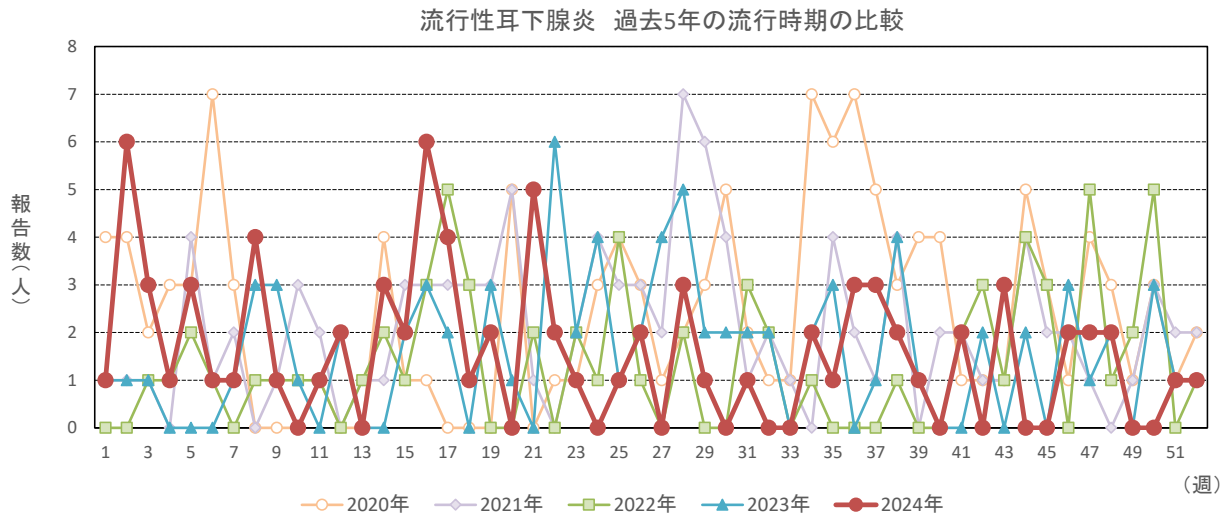


●流行性耳下腺炎

2024年、沖縄県内の報告数は83人、定点当たり報告数は2.64人で、過去5年で三番目に少ない報告数であった。

沖縄県、全国ともに、注意報レベルの基準値（定点当たり報告数3人）以上の週はなく、沖縄県では第16週の定点当たり報告数0.20人が、全国では第21週の定点当たり報告数0.07人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、4歳の報告数が最も多く全体の20.5%、次いで5歳が18.1%、3歳及び6歳が12.0%と続いた。

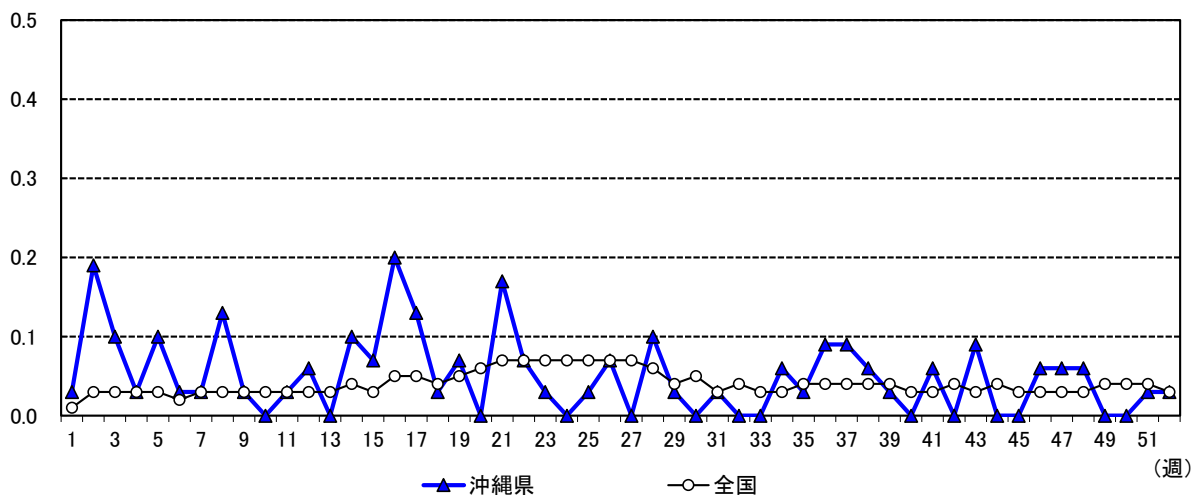


年別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
94	127	108	70	82	83

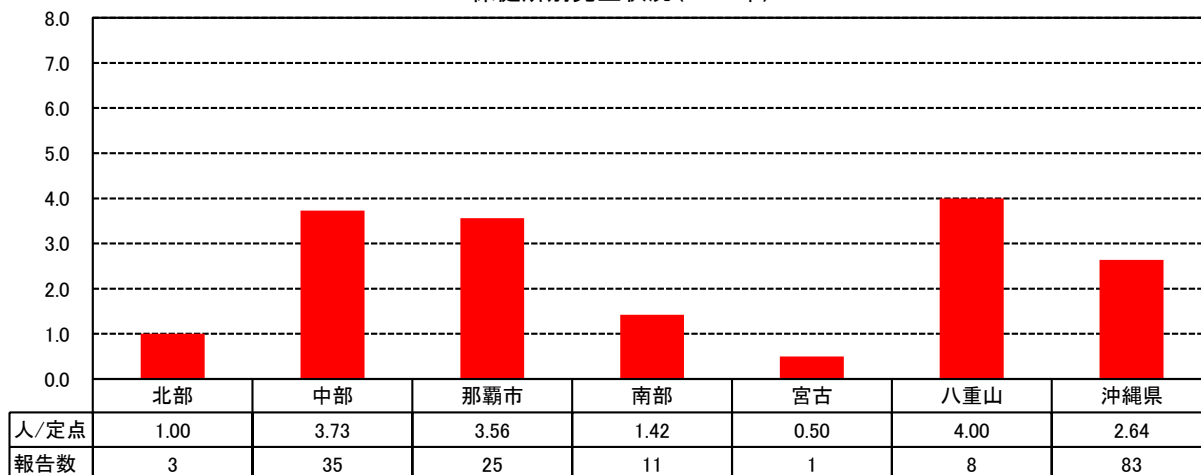
(人/定点)

流行性耳下腺炎 定点当たり報告数(2024年)

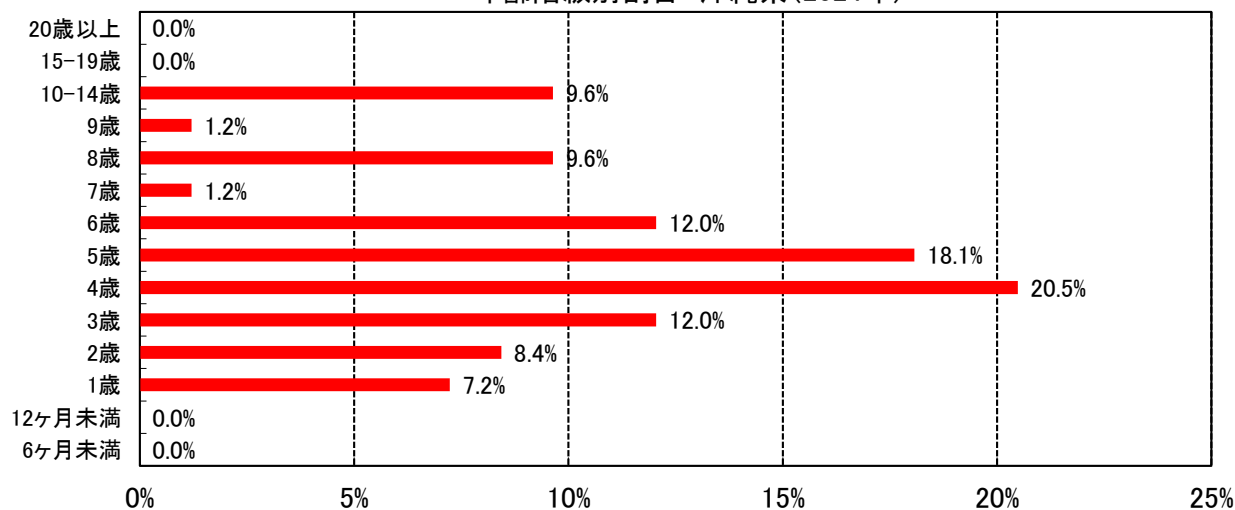


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)



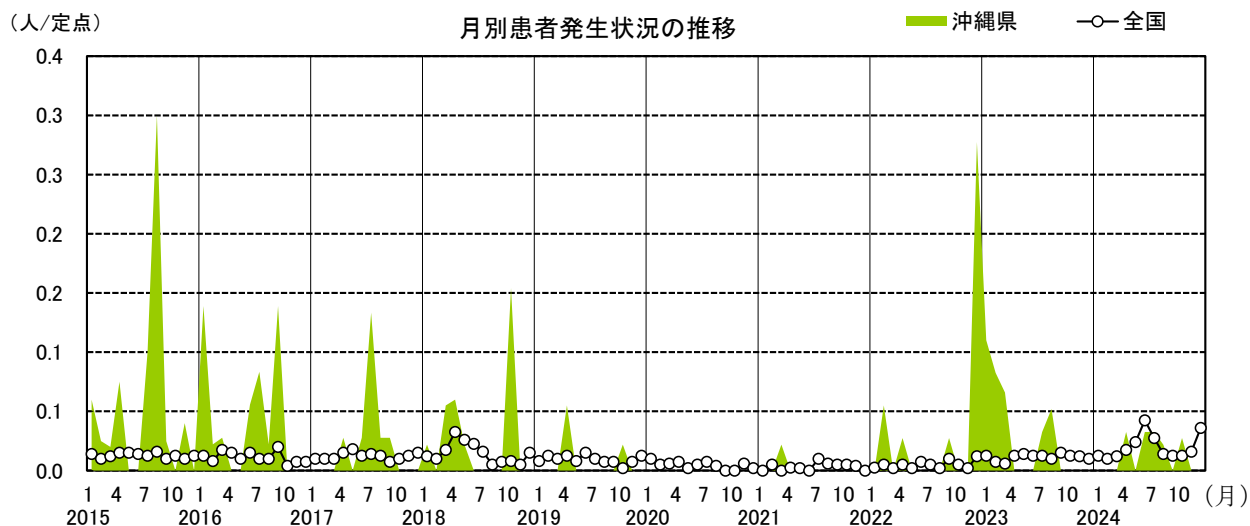
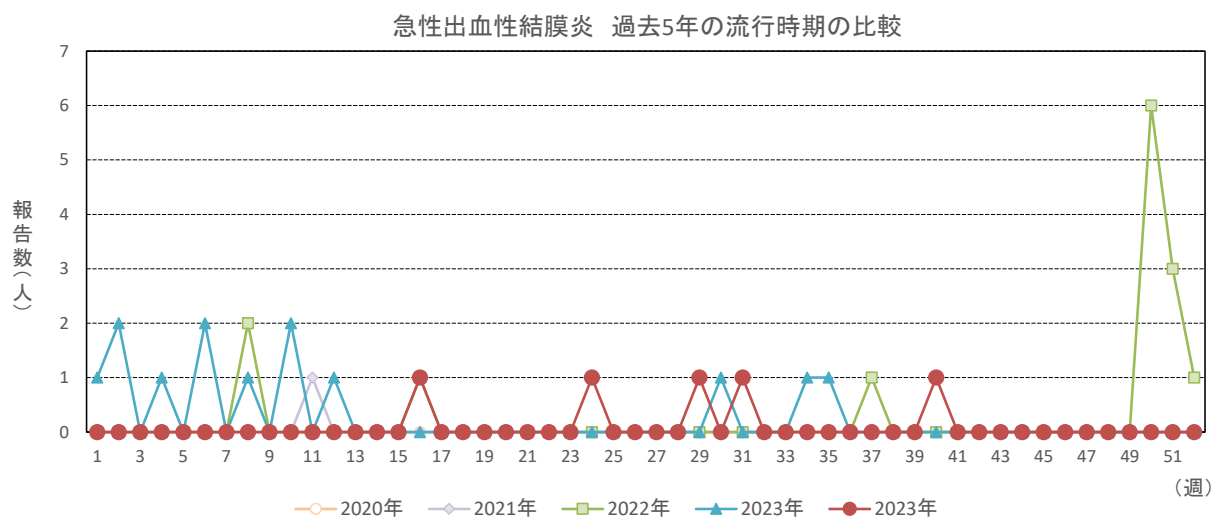
(2) 眼科定点

●急性出血性結膜炎

2024年、沖縄県内の報告数は5人、定点当たり報告数は0.61人であり、2023年よりも減少した。

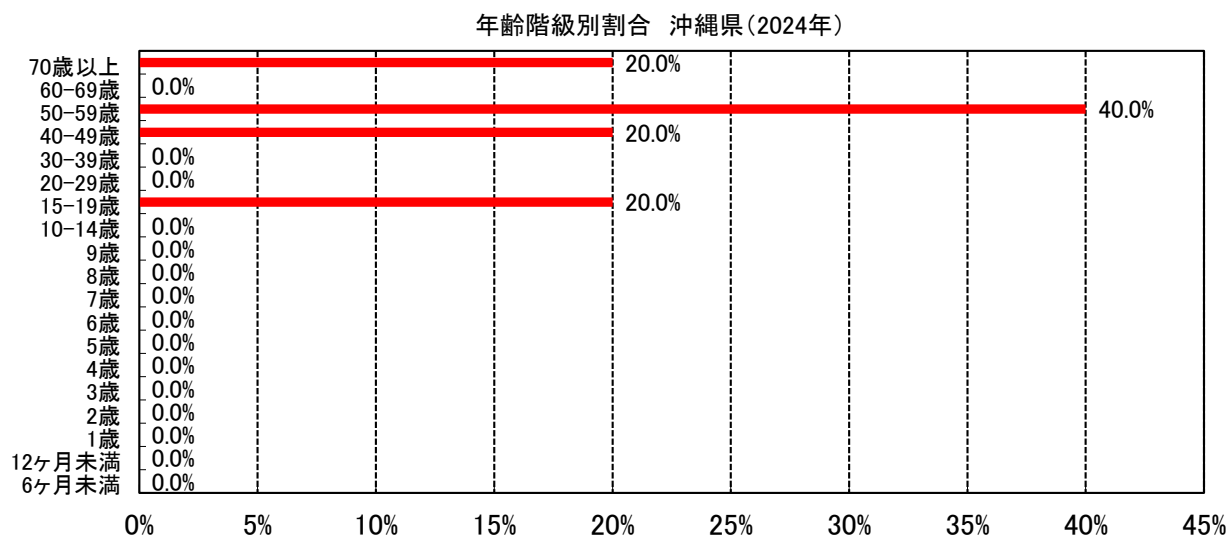
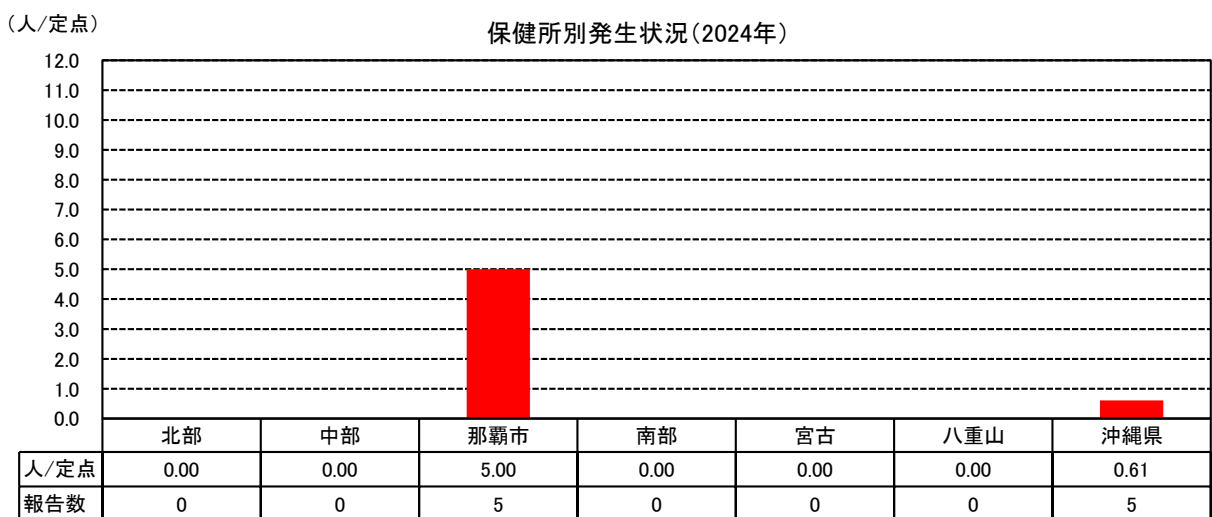
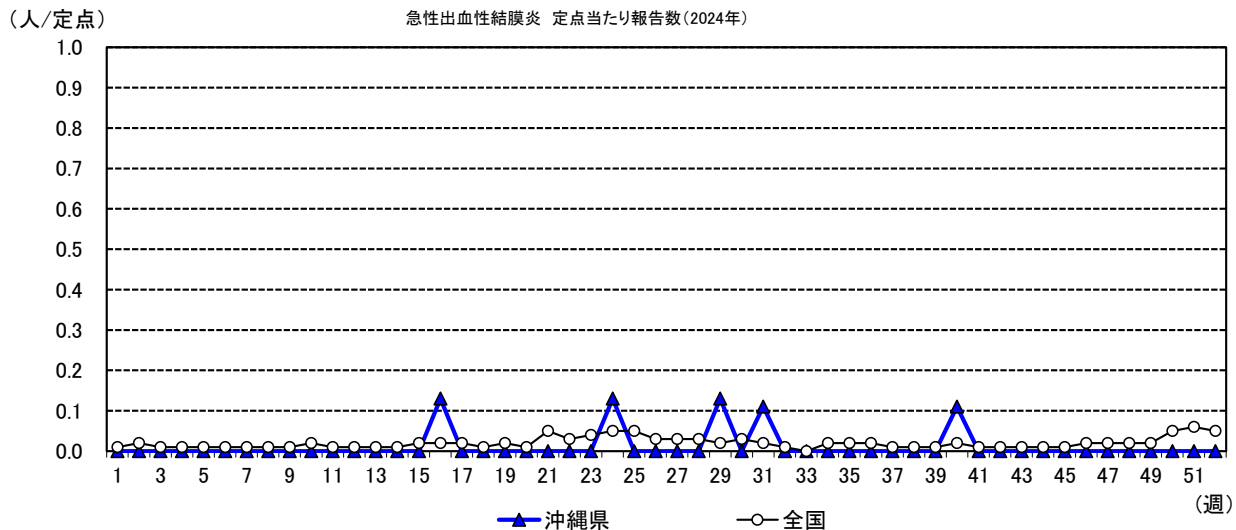
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第16週の定点当たり報告数0.13人が、全国では第51週の定点当たり報告数0.06人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、50代が40.0%で最も多く、次いで10代、40代及び70歳以上が20.0%と続いた。



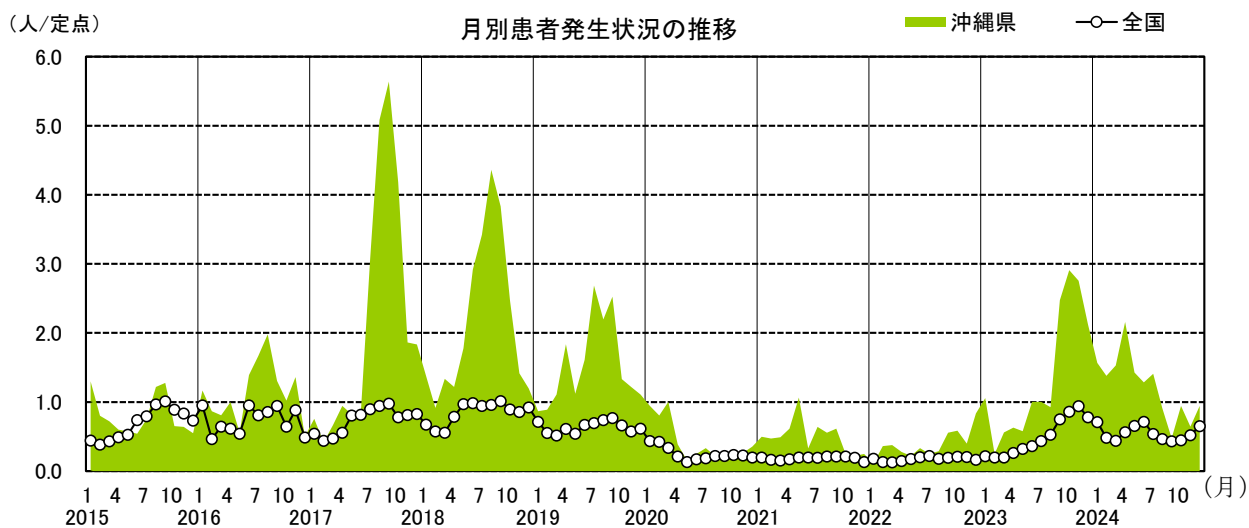
年別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
7	0	1	14	13	5

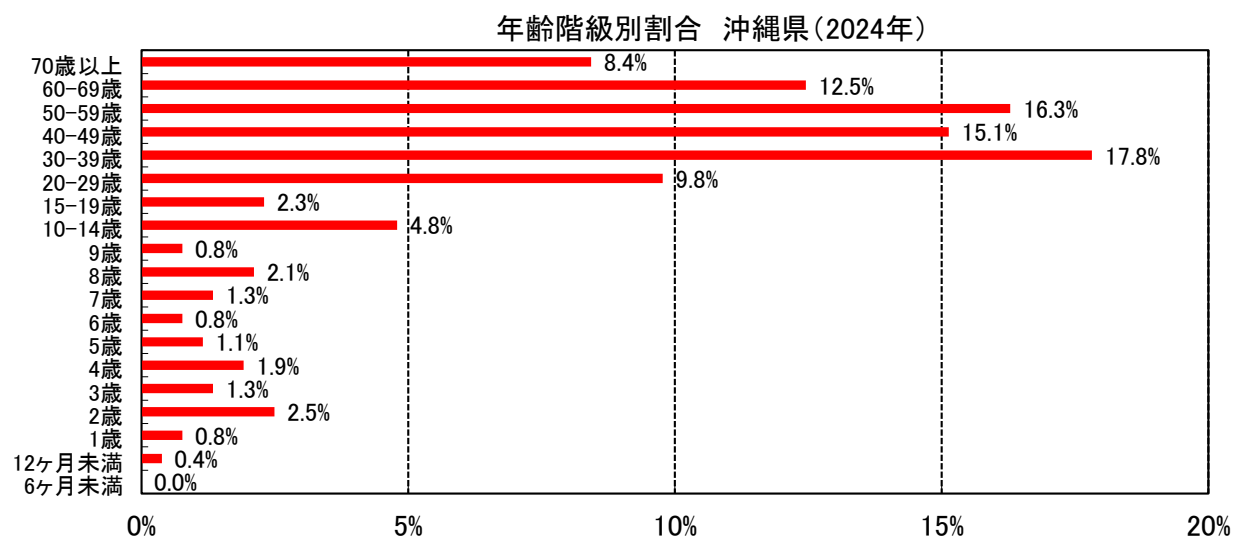
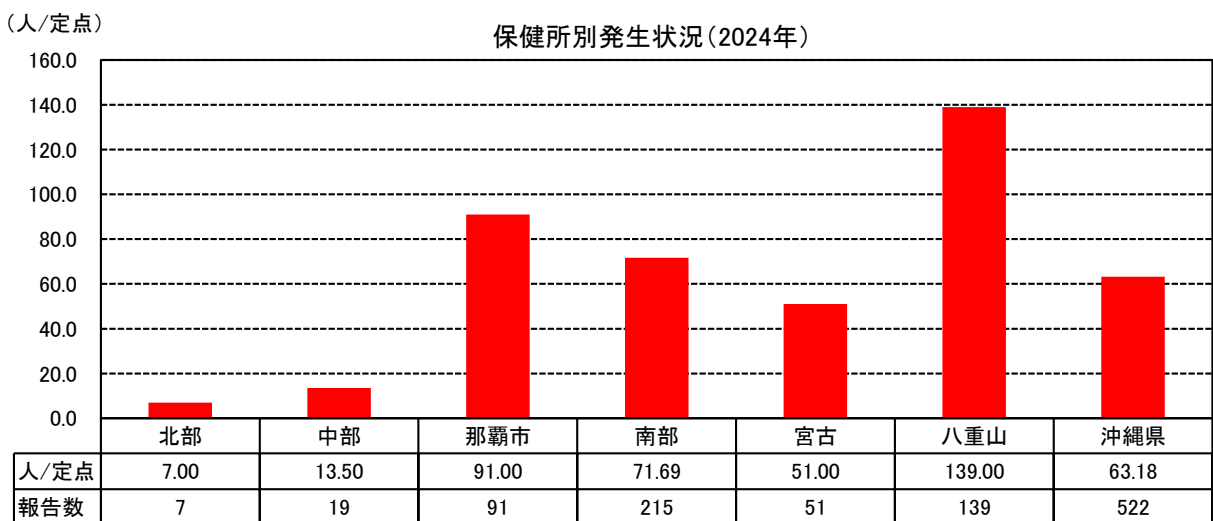
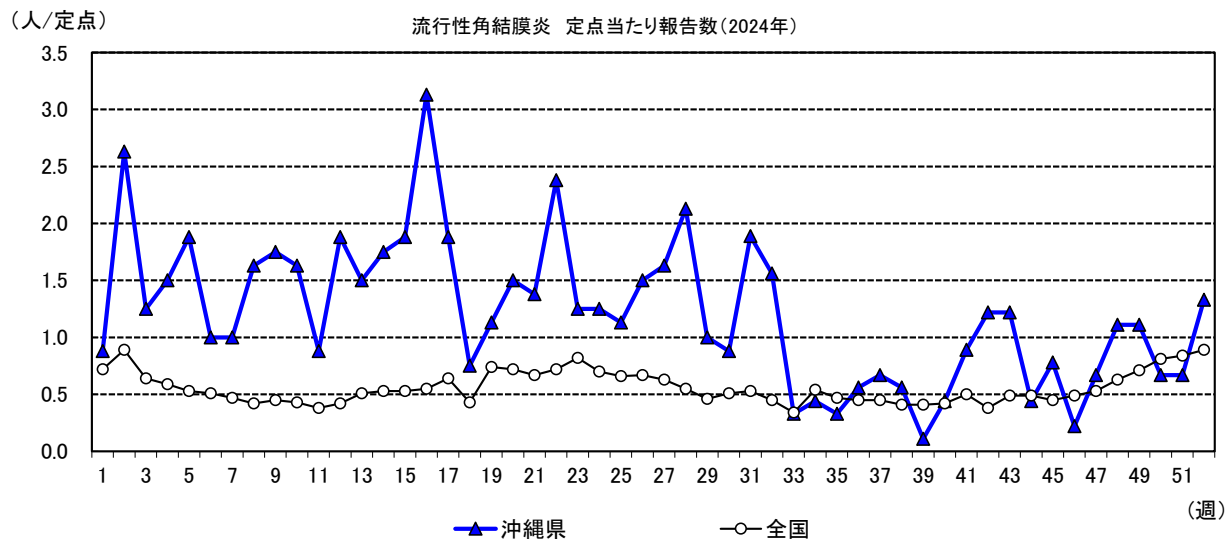


2024年、沖縄県内の報告数は522人、定点当たり報告数は63.18人であり、過去5年で二番目に多い報告数であった。

年齢階級別（沖縄県）では、30代の報告数が最も多く全体の17.8%、次いで50代が16.3%、40代が15.1%と続いた。



平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
341	203	237	177	567	522



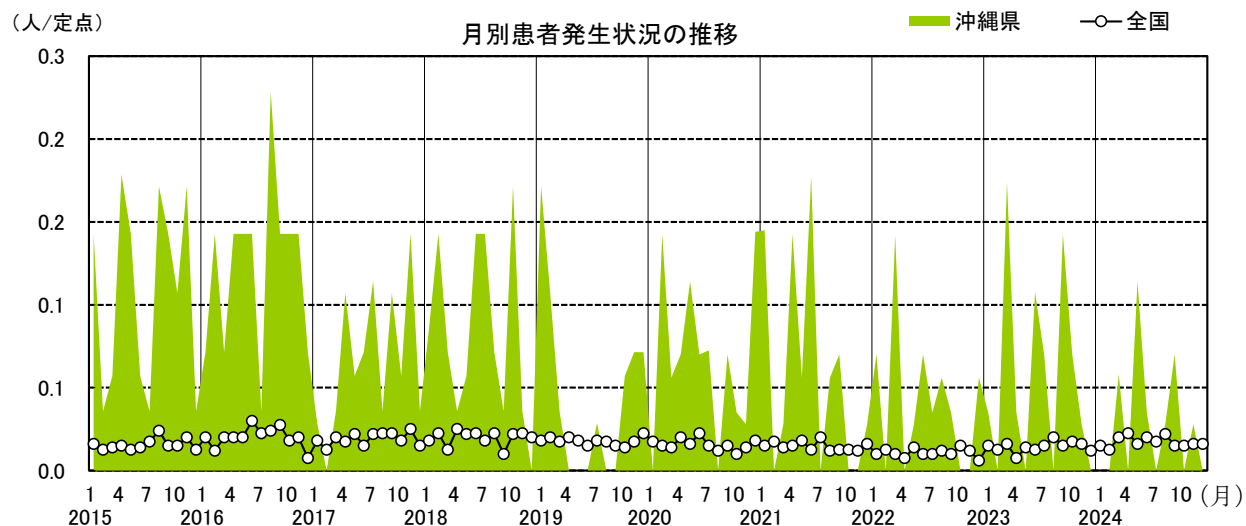
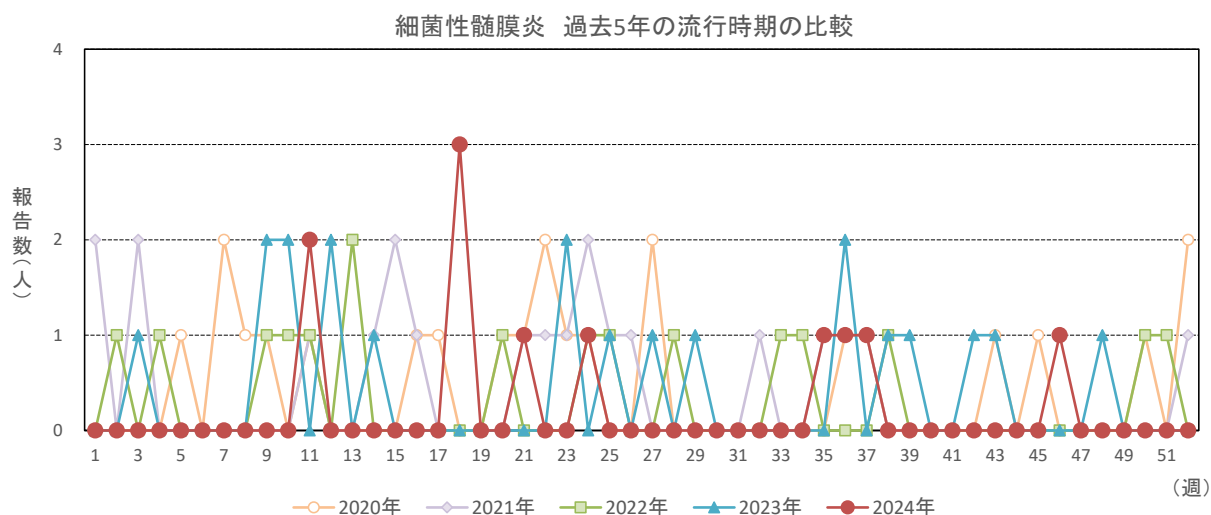
(3) 基幹定点

●細菌性髄膜炎

2024年、沖縄県内の報告数は11人、定点当たり報告数は1.56人であり、2022年よりも減少した。

沖縄県では第18週での定点当たり報告数0.43人が、全国では第11週での定点当たり報告数0.03人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、10-14歳が最も高く全体の27.3%を占めた。

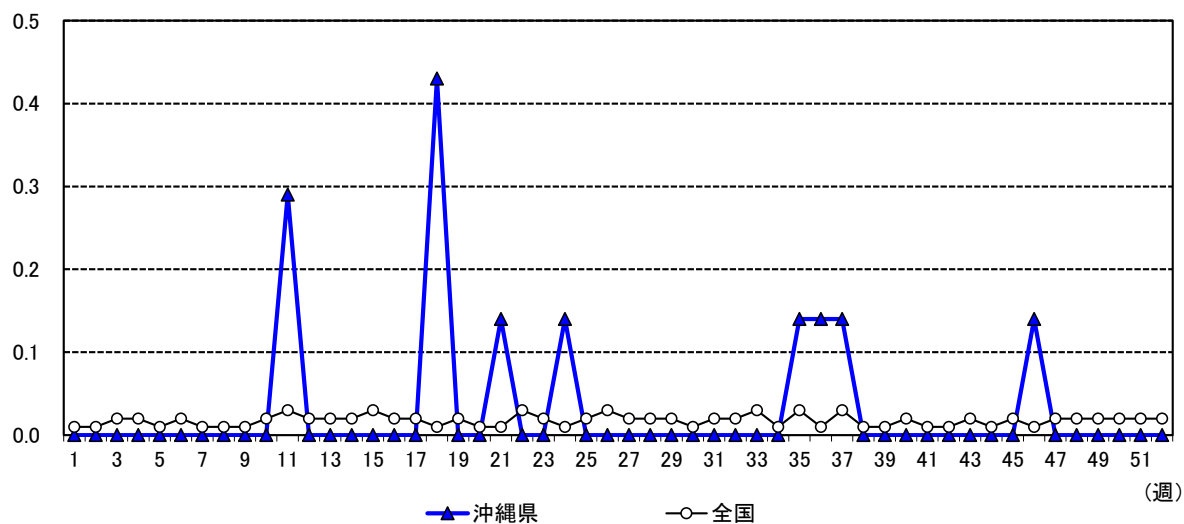


年別の報告数合計：細菌性髄膜炎

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
18	23	21	16	20	11

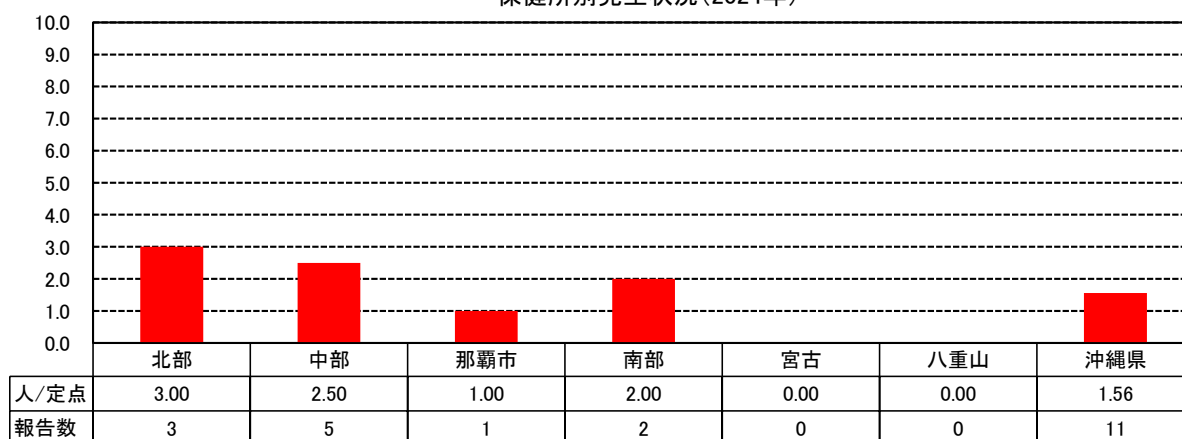
(人/定点)

細菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2024年)

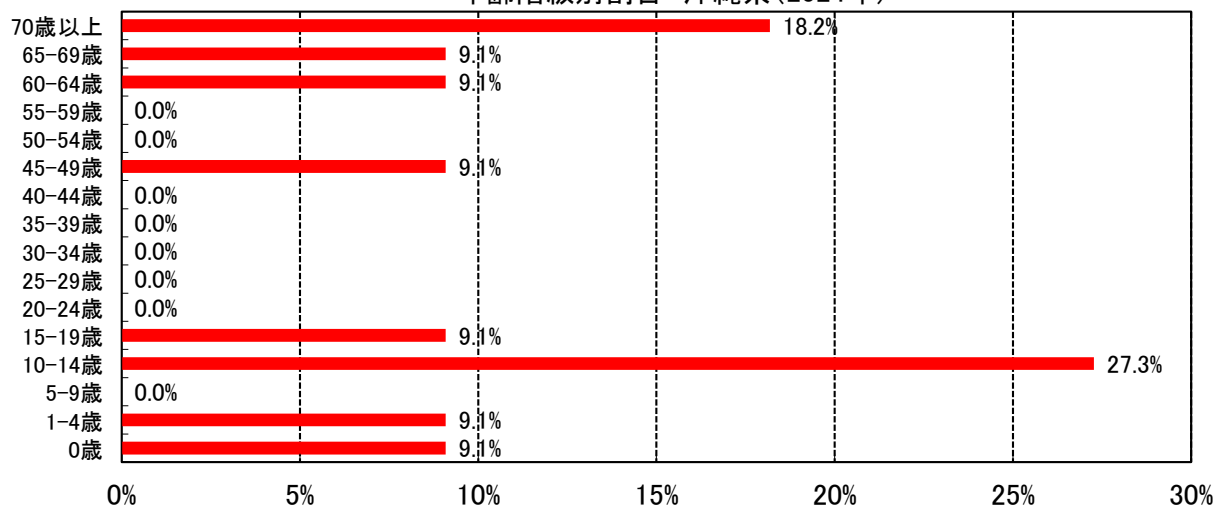


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)

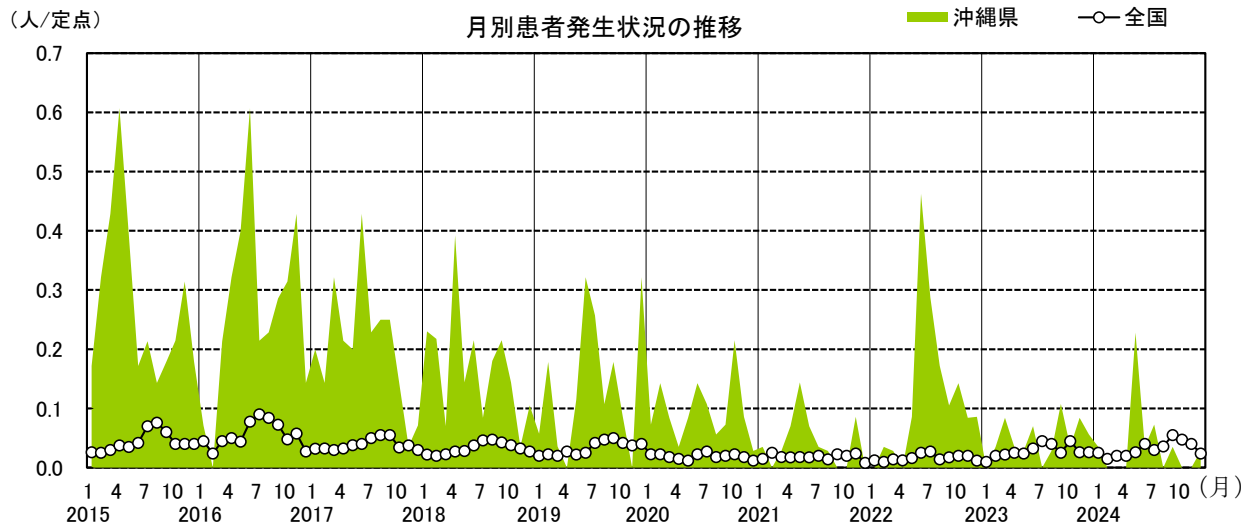
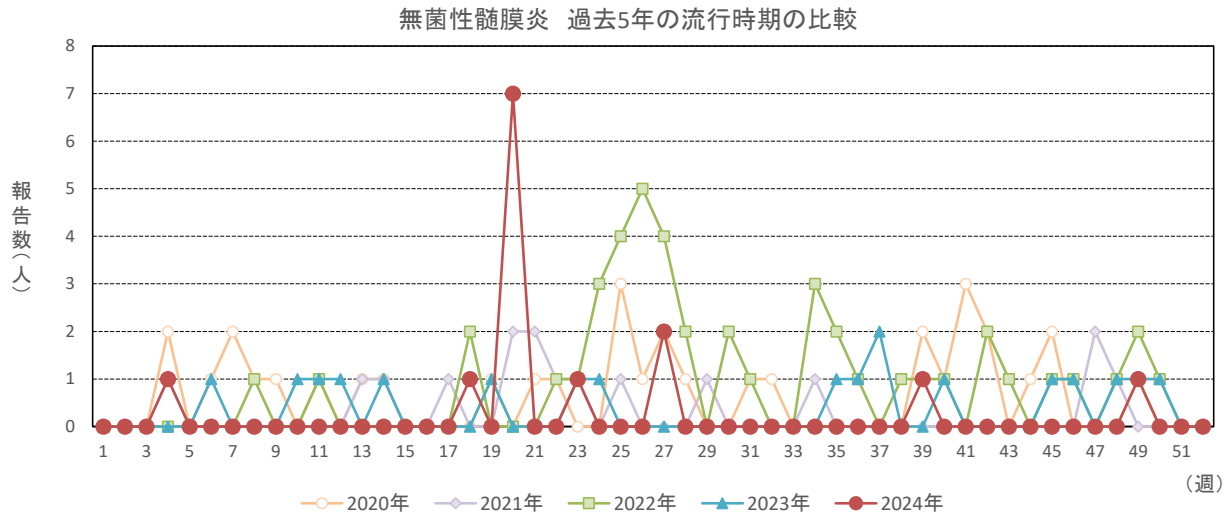


●無菌性髄膜炎

2024年、沖縄県内の報告数は14人、定点当たり報告数は1.99人であり、2023年よりも減少した。

沖縄県では第20週での定点当たり報告数1人が、全国では第36週での定点当たり報告数0.07人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）の患者報告数では、0歳が最も多く全体の28.6%を占めた。

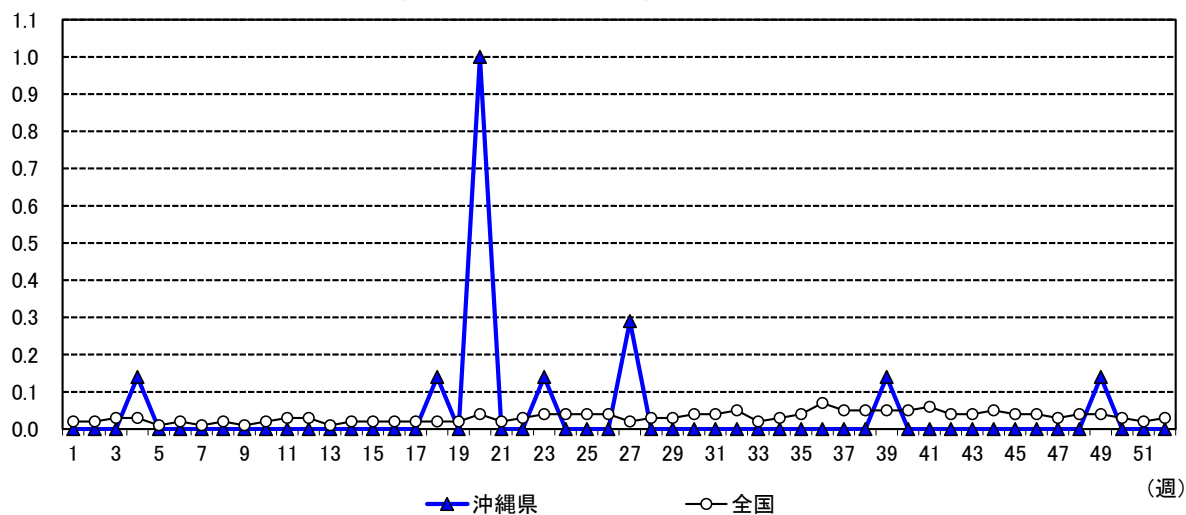


年別の報告数合計：無菌性髄膜炎

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
25	34	16	45	18	14

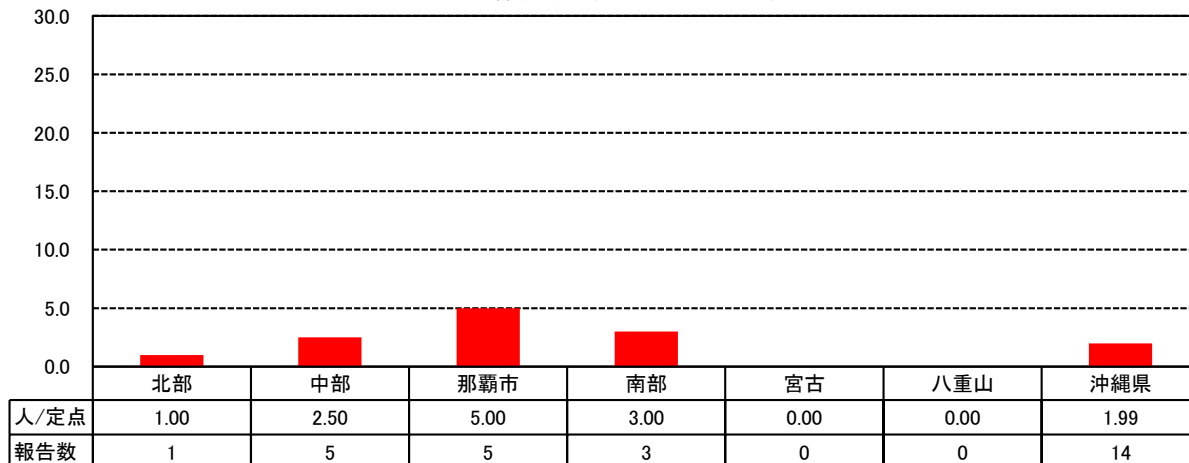
(人/定点)

無菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2024年)

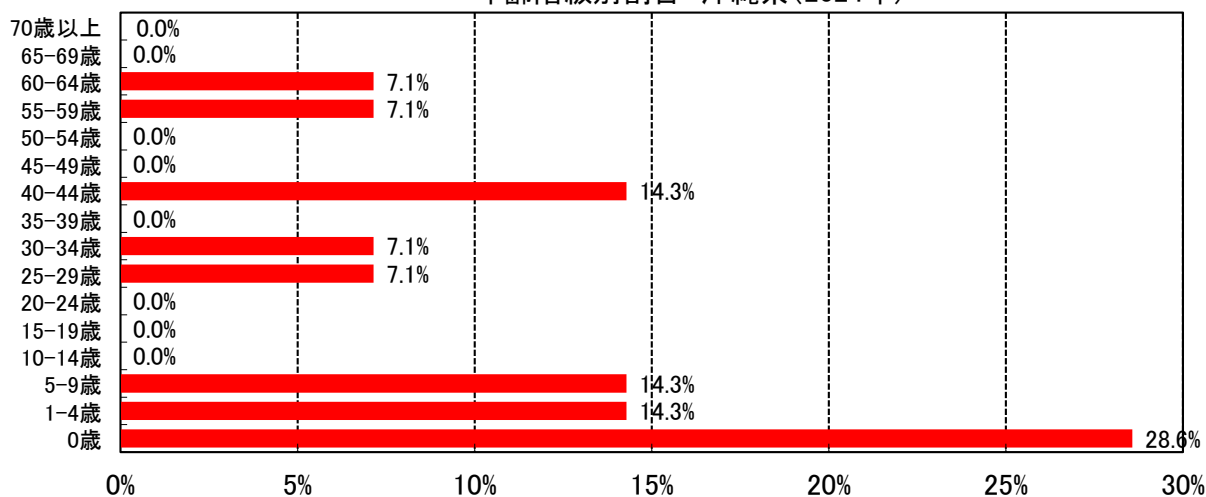


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)

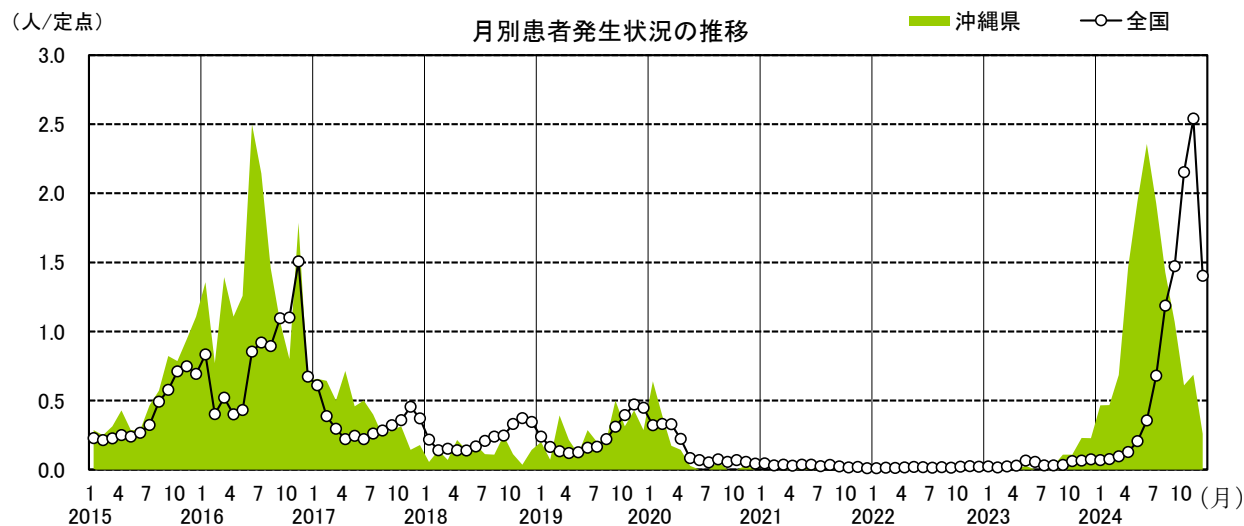
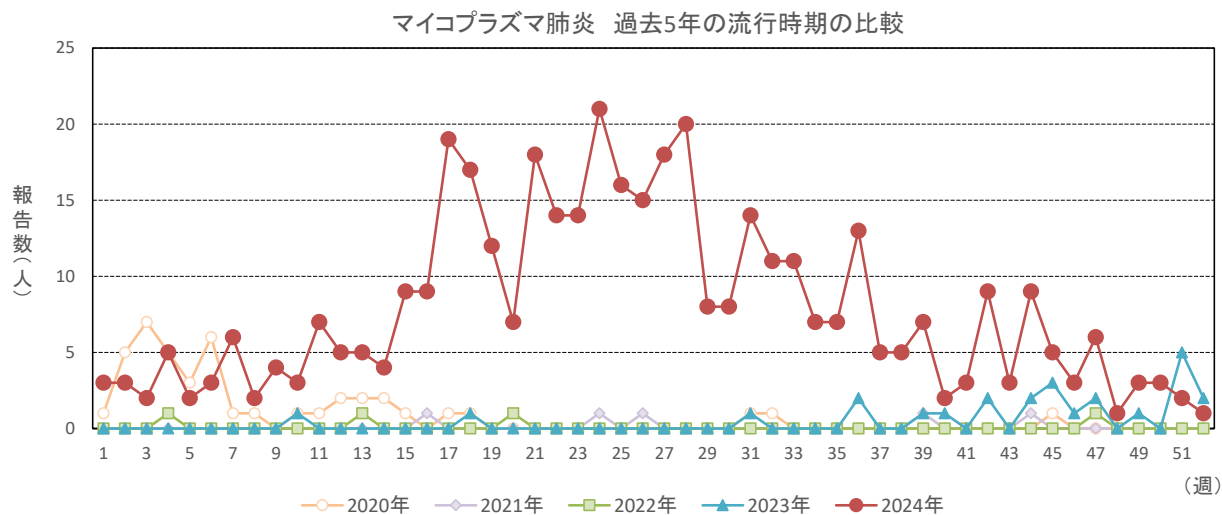


●マイコプラズマ肺炎

2024年、沖縄県内の報告数は409人、定点当たり報告数は58.44人であり、2023年よりも増加した。

沖縄県では第24週での定点当たり報告数3人が、全国では第46週での定点当たり報告数2.89人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、5-9歳が最も多く、全体の39.1%、次いで10-14歳が23.7%、1-4歳が23.5%と続いた。

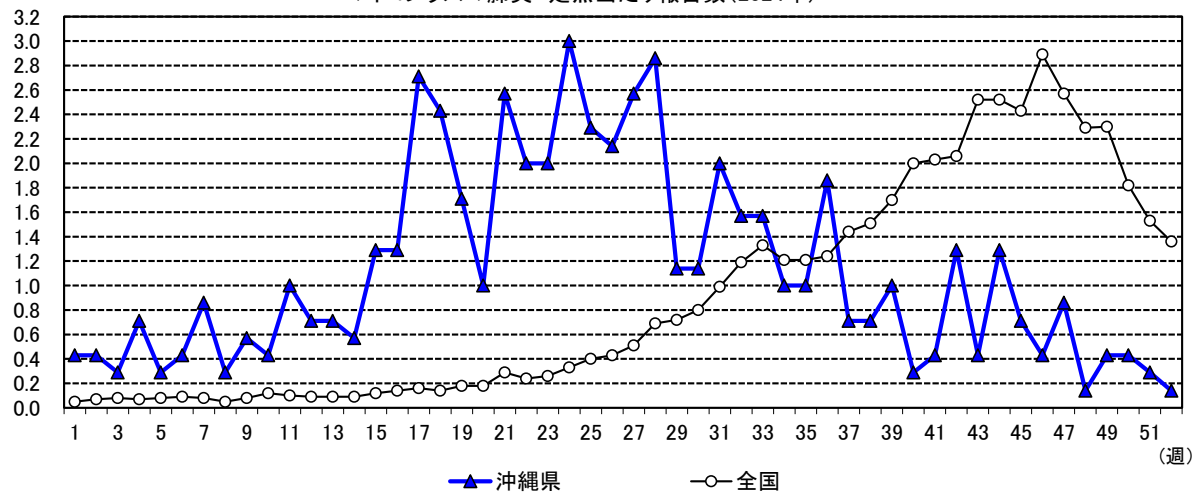


年別の報告数合計：マイコプラズマ肺炎

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
97	43	5	4	25	409

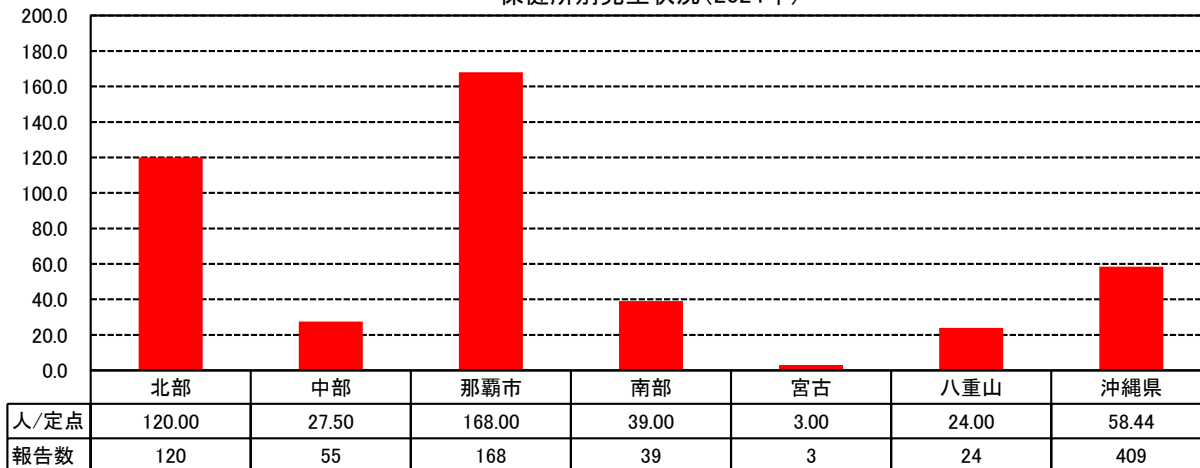
(人/定点)

マイコプラズマ肺炎 定点当たり報告数(2024年)

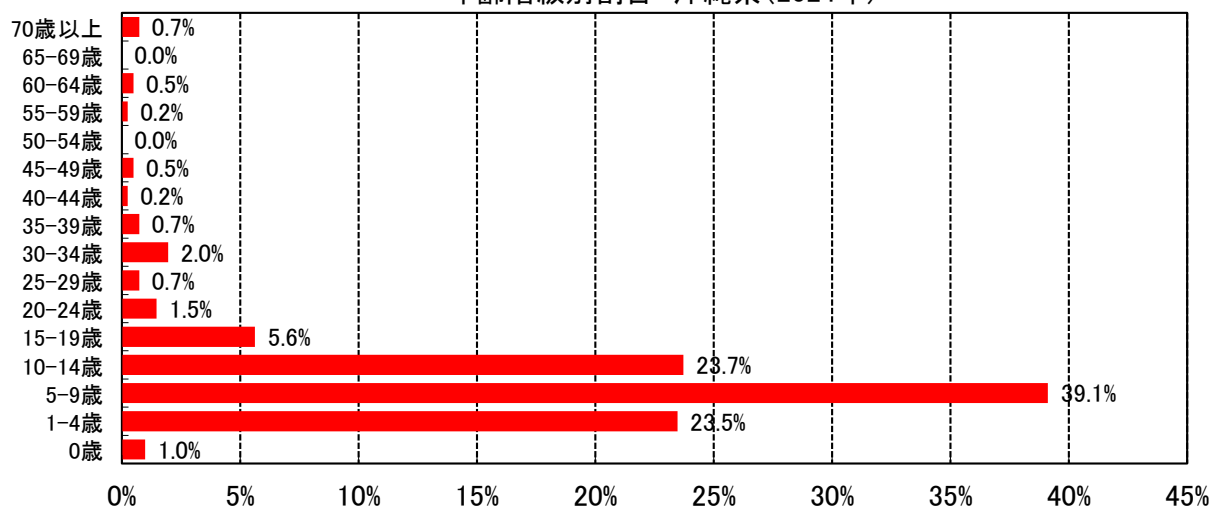


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)

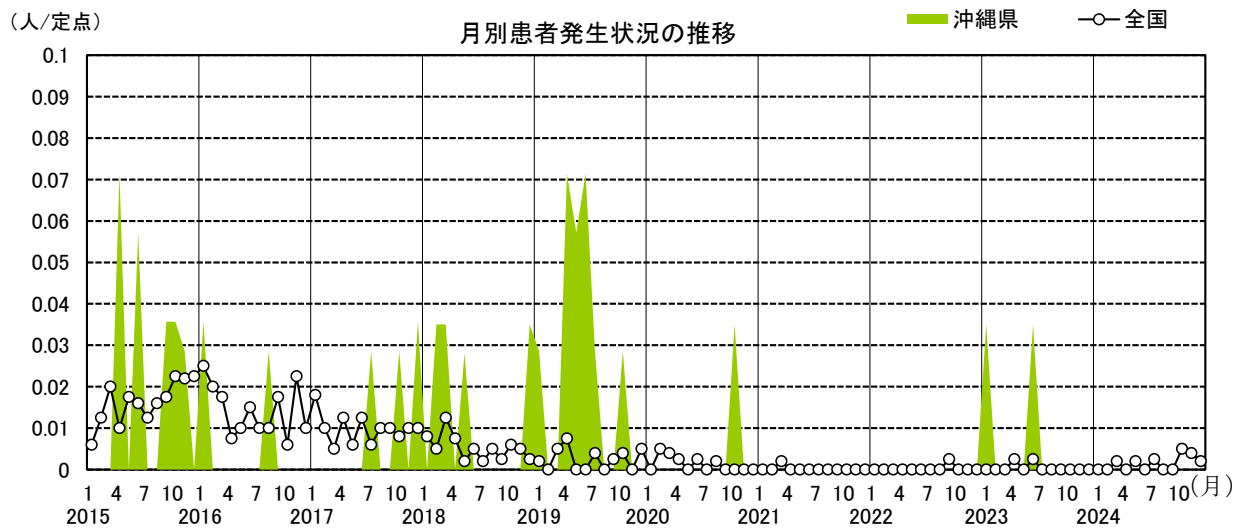
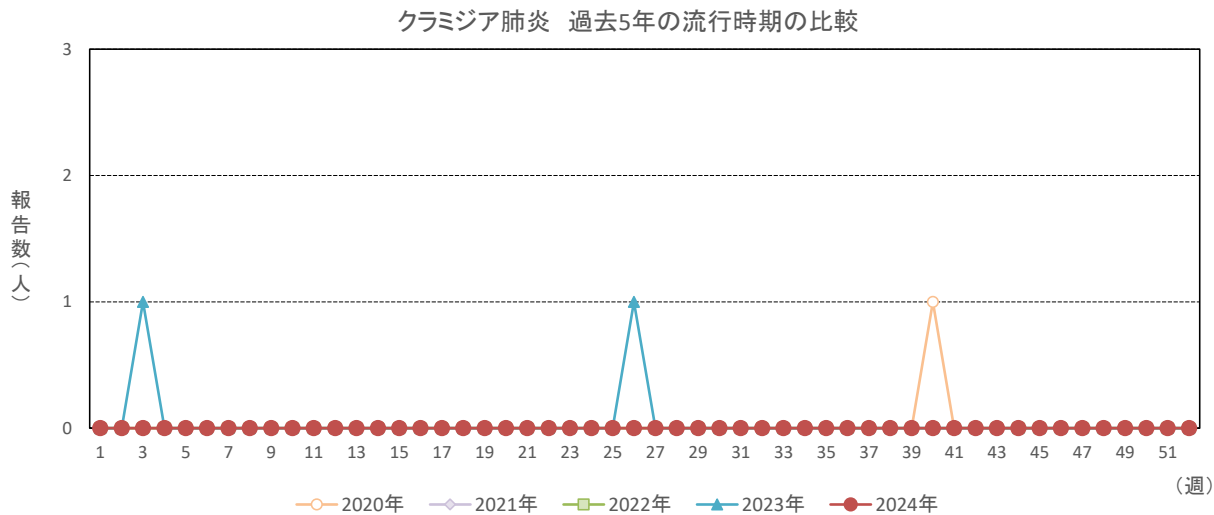


年齢階級別割合 沖縄県(2024年)



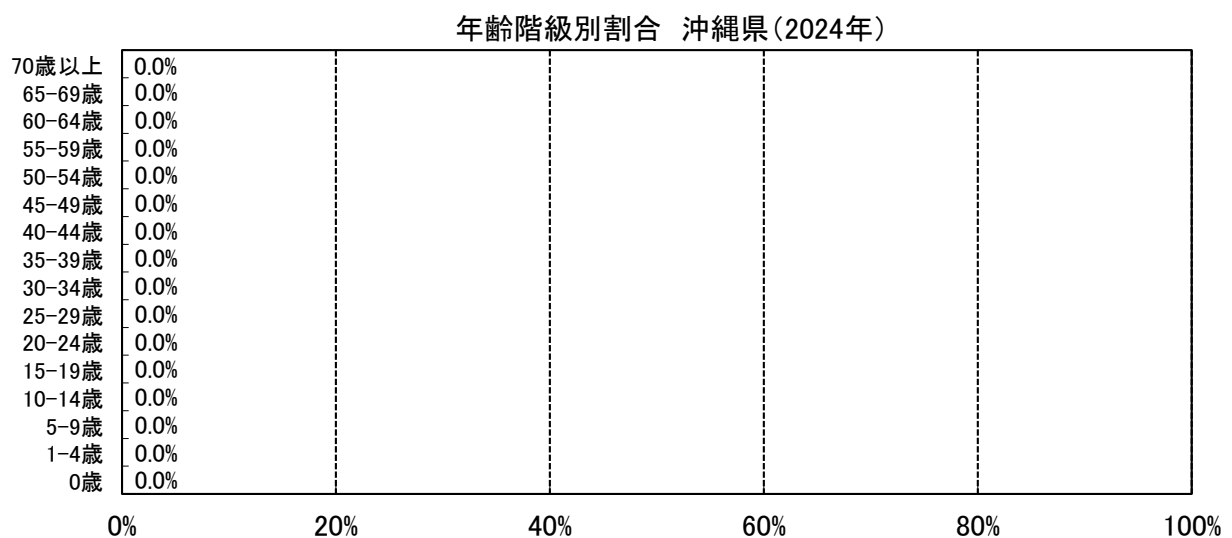
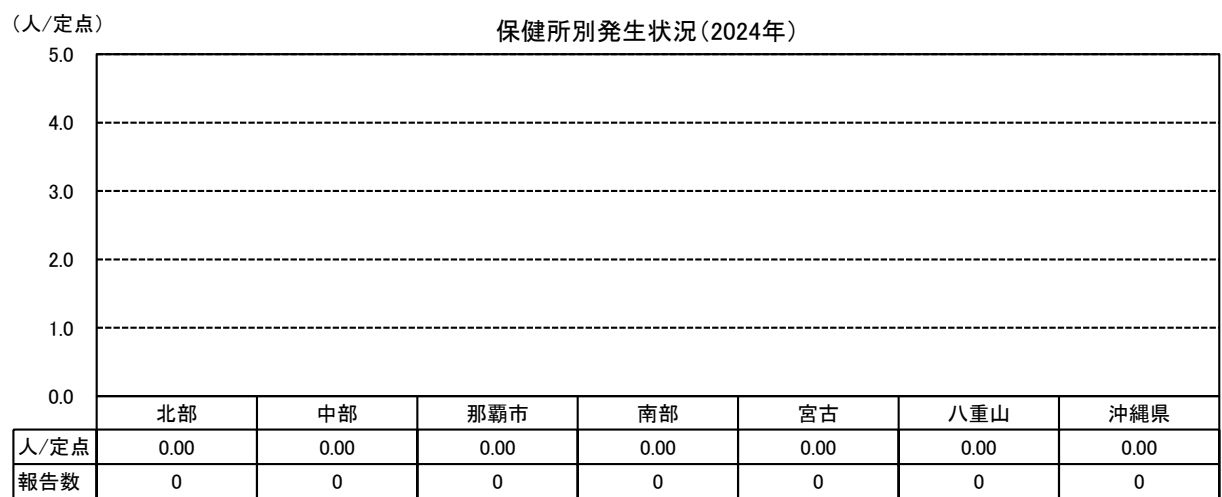
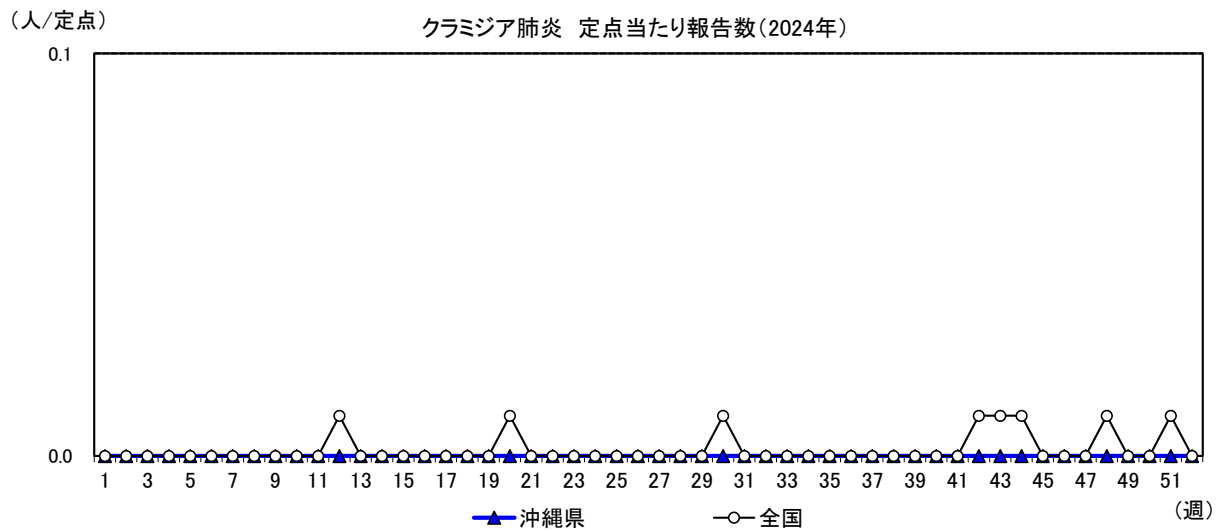
●クラミジア肺炎

2024年、沖縄県内の報告数は定点当たり報告数は0人で報告はなかった。
全国での報告数は72人、定点当たり報告数は0.08人で2023年の定点当たり報告数0.02人よりも増加した。



年別の報告数合計：クラミジア肺炎

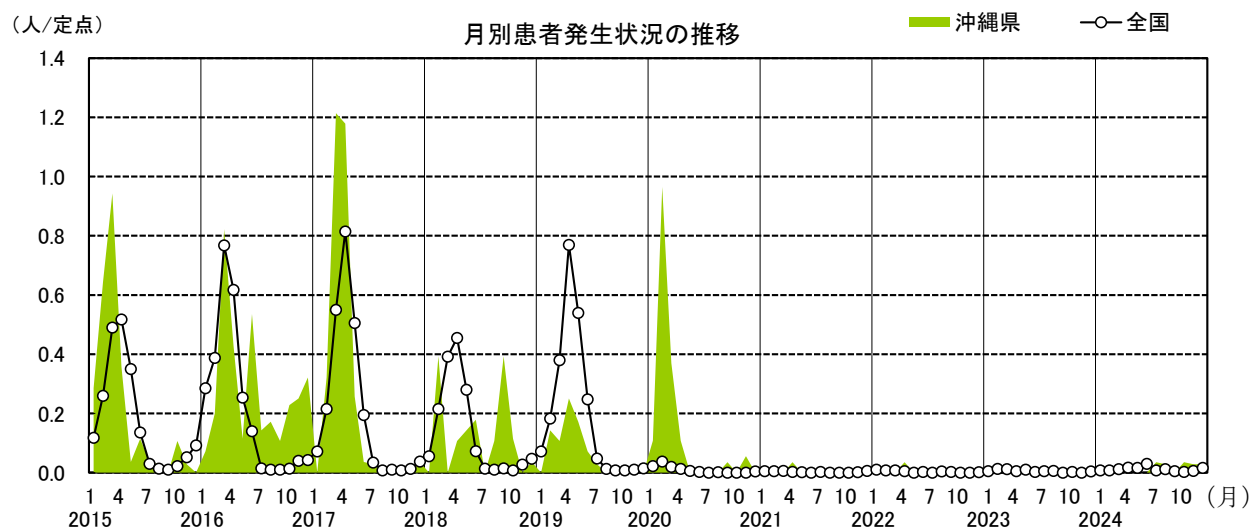
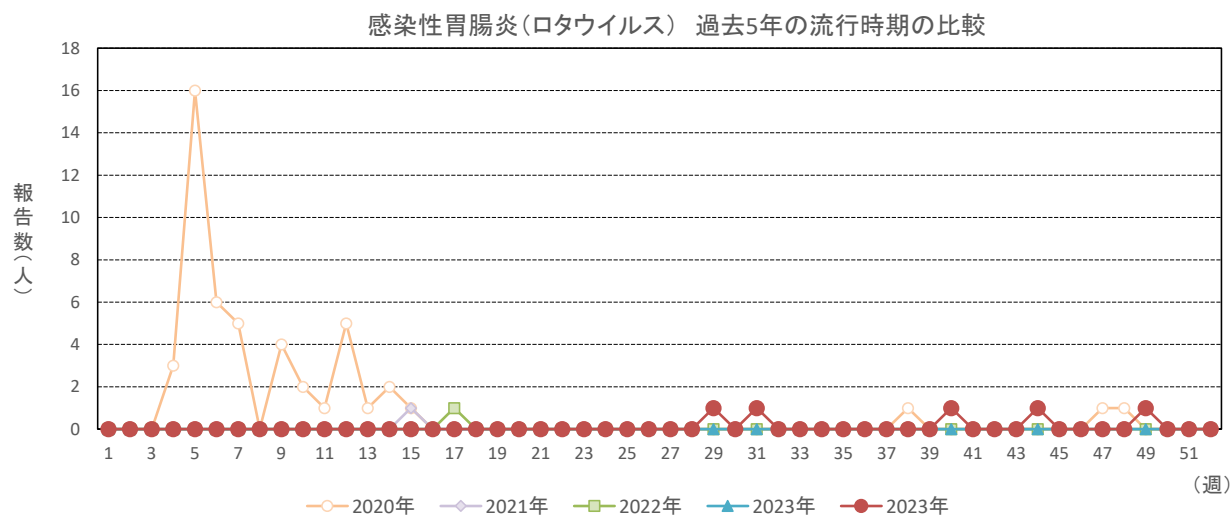
平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1	1	0	0	2	0



● 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2024年、沖縄県内の報告数は5人、定点当たり報告数は0.70人で、過去5年で二番目に多い報告数であった。

全国での報告数は317人、定点当たり報告数は0.62人で、2023年の定点当たり報告数0.29人よりも増加した。

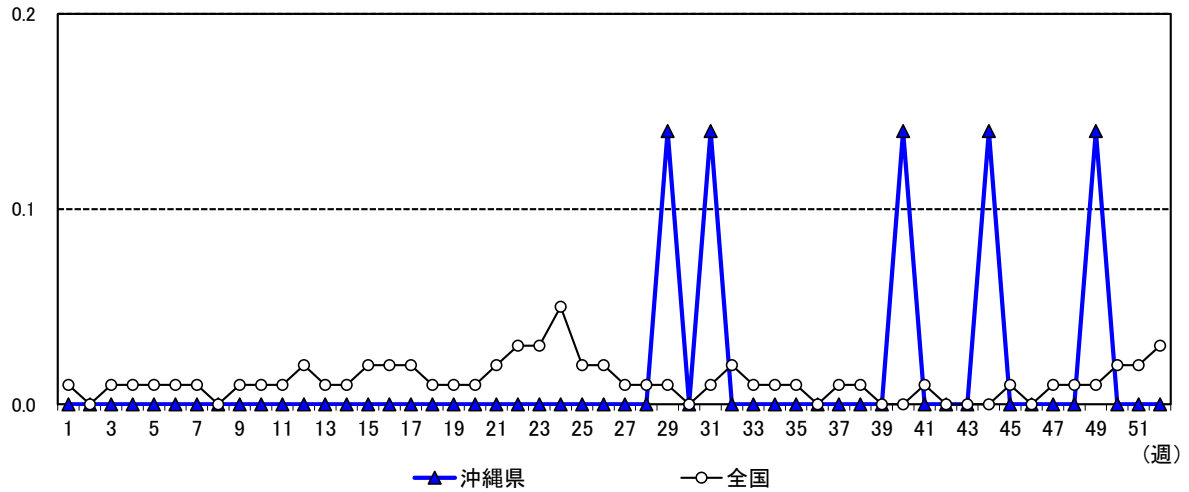


年別の報告数合計：感染性胃腸炎（ロタウイルス）

平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
11	49	1	1	0	5

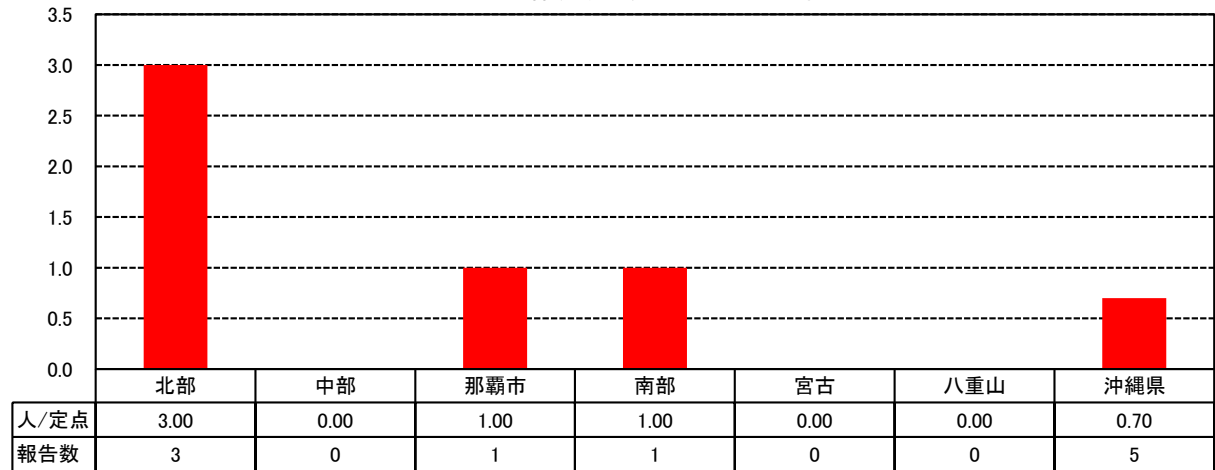
(人/定点)

感染性胃腸炎(ロタウイルス) 定点当たり報告数(2024年)

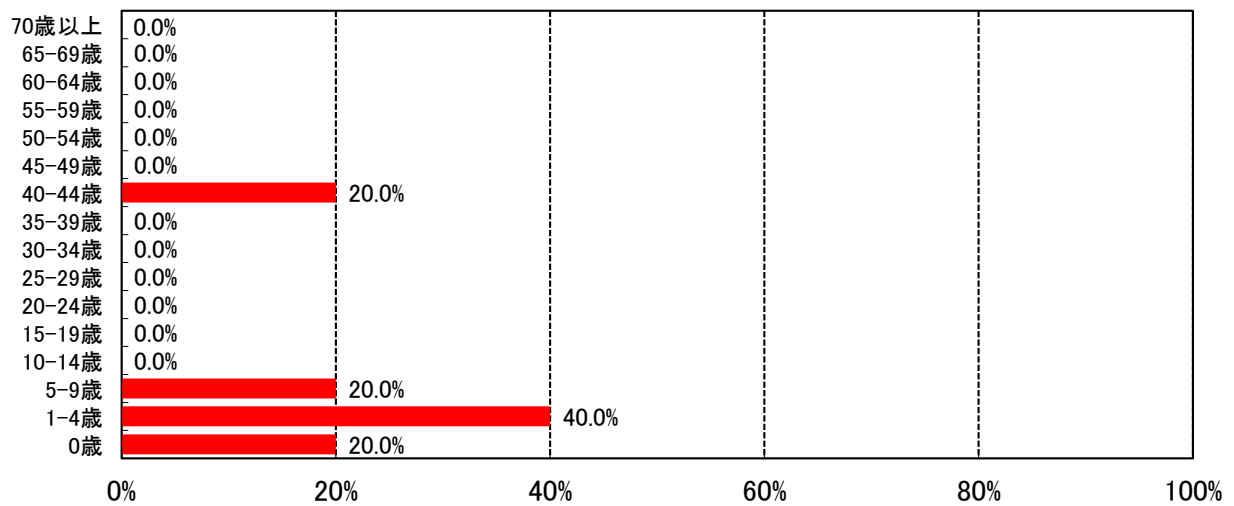


(人/定点)

保健所別発生状況(2024年)



年齢階級別割合 沖縄県(2024年)



MEMO

2 月報

(1) 性感染症 (STD) 定点

(※宮古および八重山は人口規模が小さいため、性感染症の定点医療機関は設置されていない。)

●性器クラミジア感染症

2024 年の沖縄県の報告数は 343 人（男性 40 人、女性 303 人）だった。年間の定点当たり報告数は 28.57 人で 2023 年（33.35 人）に比べかなり減少し、全国（2024 年：30.38 人、2023 年：31.78 人）とほぼ同様の水準であった。性別でみると男性は 3.34 人で 2023 年（4.17 人）に比べかなり減少し、全国（2024 年：15.14 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 25.25 人で 2023 年（29.18 人）よりもやや減少し、全国（2024 年：15.24 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年代別でみると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

●性器ヘルペスウイルス感染症

2024 年の沖縄県の報告数は 62 人（男性 7 人、女性 55 人）だった。年間の定点当たり報告数は 5.17 人で 2023 年（8.08 人）に比べ大幅に減少し、全国（2024 年：10.20 人）に比べ大幅に低い水準にあった。性別でみると男性は 0.57 人で 2023 年（0.74 人）に比べかなり減少し、全国（2024 年：3.94 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 4.57 人で 2023 年（7.33 人）に比べ大幅に減少し、全国（2024 年：6.27 人）に比べかなり低い水準にあった。性別年代別でみると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

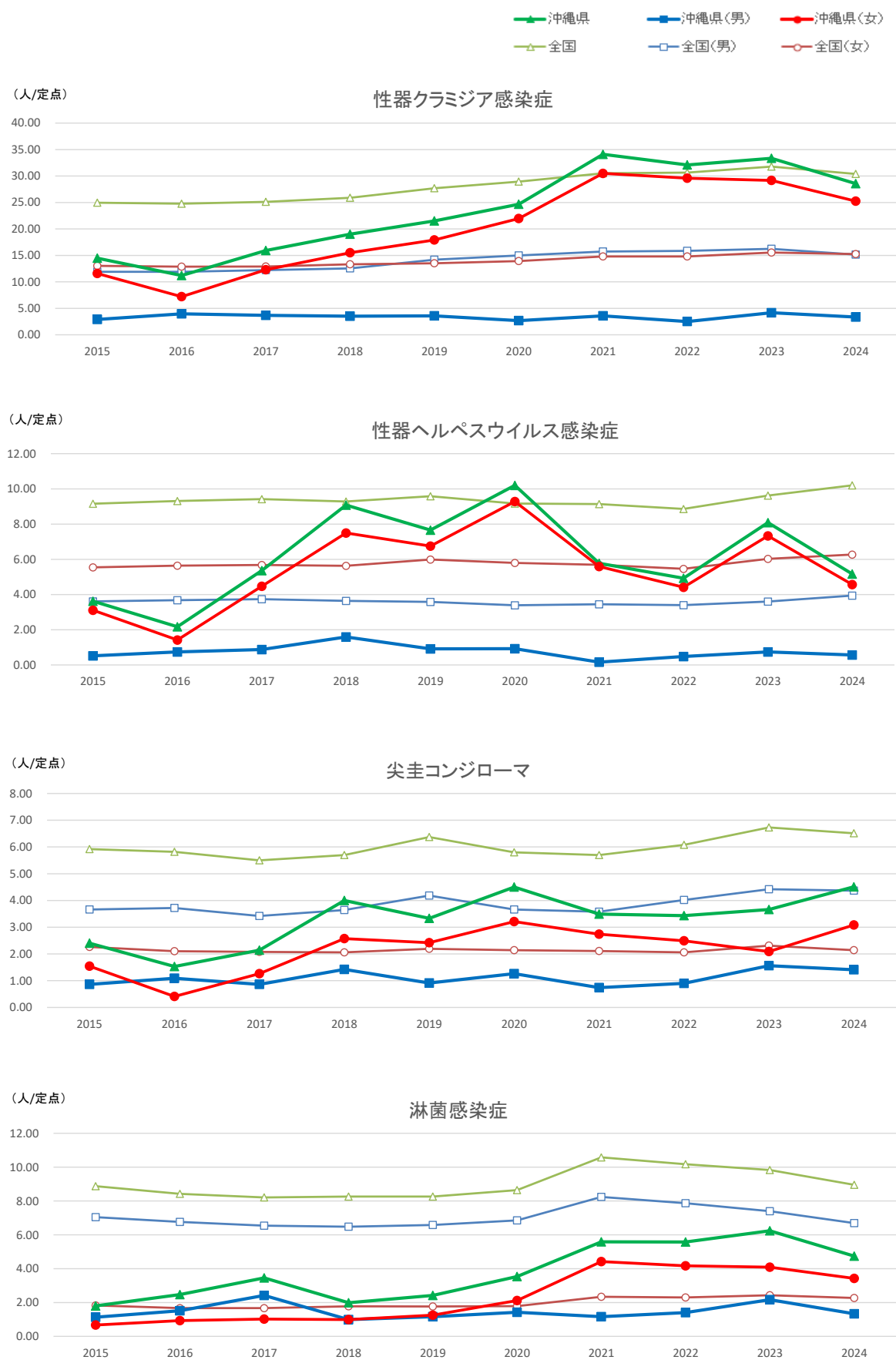
●尖圭コンジローマ

2024 年の沖縄県の報告数は 54 人（男性 17 人、女性 37 人）だった。年間の定点当たり報告数は 4.51 人で 2023 年（3.66 人）に比べやや増加し、全国（2024 年：6.51 人）に比べかなり低い水準にあった。性別でみると男性は 1.41 人で 2023 年（1.56 人）に比べやや減少し、全国（2024 年：4.37 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 3.08 人で 2023 年（2.09 人）に比べかなり増加し、全国（2024 年：2.14 人）に比べかなり高い水準ににあった。性別年齢別でみると男性は 20 代と 40 代が同数で最も多く、女性は 20 代が最も多かった。

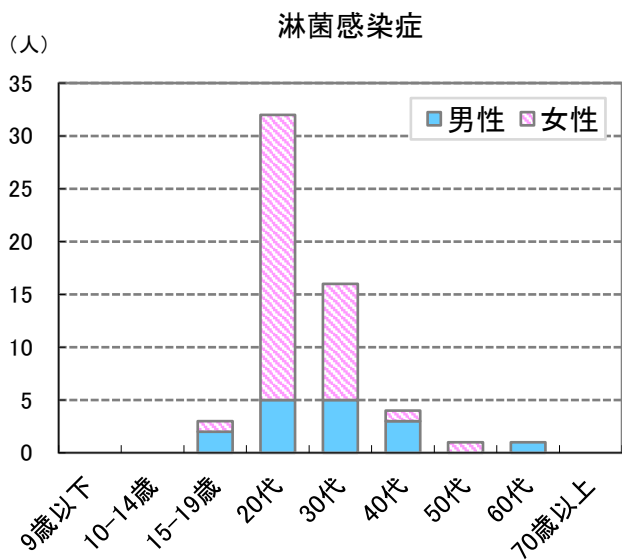
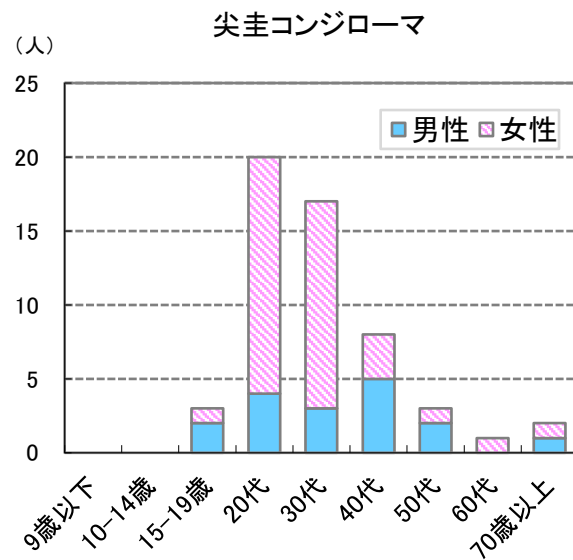
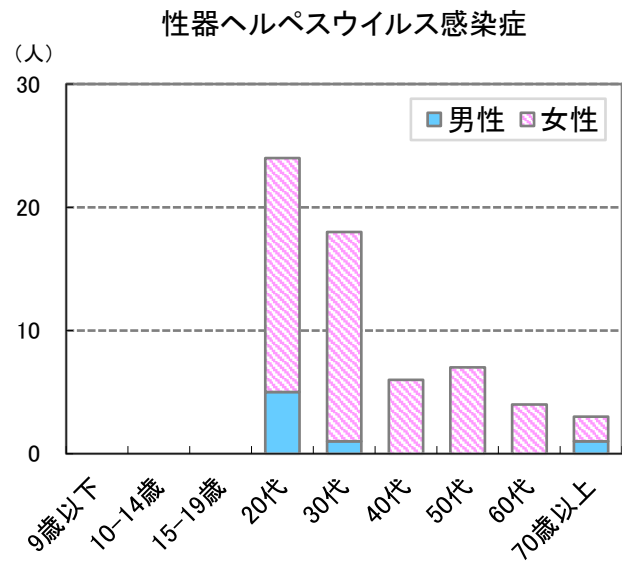
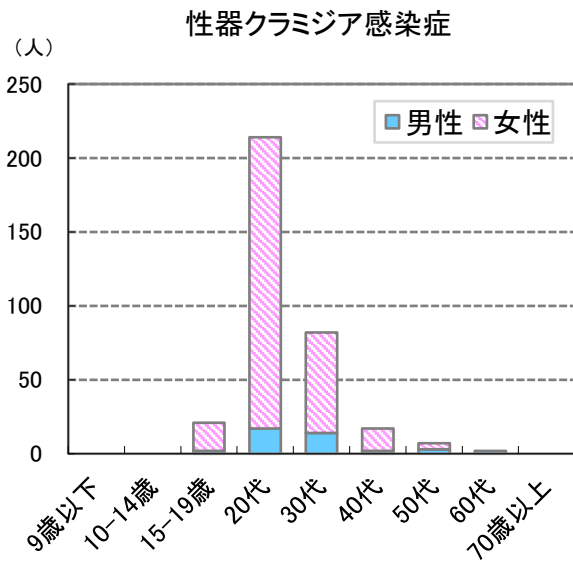
●淋菌感染症

2024 年の沖縄県の報告数は 57 人（男性 16 人、女性 41 人）だった。年間の定点当たり報告数は 4.74 人で 2023 年（6.24 人）に比べかなり減少し、全国（2024 年：8.96 人）に比べ大幅に低い水準にあった。性別でみると男性は 1.33 人で 2023 年（2.17 人）に比べ大幅に減少し、全国（2024 年：6.69 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 3.43 人で 2023 年（4.09 人）に比べやや減少し、全国（2024 年：2.27 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年齢別でみると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

ア. 疾患別定点当たり報告数（年合計）の年次推移



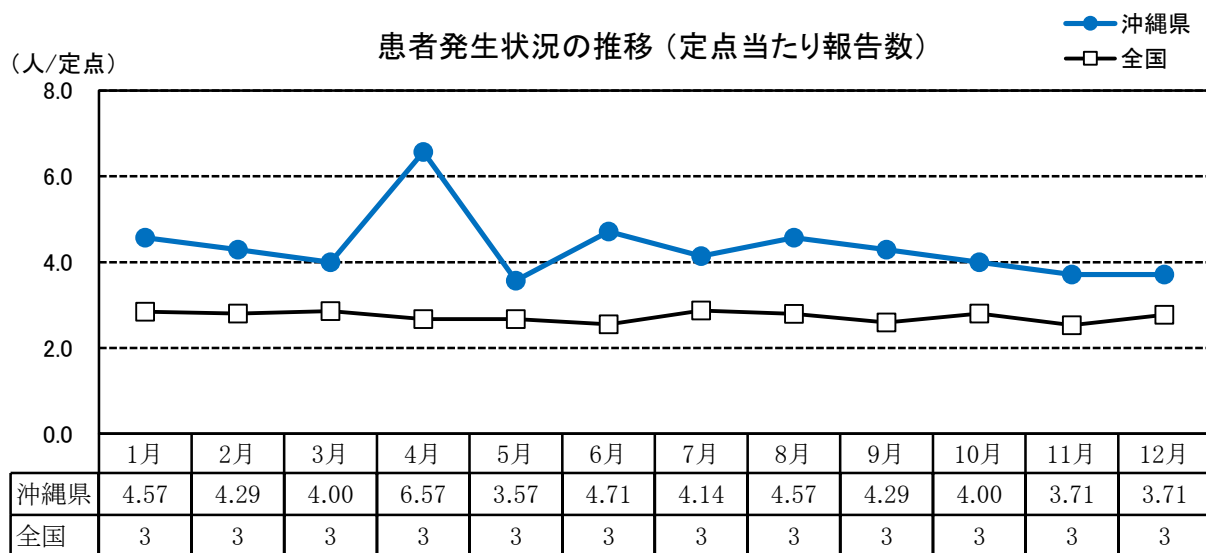
イ. 性別・年齢別患者報告数（沖縄県：2024年）



		9歳以下	10-14歳	15-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	小計	合計
性器クラミジア 感染症	男性	0	0	2	17	14	2	3	2	0	40	343
	女性	0	0	19	197	68	15	4	0	0	303	
性器ヘルペス ウイルス感染症	男性	0	0	0	5	1	0	0	0	1	7	62
	女性	0	0	0	19	17	6	7	4	2	55	
尖圭 コンジローマ	男性	0	0	2	4	3	5	2	0	1	17	54
	女性	0	0	1	16	14	3	1	1	1	37	
淋菌感染症	男性	0	0	2	5	5	3	0	1	0	16	57
	女性	0	0	1	27	11	1	1	0	0	41	

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

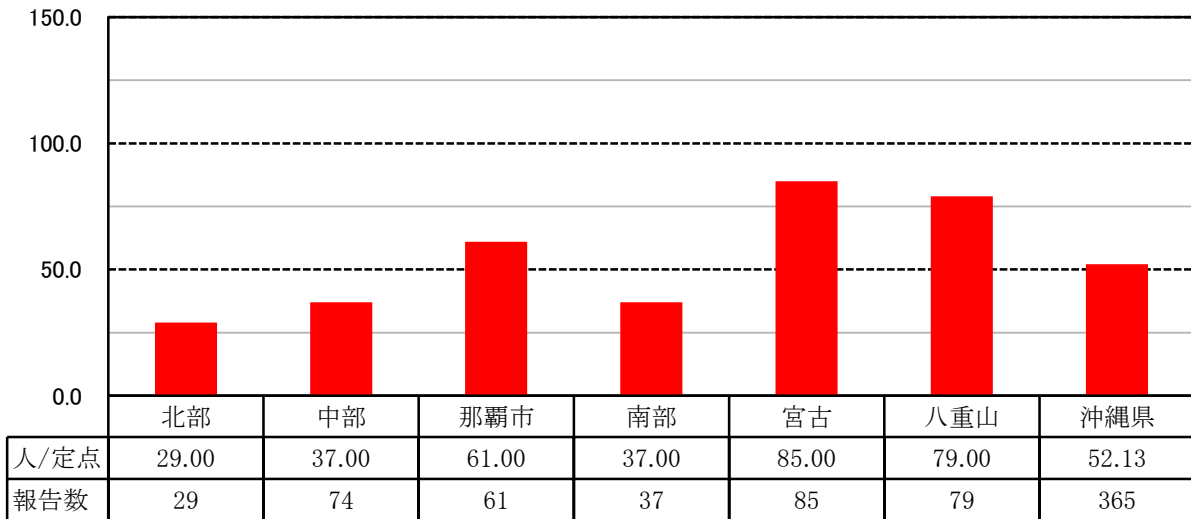
年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の51.0%を占めていた。



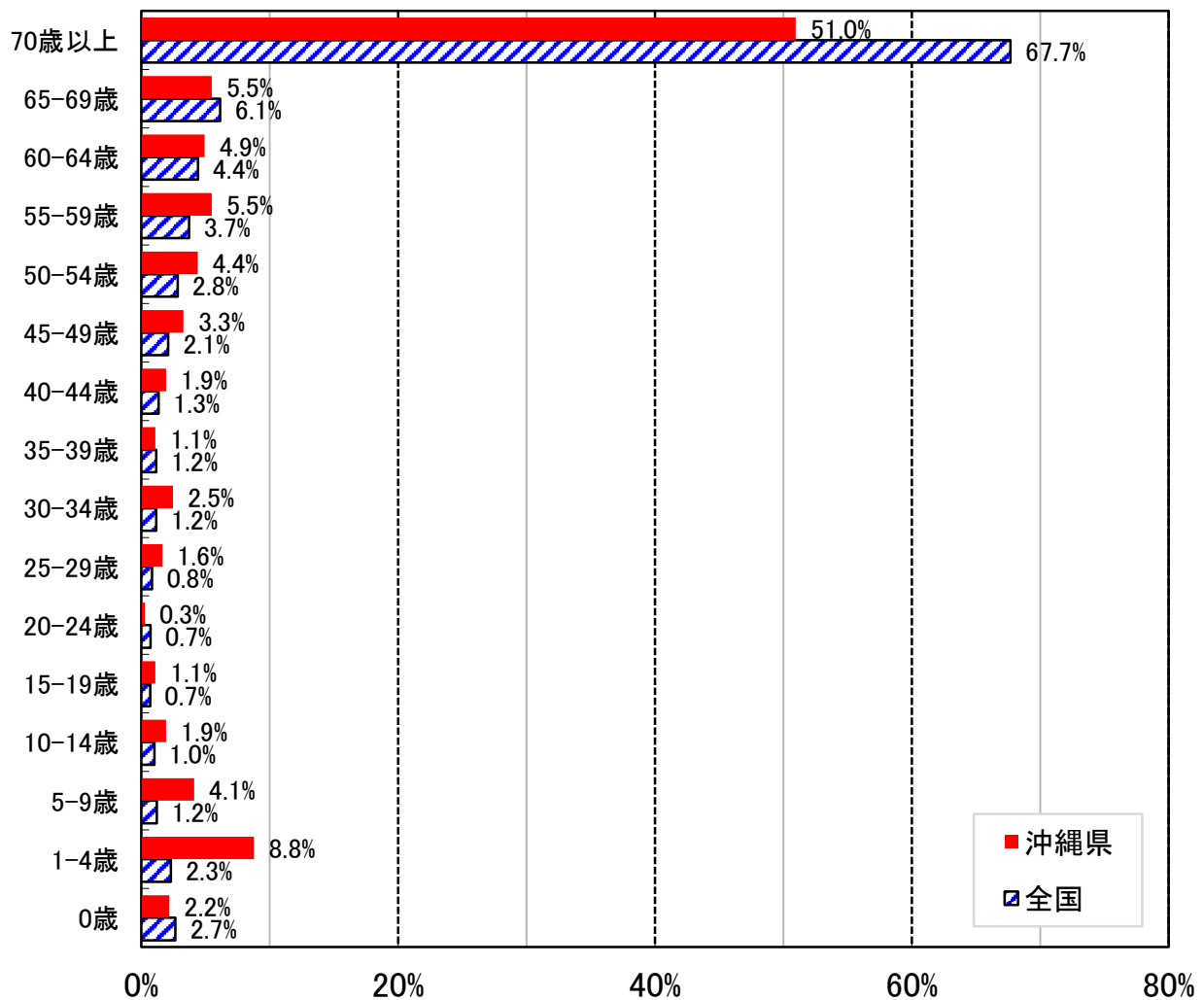
平均報告数	2021年	2022年	2022年	2023年	2024年
375	416	354	365	376	365

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



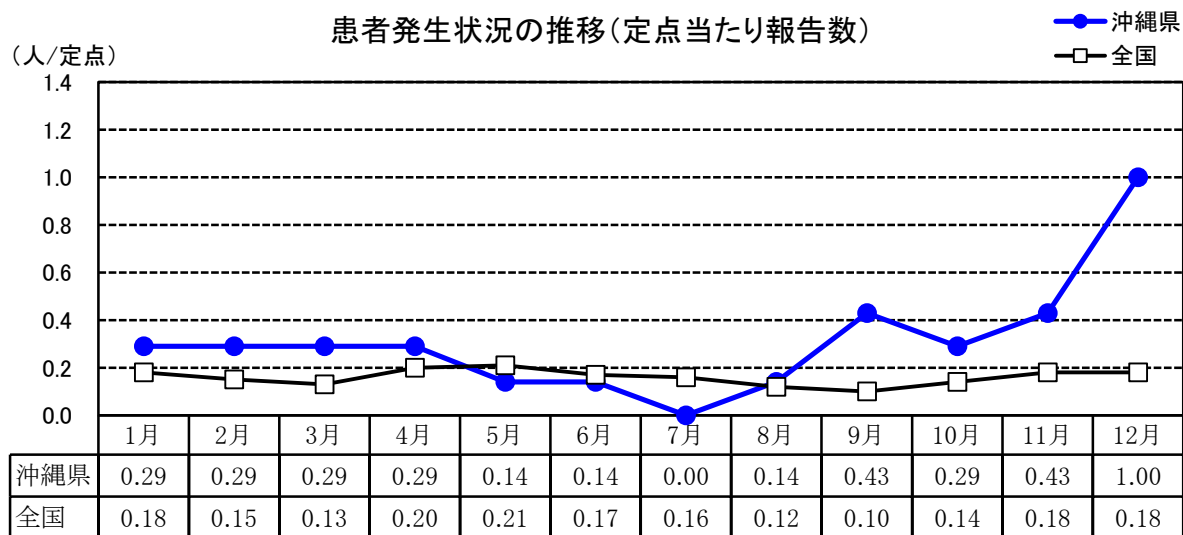
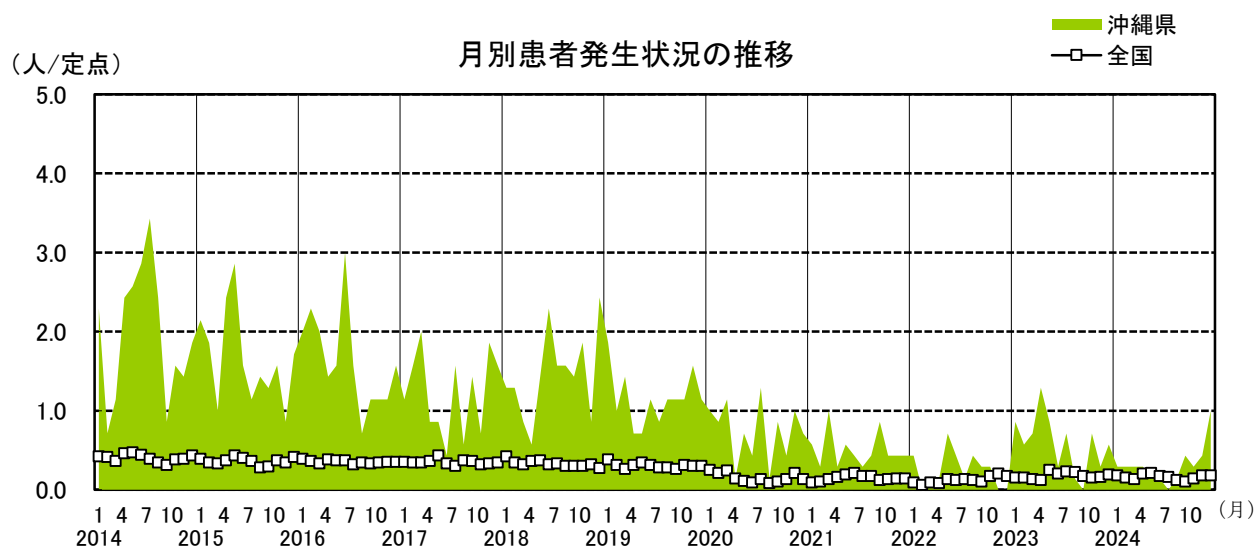
年齢階級別割合



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2024年、沖縄県内の報告数は26人だった。定点当たり報告数は3.73人で2023年（7.00人）に比べ大幅に増加し、全国（2024年：1.91人）に比べ大幅に高い水準であった。

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の26.9%を占めていた。

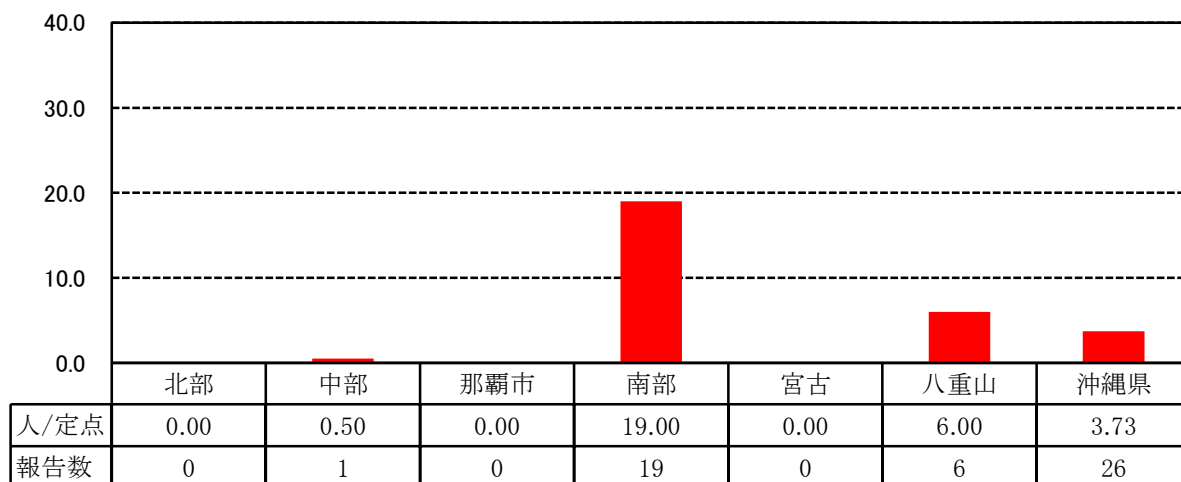


年別の報告数合計： ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

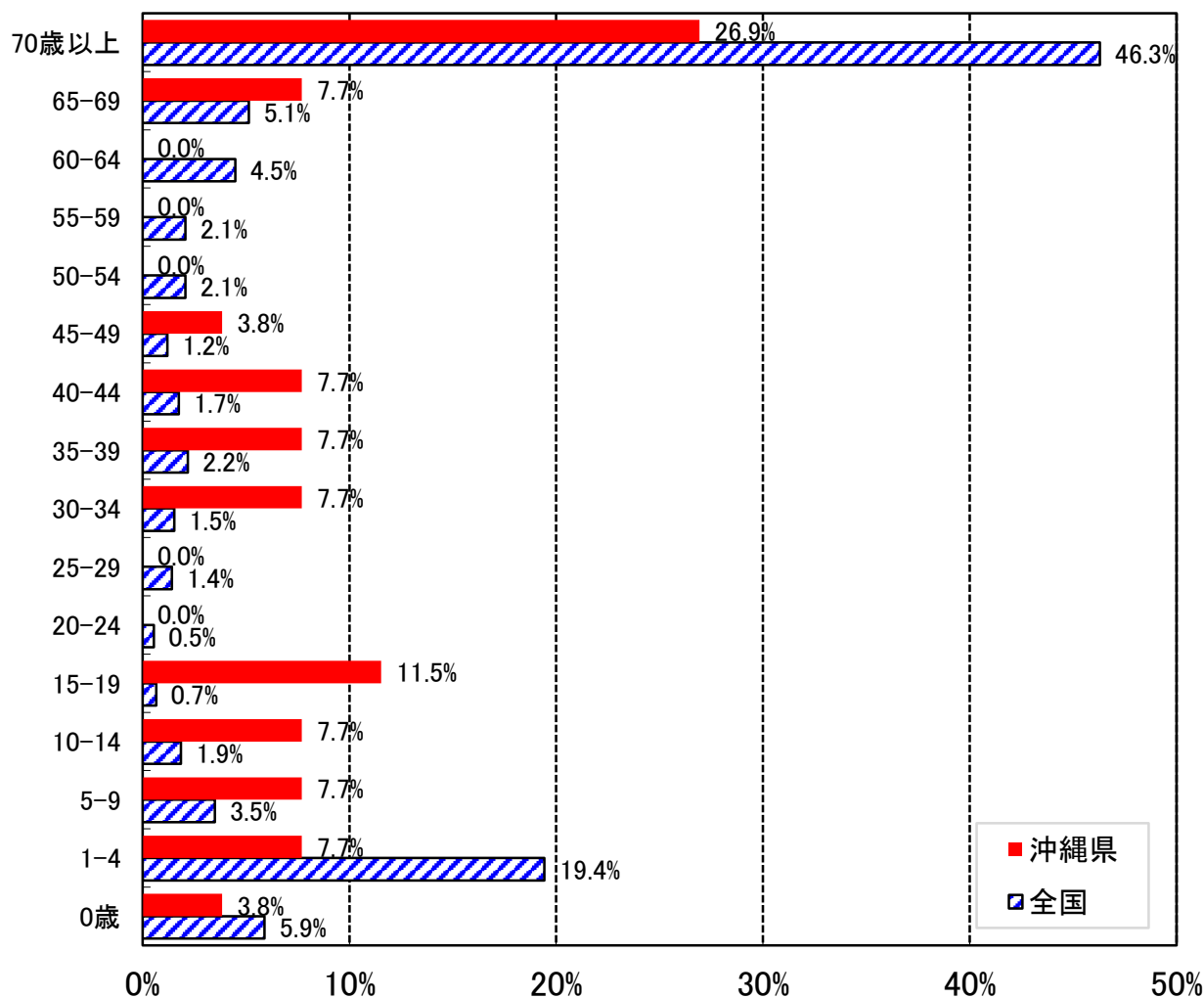
平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
35	61	42	21	26	26

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)

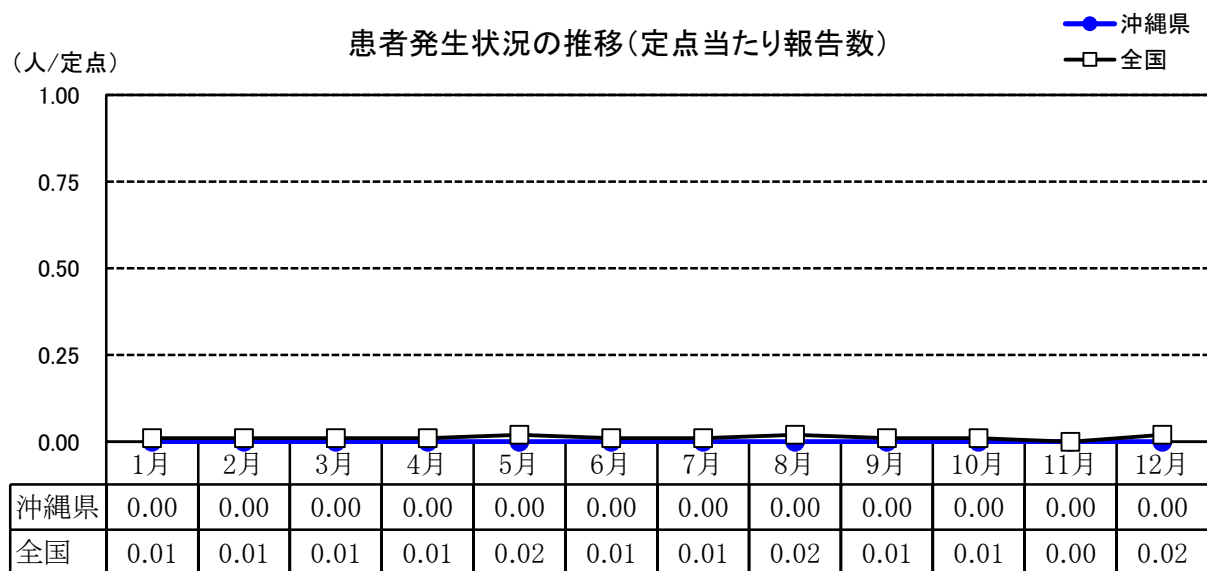
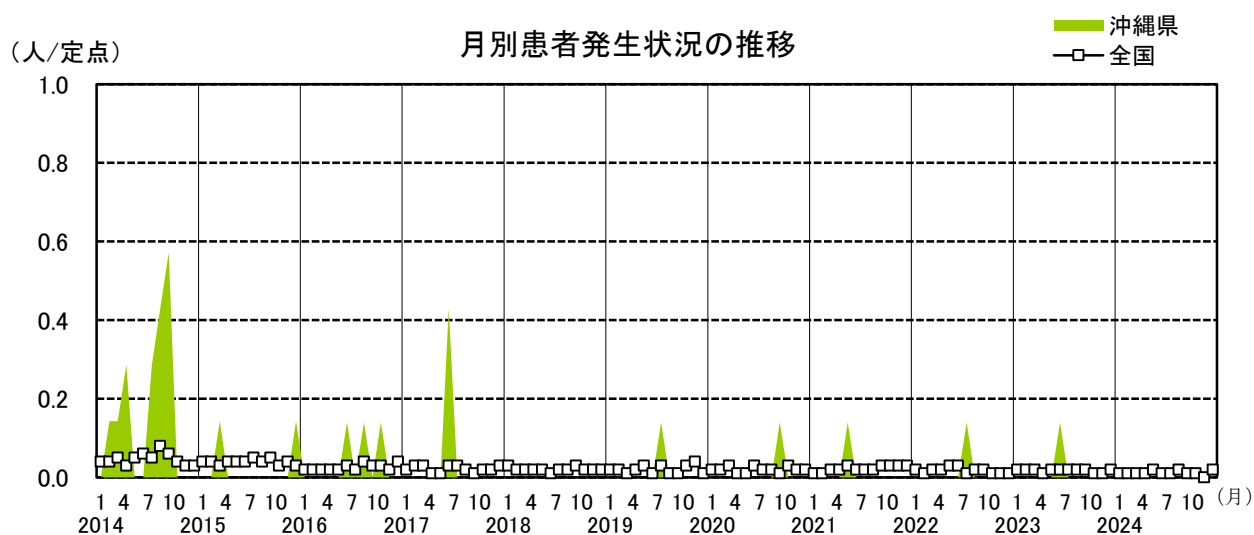


年齢階級別割合



●薬剤耐性緑膿菌感染症

2024年、沖縄県内の報告数は0人だった。定点当たり報告数は0.00人で2023年（0.14人）に比べ大幅に減少し、全国（2024年：0.15人）に比べ大幅に低い水準であった。



シーズン別の報告数合計： 薬剤耐性緑膿菌感染症

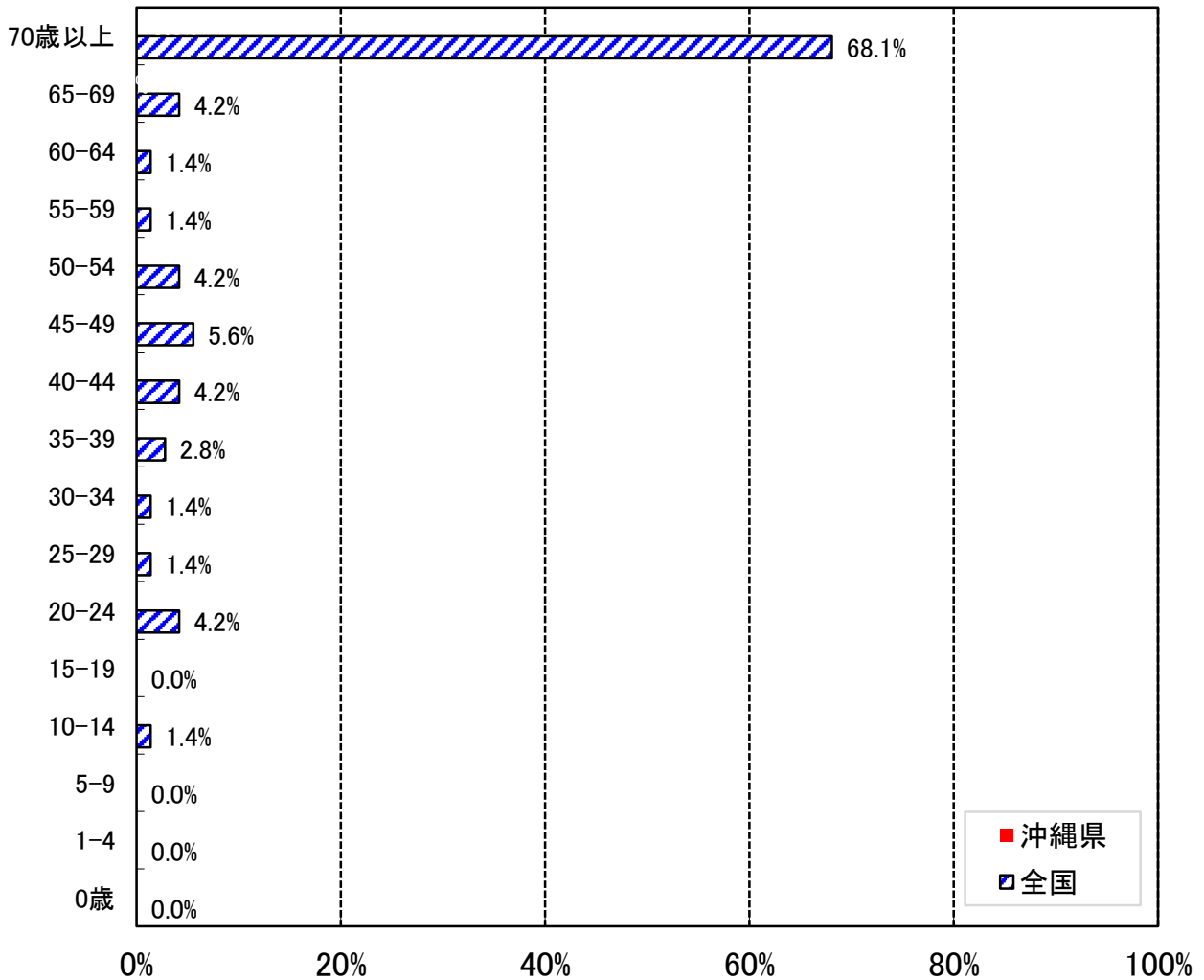
平均報告数	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1	1	1	1	0	0

薬剤耐性緑膿菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)

	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山	沖縄県
人/定点	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
報告数	0	0	0	0	0	0	0

年齢階級別割合



MEMO